

第11回 芸能実演家の活動と生活実態に関する調査

<実演家編>

結果速報

2025年6月



公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 [芸団協]

目次

■実演家部門 調査概要 [p.3](#)

■＜参考＞ 調査結果の見方 [p.4](#)

■結果速報 実演家

【活動に係る基礎情報】

A_1、A_2 活動分野 [p.6](#)

A_3 活動年数・報酬の年数 [p.9](#)

B_1 所属 [p.10](#)

B_2 年間の仕事量・日数 [p.13](#)

B_3 教える仕事の状況 [p.16](#)

B_4 年収 [p.20](#)

B_5 活動別収入割合、報酬形式 [p.22](#)

【時事的テーマ】

C_1 インボイス制度について [p.23](#)

C_3 フリーランス・事業者間取引適正化等法について [p.27](#)

【意識調査】

D_1 仕事の機会（2019年と比較して） [p.36](#)

D_2 芸能活動の収入割合の変化（2019年と比較して） [p.47](#)

D_3 2020年以降の芸能活動について [p.48](#)

D_4 仕事や環境に対する考え方 [p.49](#)

D_5 10年後も今の仕事を続けていきたいか [p.66](#)

D_6 技術・技能を向上させるための必要条件 [p.71](#)

D_7 安心して活動に取り組むために必要なこと [p.73](#)

D_8 会員組織に期待する役割 [p.74](#)

D_9 ケガや病気、老後への備え [p.76](#)

D_10 労災保険特別加入制度について（認知度、加入状況など） [p.77](#)

【生活に係る基礎情報】

E_1 年代、性別 [p.80](#)

E_2 最終学歴 [p.84](#)

E_3 家族、子どもの有無 [p.86](#)

■調査票 [p.88](#)

第11回実態調査概要 実演家部門

区分	実演家部門									
調査地域	全国									
調査方法	インターネットアンケート （日本芸能実演家団体協議会の正会員団体等の専門団体に所属している人々に対してメール配信し、WEB画面で回答をいただいた。）									
標本抽出	団体名簿による割り当て法									
対象配布数 回収数 回収率	日本芸能実演家団体協議会正会員団体、およびその傘下の芸術団体等に所属する実演家 (ジャンル別)									
		合計	邦楽・ 伝統音 楽	伝統演 劇	邦舞	洋楽	現代演 劇 (メディ ア含む)	洋舞	演芸	演出・ 制作・ その他
	配布数	10,089	1,738	619	1,115	2,797	1,653	1,168	496	503
	回収数	1,424	202	109	99	248	321 (うちメ ディア 168)	227	125	93
	回収率	14.1%	11.6%	17.6%	8.9%	8.9%	19.4%	19.4%	25.2%	18.5%
期間	令和7（2025）年3月1日（土）～4月1日（火）									
調査実施機 関	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会									
調査協力	株式会社インテージリサーチ									

<参考> 第10回調査概要

区分	実演家部門	
調査地域	全国	
調査方法	郵送法	
標本抽出	団体名簿による割り当て法	
対象配布数 回収数 回収率	日本芸能実演家団体協議会正会員団体、およびその傘下の芸術団体等に所属する実演家	
		合計
	配布数	6,645
	回収数	1,572
	回収率	23.7%
期間	令和元（2019）年8月10日（土）～9月2日（月）	
調査実施機関	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	
調査協力	株式会社インテージリサーチ	

＜参考＞ 調査結果の見方

- ① 報告書中の問番号および質問は、調査票の問番号および質問文をそのまま示している。また、本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、語句を簡略化している場合がある（詳細は、調査票参照）。
- ② 複数回答（回答はいくつでも）はMA：Multiple Answer、3つまで回答は3LA：Limited Answer、自由回答はFA：Free Answerと表記している。
なお、単数回答（回答は1つ、SA：Single Answer）は省略している。
- ③ 調査結果の数値は回答率（％）で示している。
％の母数は、その質問の回答数または属性別のTOTAL数で、「n＝」で表している。
- ④ 割合は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位まで示している。よって、「○は1つだけ」などの質問であっても、端数が影響し、回答率の合計値が100.0%にならない場合がある。
- ⑤ 複数回答の設問では、回答率（％）は回答数「n＝」に占める割合となっている。
したがって、回答割合を全て合計しても100.0%にならない場合がある。
- ⑥ 「ベース：～」はその設問の母数を示し、主に前問の結果から回答者が絞られる設問等に表示している。
- ⑦ 属性の回答者数では、傾向を分析する上で十分とは言えない30サンプル未満の結果も含まれるが、参考値として■のグレーの網掛けとして掲載している。

結果速報

実演家

QA_1_1 現在行っている活動（MA）／ QA_1_2 主たる活動

- 現在の活動は、「教える、指導をする」41.3%、「踊る・舞う」31.5%、「楽器を演奏する」30.5%が多い。
また、主たる活動は、「楽器を演奏する」が最も高く、19.3%。次いで、「踊る・舞う」17.2%、「劇やドラマを演じる」12.9%が続く。

	QA_1_1 現在行っている活動 (MA) %	QA_1_2 主たる活動と 考えているもの%
n=	1424	1424
劇やドラマを演じる	22.4	12.9
声で演じる・表現する	24.5	9.8
唸す・読む・語るなどの芸を演じる	17.0	7.2
楽器を演奏する	30.5	19.3
歌・唄・謡をうたう・語る	26.1	9.5
踊る・舞う	31.5	17.2
人形をあやつる	2.7	1.4
モデルとして表現する	2.2	0.1
司会・レポートなどを行う	7.4	0.1
教える、指導をする	41.3	10.0
アクション指導・構成をする	1.2	0.1
脚本、台本を書く	8.3	0.3
作詞、作曲・編曲をする	8.8	1.4
振付け、演出、指揮などをする	17.3	3.1
撮影・録音・録画を行う	9.1	0.1
録音・録画されたものを編集する	6.7	0.1
舞台監督をする	3.4	0.1
美術、照明、音響などのプランをつくる	4.3	0.1
大道具、照明、音響などの操作をする	3.3	0.0
小道具、衣装などをつくる	6.3	0.0
企画をたてる、制作をする	20.6	3.2
主宰、団体運営・経営をする	15.8	2.1
劇場・ホールの管理をする	0.8	0.0
その他	2.8	1.9

QA_1_1 あなたが現在なさっている活動として、あてはまるものすべてを選んでください。※回答必須ご自身と仕事との関わりについて伺います。
QA_1_2 また、そのうち、あなたが主たる活動だと考えているものを一つだけ選んでください。※回答必須ご自身と仕事との関わりについて伺います。

QA_2_1 携わっている分野（MA）／ QA_2_2 主たる分野

- 携わっている分野では、「放送（テレビ、ラジオ等）・スタジオ」13.1%、「現代演劇・新劇」11.7%、「日本舞踊」11.0%が多い。
主たる分野では、「オーケストラ・吹奏楽」「日本舞踊」が最も高く、6.8%。次いで、「現代舞踊・コンテンポラリーダンス」6.7%が続く。

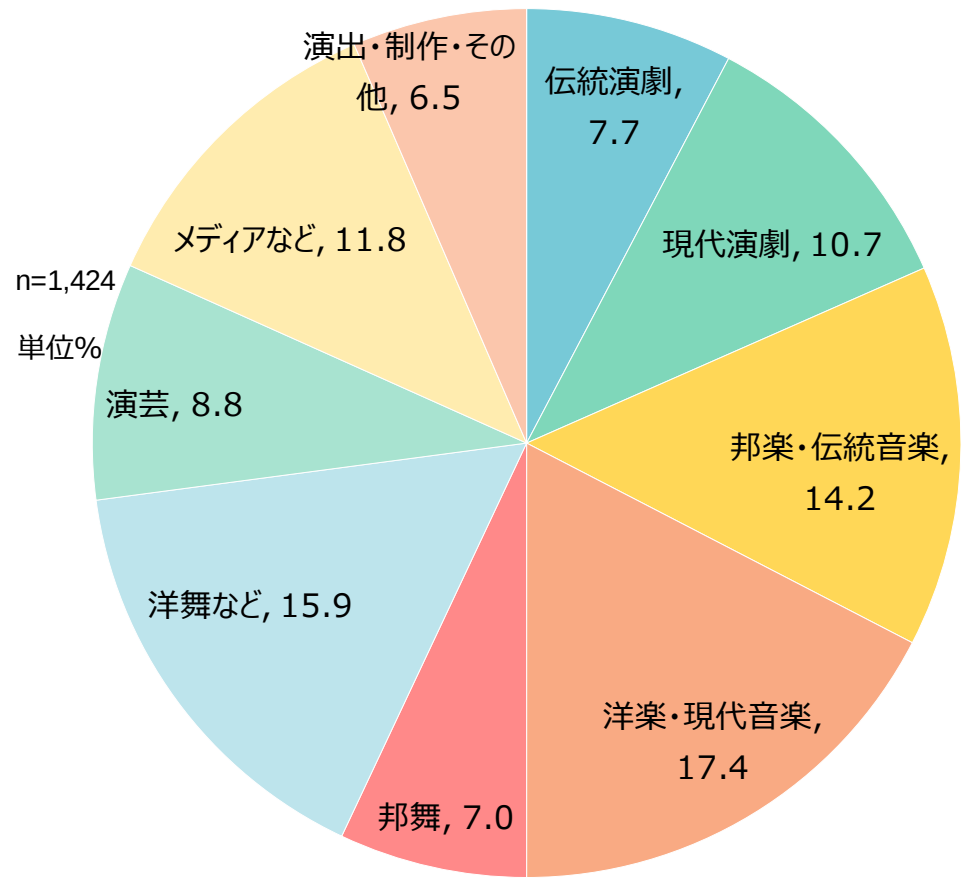
	QA_2_1 携わっている分野 (MA) %	QA_2_2 主たる分野と 考えているもの%
n=	1424	1424
「伝統演劇」		
能楽	6.6	5.9
人形浄瑠璃・文楽	0.6	0.1
組踊	0.8	0.1
歌舞伎	3.6	1.6
「現代演劇」		
現代演劇・新劇	11.7	5.3
商業演劇	5.1	1.1
小劇場系演劇	8.6	2.7
児童・青少年演劇	4.1	1.4
人形劇	3.2	2.5
影絵	0.1	0.0
ミュージカル	6.0	1.1
「伝統音楽・和楽器」		
雅楽	1.2	1.1
琵琶	0.2	0.1
義太夫	0.8	0.3
常磐津	1.5	0.6
清元	1.5	0.7
新内	0.6	0.4
古曲	1.6	0.4
長唄	5.2	3.2
囃子	2.1	0.5
小唄	2.1	0.8
三曲	5.7	5.1
民謡	1.0	0.0
琉球古典音楽	0.7	0.5
その他和楽器を使用した音楽	2.3	0.6

	QA_2_1 携わっている分野 (MA) %	QA_2_2 主たる分野と 考えているもの%
n=	1424	1424
「洋楽・現代音楽」		
オーケストラ・吹奏楽	9.0	6.8
室内楽	6.9	0.8
オペラ・オペレッタ	6.9	1.9
合唱	4.4	0.6
ソロ（演奏）	7.3	2.2
ソロ（歌唱）	6.2	2.8
ジャズ	2.2	0.0
J-POP・フォーク	6.0	1.0
ロック・ソウル・R&B	3.9	0.7
ダンス・ヒップホップミュージック	2.9	0.4
民族音楽	2.5	0.4
演歌・流行歌	2.8	0.4
その他の洋楽・現代音楽	1.5	0.6
「邦舞」		
日本舞踊	11.0	6.8
琉球舞踊	0.6	0.3
「洋舞など」		
バレエ	6.0	3.8
現代舞踊・コンテンポラリーダンス	8.9	6.7
ジャズダンス	1.5	0.0
児童舞踊	1.3	0.6
舞踏	0.8	0.0
フラメンコ	5.2	4.6
ベリーダンス	1.5	1.3
パントマイム	0.5	0.0
パフォーマンス	1.9	0.1
その他の舞踊	0.7	0.2

	QA_2_1 携わっている分野 (MA) %	QA_2_2 主たる分野と 考えているもの%
n=	1424	1424
「演芸」		
落語	5.1	4.3
講談	1.1	0.7
浪曲	0.2	0.0
漫才	1.8	1.6
漫談	1.0	0.3
奇術	1.8	1.8
曲芸・太神楽	0.1	0.0
クラウン	0.6	0.1
物真似	0.2	0.0
司会	2.8	0.0
「メディアなど」		
映画	8.2	0.7
放送（テレビ、ラジオ等）・スタジオ	13.1	1.8
録音・スタジオ録画	9.0	1.2
ビデオ、DVD	5.1	0.0
外国映画、アニメ	9.1	5.3
ミュージックビデオ	1.3	0.0
インターネットTV・配信	7.4	0.4
CM	9.5	0.6
ナレーション	9.6	1.8
ショー・イベント・プロモーション	3.5	0.2
モデル	1.1	0.1
その他	1.1	0.3

主なジャンル（QA_1_2 主たる活動／QA_2_2 主たる分野からの振り分け）

- なお、主たる分野の回答よりジャンル分けした結果は以下のとおり。
「洋楽・現代音楽」17.4%、「洋舞など」15.9%、「邦楽・伝統音楽」14.2%、「メディアなど」11.8%、「現代演劇」10.7%と続く。



*** ジャンルの振り分け**
主に「QA_2_2 主たる分野」の中区分からの振り分け。

ジャンル『演出・制作・その他』については、「QA_1_2 主たる活動」の「振付け、演出、指揮などをする」「企画をたてる、制作をする」を回答した者を振り分け。

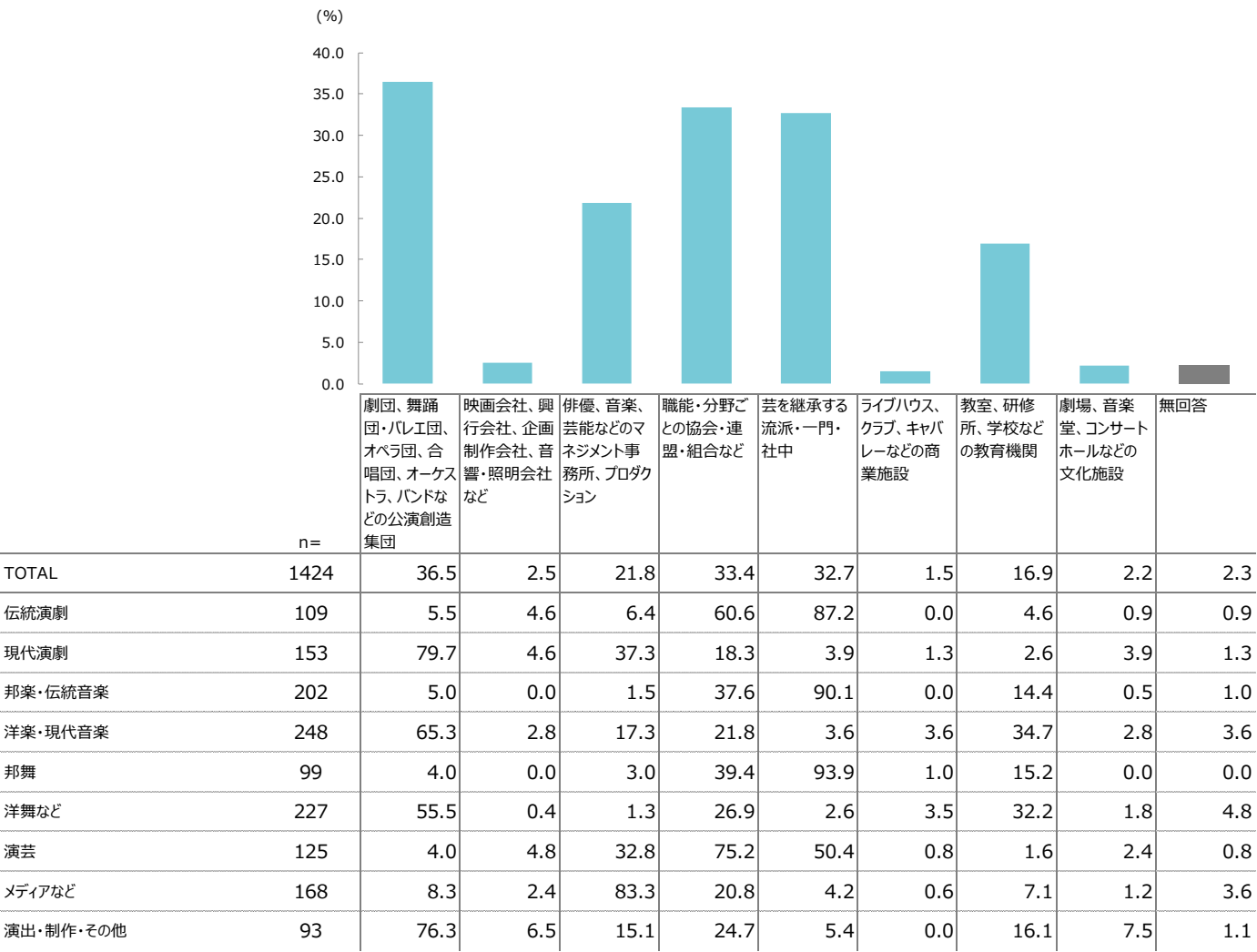
QA_3 活動分野・報酬の年数

- 活動分野に関わり始めてからの年数は、平均32.2年（TOTAL値）。「邦楽・伝統音楽」39.6年、「伝統演劇」38.2年などが長い。対して「演芸」23.3年は短め。
- 報酬を得るようになってからの年数は、平均22.1年（TOTAL値）。
- 活動を始めから、報酬が得られるようになるまでの平均年数は、TOTALで10.1年。「邦舞」は23.0年で最も長い。「現代演劇」、「演芸」、「メディアなど」は、5年未満と短め。

n=1424	平均年数									
	TOTAL	伝統演劇	現代演劇	邦楽・伝統音楽	洋楽・現代音楽	邦舞	洋舞など	演芸	メディアなど	演出・制作・その他
活動分野に関わり始めてからの年数	32.2	38.2	29.0	39.6	33.9	43.7	27.1	23.3	29.3	27.8
報酬を得るようになってからの年数	22.1	28.1	24.0	21.6	25.9	20.7	13.8	19.8	25.8	21.0
報酬が得られるようになるまでの平均年数 (活動分野に関わり始めてからー報酬を得るようになってから)	10.1	10.1	5.0	18.0	8.0	23.0	13.3	3.5	3.5	6.8

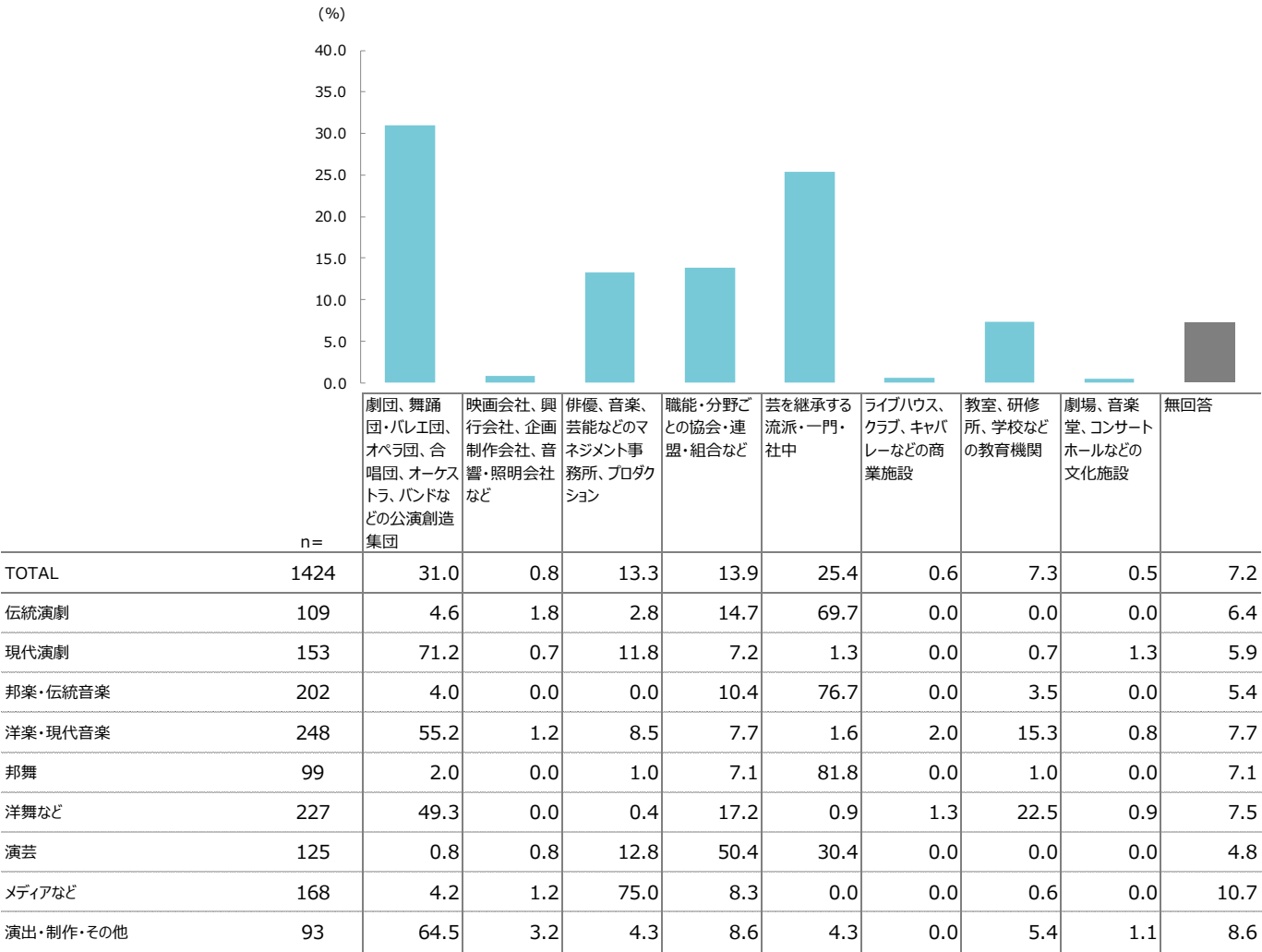
QB_1_1 所属している集団・流派・組織（MA）

- 所属している集団・流派・組織は、「劇団・舞踊団・バレエ団、オペラ団、合唱団、オーケストラ、バンドなどの公演創造集団」36.5%、「職能・分野ごとの協会・連盟・組合など」33.4%、「芸を継承する流派・一門・社中」32.7%などに所属している割合が高い。



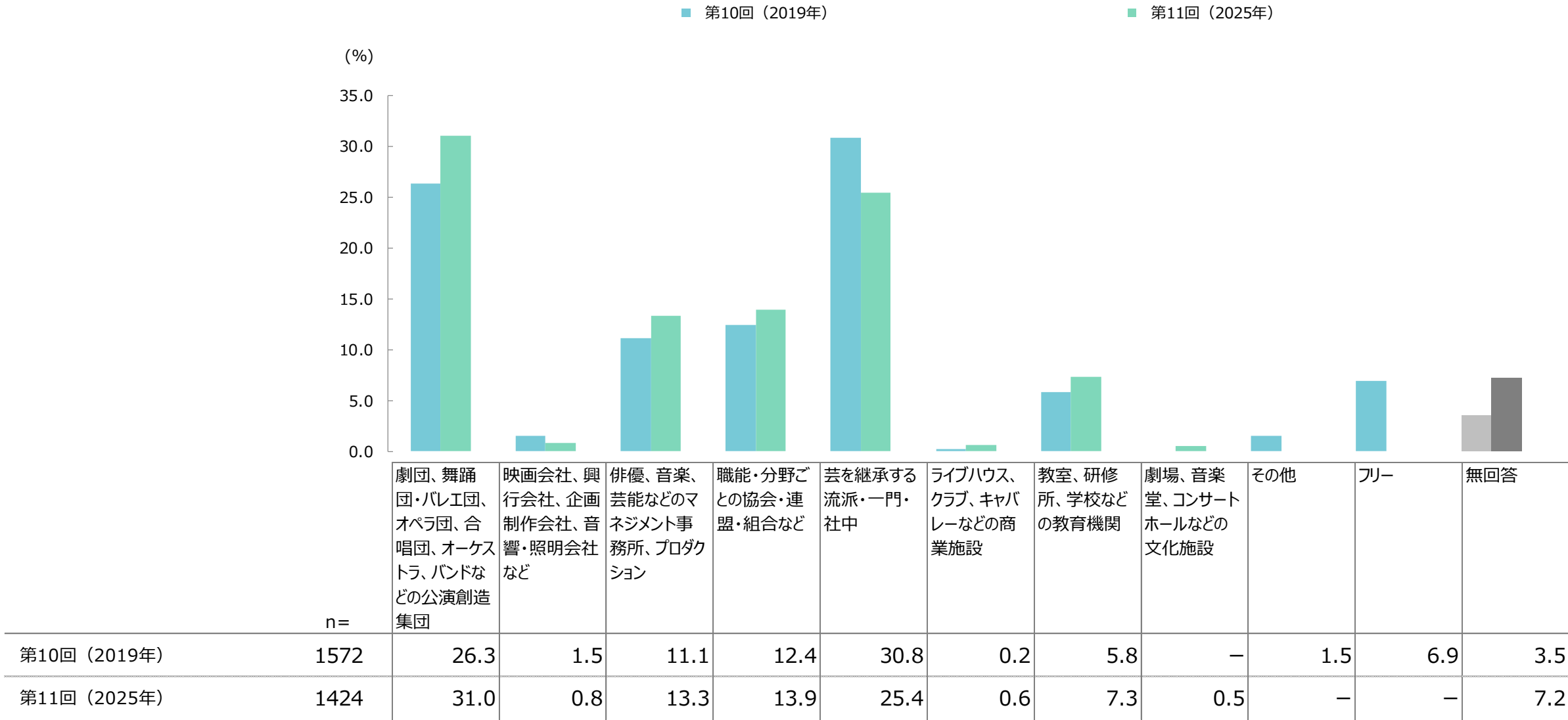
QB_1_2 最も関係が深い所属している集団・流派・組織

- 最も関係が深い所属している集団・流派・組織では、「劇団、舞踊団・バレエ団、オペラ団、合唱団、オーケストラ、バンドなどの公演創造集団」31.0%が最も多く、次いで「芸を継承する流派・一門・社中」25.4%、「職能・分野ごとの協会・連盟・組合など」13.9%と続く。
- ジャンル別にみると、伝統的な分野（伝統演劇、邦楽・伝統音楽、邦舞、演芸）では「芸を継承する流派・一門・社中」に所属する割合が高く、現代的な分野（現代演劇、洋楽・現代音楽、洋舞など）では「劇団、舞踊団・バレエ団、オペラ団、合唱団、オーケストラ、バンドなどの公演創造集団」に所属する割合が高い。またメディアなどでは、「俳優、音楽、芸能などのマネジメント事務所、プロダクション」に所属する割合が高く、それぞれのジャンルの特徴的な傾向を示している。



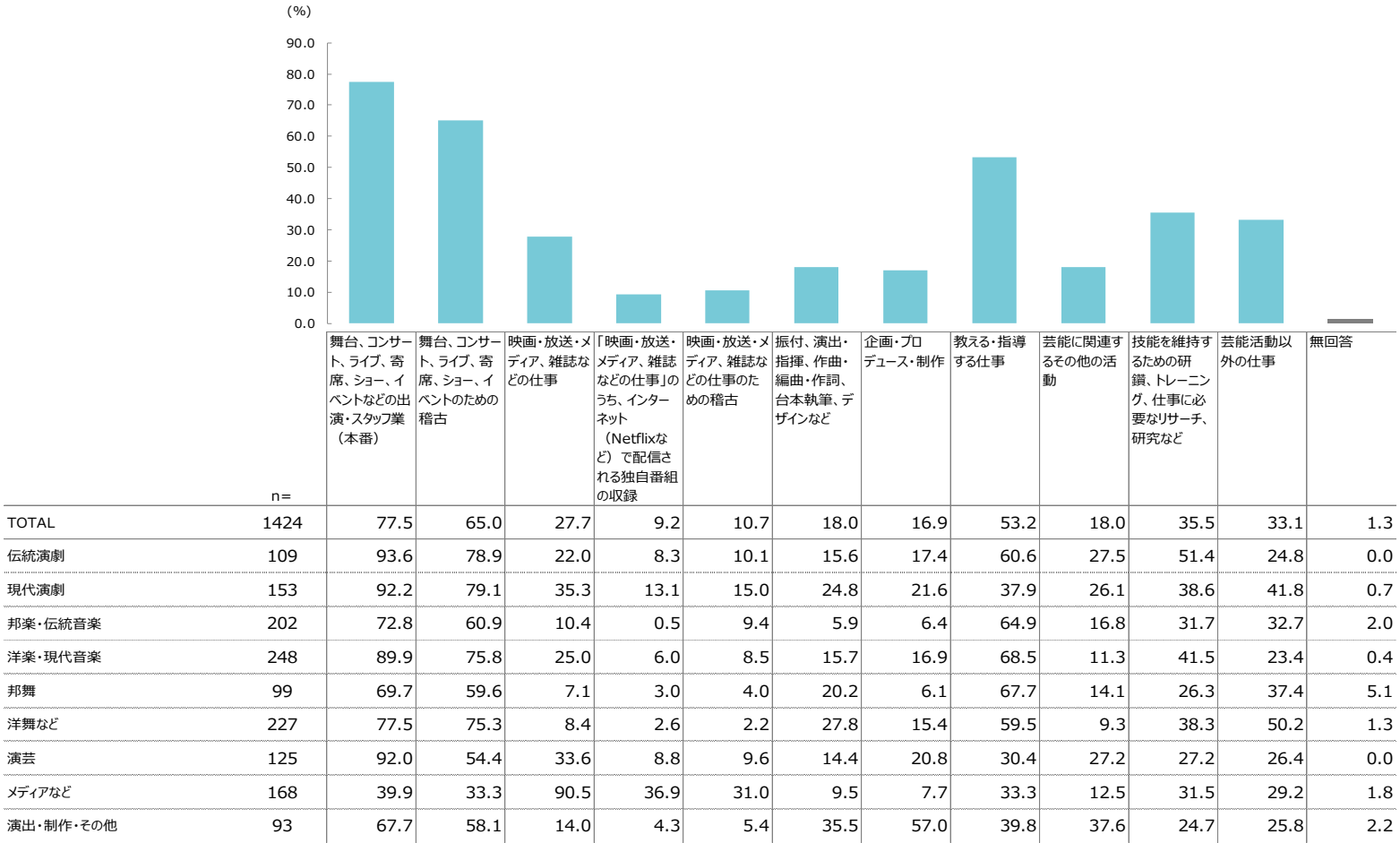
QB_1_2 最も関係が深い所属している集団・流派・組織

- 第11回調査では第10回調査に対して、「劇団、舞踊団・バレエ団、オペラ団、合唱団、オーケストラ、バンドなどの公演創造集団」の割合が26.3%から31.0%に増加、一方、「芸を継承する流派・一門・社中」が30.8%から25.4%に減少している。



QB_2 昨年 1 年間に行なった仕事（MA）

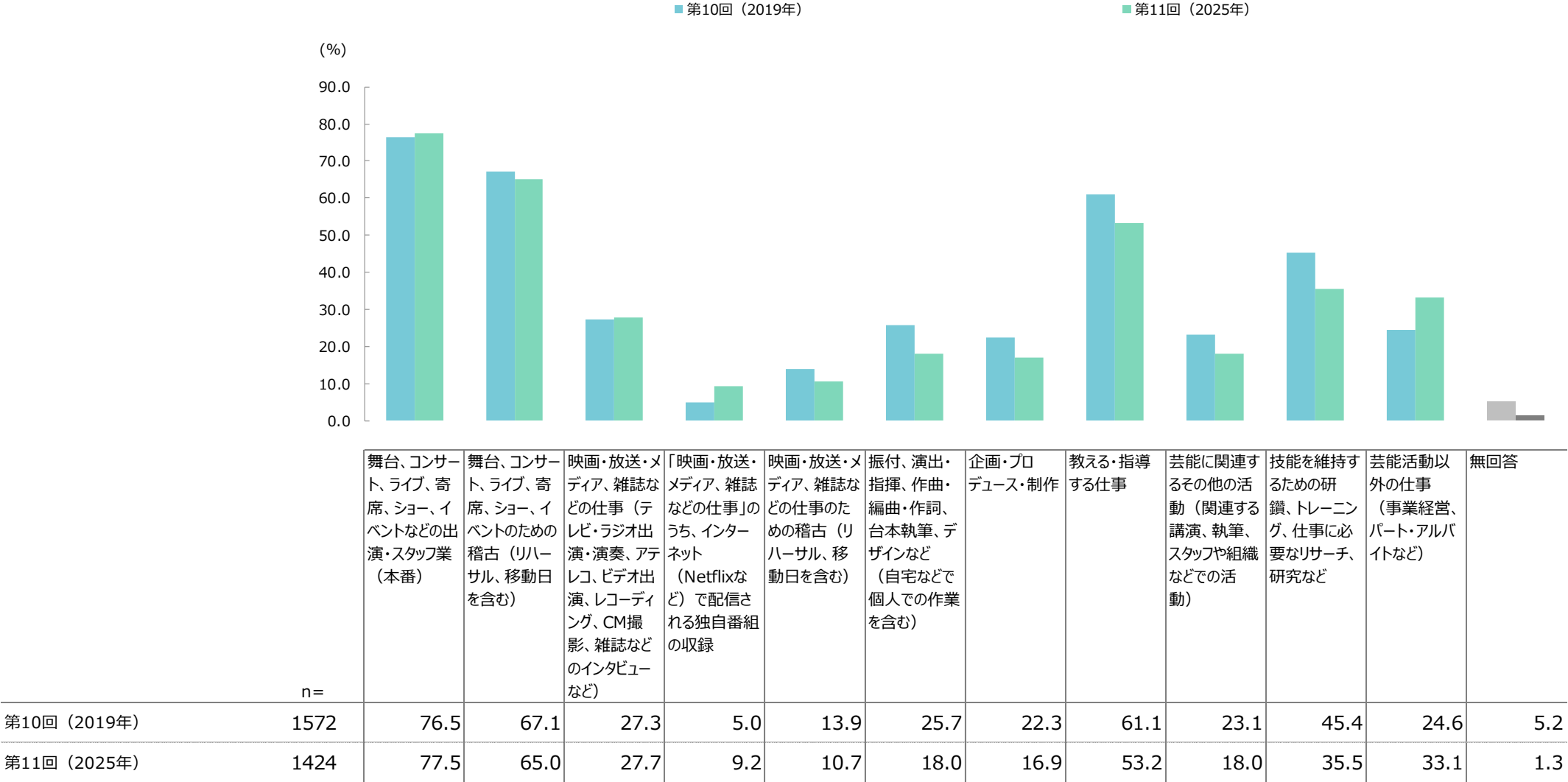
- 昨年 1 年間に行なった仕事では、「舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業（本番）」が77.5%と最も多く、次いで「舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントのための稽古」65.0%、「教える・指導する仕事」53.2%と続く。
- ジャンル別にみると、伝統演劇では「舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業（本番）」93.6%や「技能を維持するための研鑽、トレーニング、仕事に必要なリサーチ、研究など」51.4%、邦楽・伝統音楽では「教える・指導する仕事」64.9%、メディアなどでは「映画・放送・メディア、雑誌などの仕事」90.5%、「インターネット（Netflixなど）で配信される独自番組の収録」36.9%、演出・制作・その他のカテゴリーでは「企画・プロデュース・制作」57.0%が他のジャンルより高い割合を示している。
- 「芸能活動以外の仕事」が高いのは洋舞で、50.2%と半数以上が該当する。同様に現代演劇も41.8%とやや高い傾向にある。



QB_2 あなたが昨年1年間（2024年1月から12月末まで）に行なった芸能に関わる仕事と、それ以外の仕事について、あてはまるものすべてを選んでください。
また、昨年1年間にそれぞれのお仕事にあなたが費やしたおおよその日数をお答えください。※1日の活動時間が数十分～数時間程度の仕事でも「1日」としてカウントしてください。

QB_2 昨年 1 年間に行なった仕事（MA）

- 第11回調査では第10回調査に対して、「インターネットで配信される独自番組の収録」の割合が5.0%から9.2%に増加しており、オンラインコンテンツの需要の高まりが示唆される。
- 「教える・指導する仕事」の割合は、第10回61.1%から第11回53.2%に減少しており、教育・指導分野での仕事に変化がみられる。
- 「芸能活動以外の仕事」の割合は、第10回24.6%から第11回33.1%に増加しており、副業や兼業の傾向が強まっている可能性がある。



QB_2 あなたが昨年1年間（2024年1月から12月末まで）に行なった芸能に関わる仕事と、それ以外の仕事について、あてはまるものすべてを選んでください。また、昨年1年間にそれぞれのお仕事にあなたが費やしたおおよその日数をお答えください。※1日の活動時間が数十分～数時間程度の仕事でも「1日」としてカウントしてください。

QB_2 昨年 1 年間に行なった仕事（日数）

- 昨年 1 年間に行なった仕事（日数）では、「芸能活動以外の仕事（事業経営、パート・アルバイトなど）」が最も多く166.8日。次いで「技能を維持するための研鑽、トレーニング、仕事に必要なリサーチ、研究など」158.3日、「教える・指導する仕事」99.7日と続く。
- どのジャンルも、「芸能活動以外の仕事（事業経営、パート・アルバイトなど）」や「技能を維持するための研鑽、トレーニング、仕事に必要なリサーチ、研究など」は100日を超えている。

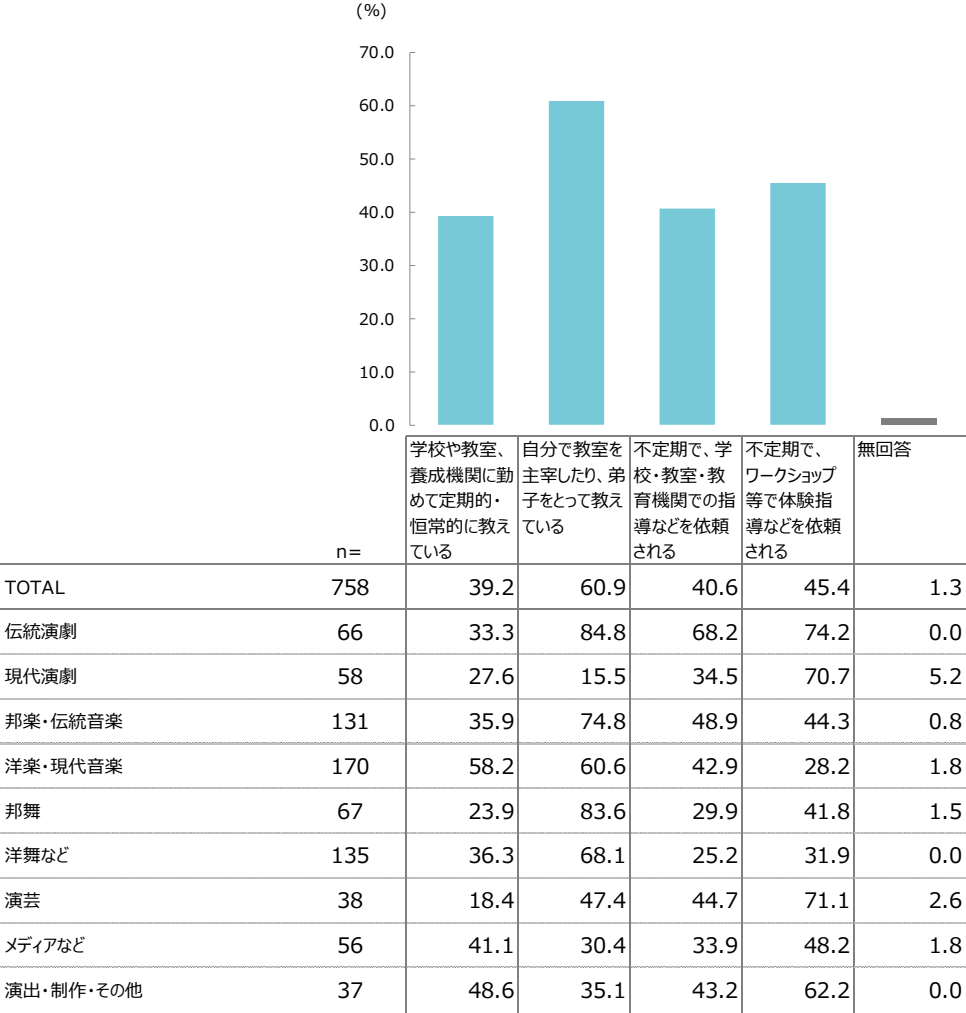
※1日の活動時間が数十分～数時間程度の仕事も「1日」としてカウントするため、一人当たりの活動日数が365日を超える場合もある。
■は100日以上を示す。

n=1424	活動平均日数									
	TOTAL	伝統演劇	現代演劇	邦楽・伝統音楽	洋楽・現代音楽	邦舞	洋舞など	演芸	メディアなど	演出・制作・その他
舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業（本番）	58.0	95.0	71.8	28.9	64.2	15.1	19.0	143.4	25.0	48.6
舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントのための稽古（リハーサル、移動日を含む）	90.7	76.5	87.0	57.4	104.6	60.6	116.7	128.6	42.0	101.6
映画・放送・メディア、雑誌などの仕事（テレビ・ラジオ出演・演奏、アテレコ、ビデオ出演、レコーディング、CM撮影、雑誌などのインタビューなど）	43.0	16.4	28.4	5.0	14.9	3.9	5.8	25.7	82.2	21.1
「映画・放送・メディア、雑誌などの仕事」のうち、インターネット(Netflixなど)で配信される独自番組の収録	32.4	33.7	16.4	30.0	9.9	3.0	10.5	10.7	51.3	16.0
映画・放送・メディア、雑誌などの仕事のための稽古（リハーサル、移動日を含む）	52.2	34.2	30.2	35.9	16.0	10.5	76.8	17.9	98.6	16.6
振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザインなど（自宅などで個人での作業を含む）	90.4	78.5	74.6	59.0	65.4	53.5	130.4	70.7	51.0	131.1
企画・プロデュース・制作	84.4	48.6	88.1	68.3	78.8	62.2	78.5	38.0	85.8	132.3
教える・指導する仕事	99.7	106.1	41.4	96.3	93.5	109.4	171.1	21.9	52.3	93.1
芸能に関連するその他の活動（関連する講演、執筆、スタッフや組織などでの活動）	51.0	54.3	47.2	32.2	32.5	13.5	77.3	59.7	57.8	72.2
技能を維持するための研鑽、トレーニング、仕事に必要なリサーチ、研究など	158.3	152.5	119.1	128.6	208.8	140.1	161.3	156.6	165.2	125.3
芸能活動以外の仕事（事業経営、パート・アルバイトなど）	166.8	104.6	130.8	179.1	126.1	178.7	221.3	135.1	167.0	162.5

QB_3a 教える（指導・教授）仕事の状況（MA）

【ベース：QB_2で、指導者・教授を選択した人】

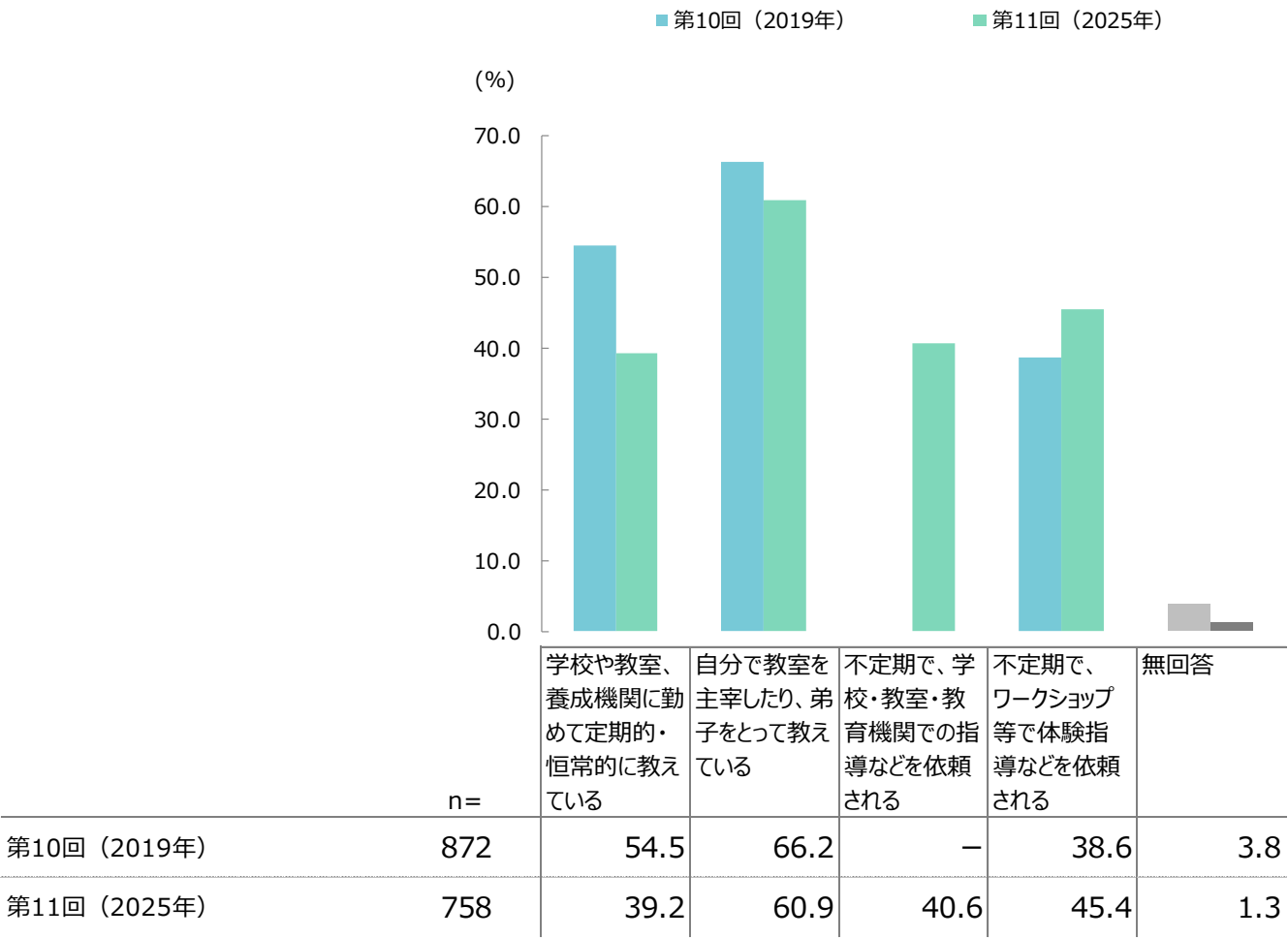
- 教える（指導・教授）仕事の状況は、「自分で教室を主宰したり弟子をとって教えている」が60.9%と最も高く、次いで「不定期で、ワークショップ等で体験指導などを依頼される」45.4%、「不定期で、学校・教室・教育機関での指導などを依頼される」40.6%が続く。「学校や教室、養成機関に勤めて定期的・恒常的に教えている」は39.2%と低い。
- ジャンル別にみると、伝統演劇、邦舞、邦楽・伝統音楽では、「自分で教室を主宰したり、弟子をとって教えている」が70%以上と非常に高い。現代演劇、演芸、演出・制作・その他では「不定期で、ワークショップ等で体験指導などを依頼される」、洋楽・現代音楽では「学校や教室、養成機関に勤めて定期的・恒常的に教えている」が高い傾向にある。



QB_3a 教える（指導・教授）仕事の状況（MA）

【ベース：QB_2で、指導者・教授を選択した人】

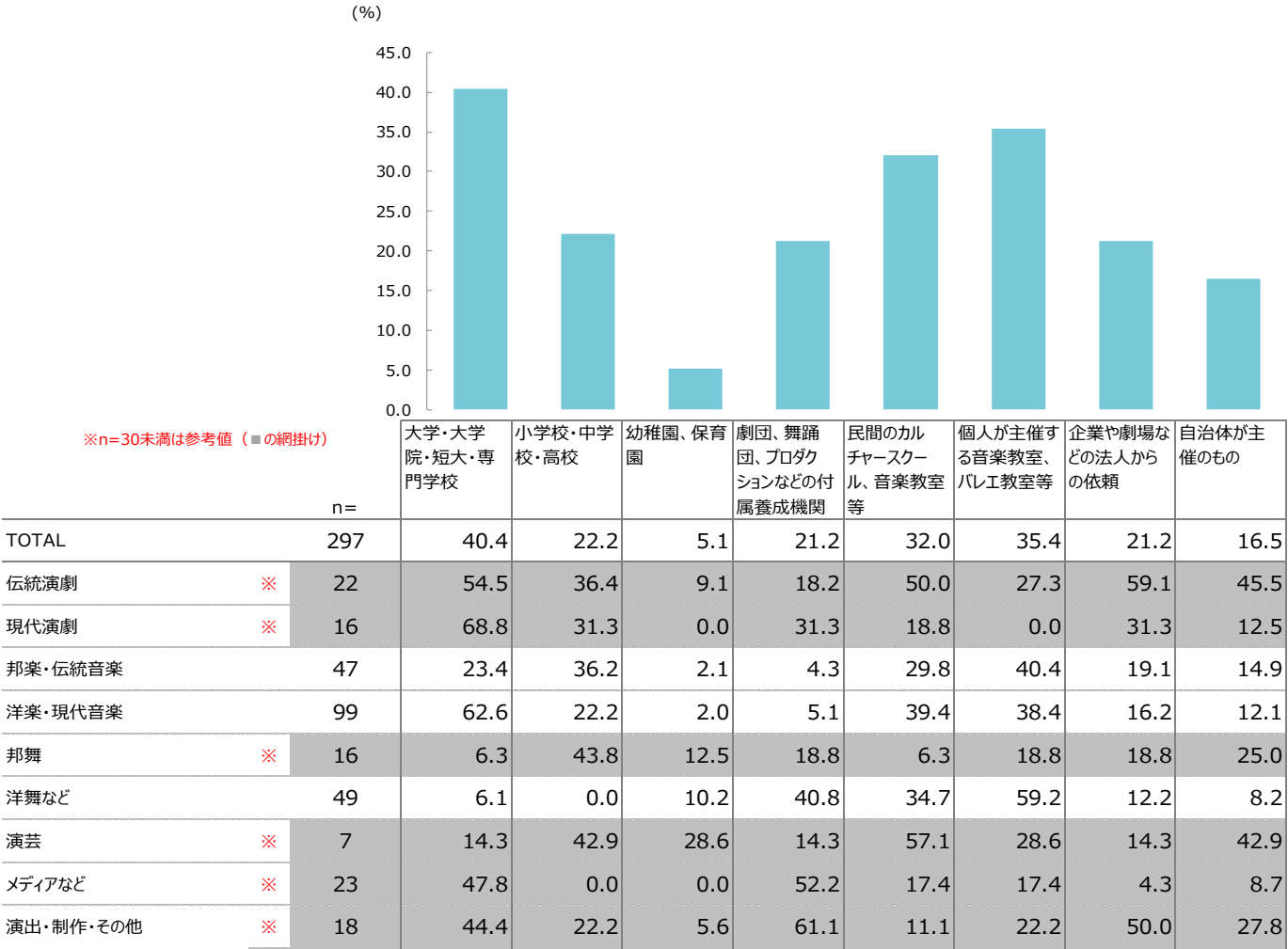
- 「学校や教室、養成機関に勤めて定期的・恒常的に教えている」は、第10回54.5%から第11回39.2%と大幅に減少している。
同様に、「自分で教室を主宰したり、弟子をとって教えている」は、両回で最も高い割合を示しているが、第10回66.2%から第11回60.9%とやや減少傾向。
- 一方、「不定期で、ワークショップ等で体験指導などを依頼される」は、第10回38.6%から第11回45.4%と増加傾向。



QB_3b 現在勤めて教えている学校、教室の種類（MA）

【ベース：QB_3aで、勤めて教えていると回答した人】

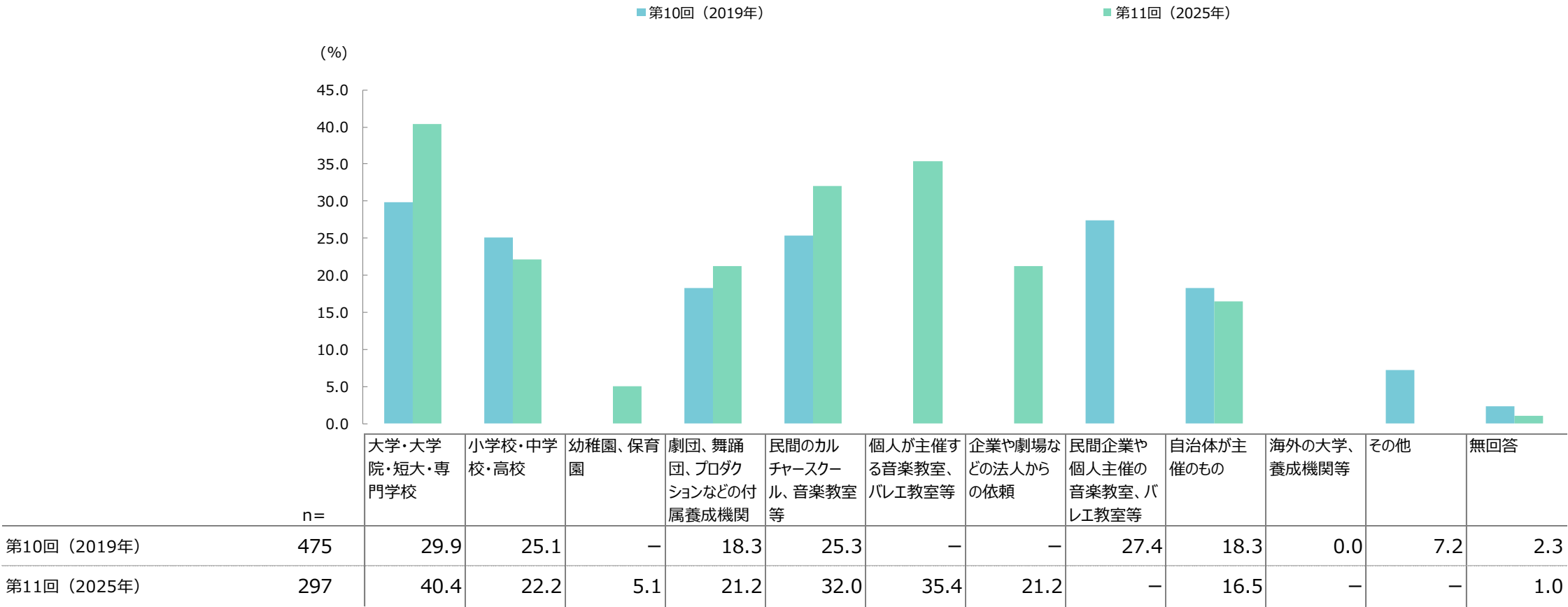
- 現在勤めて教えている学校、教室の種類では、「大学・大学院・短大・専門学校」40.4%、「個人が主催する音楽教室・バレエ教室等」35.4%、「民間のカルチャースクール・音楽教室等」32.0%が上位を占める。
- ジャンル別にみると、邦楽・伝統音楽では「個人が主催する音楽教室・バレエ教室等」40.4%、「小学校・中学校・高校」36.2%などが高く、洋楽・現代音楽では「大学・大学院・短大・専門学校」62.6%、「民間のカルチャースクール・音楽教室等」39.4%、「個人が主催する音楽教室・バレエ教室等」38.4%など。洋舞などでは「個人が主催する音楽教室・バレエ教室等」59.2%、「劇団、舞蹈団、プロダクションなどの附属養成機関」40.8%が高い割合となっている。



QB_3b 現在勤めて教えている学校、教室の種類（MA）

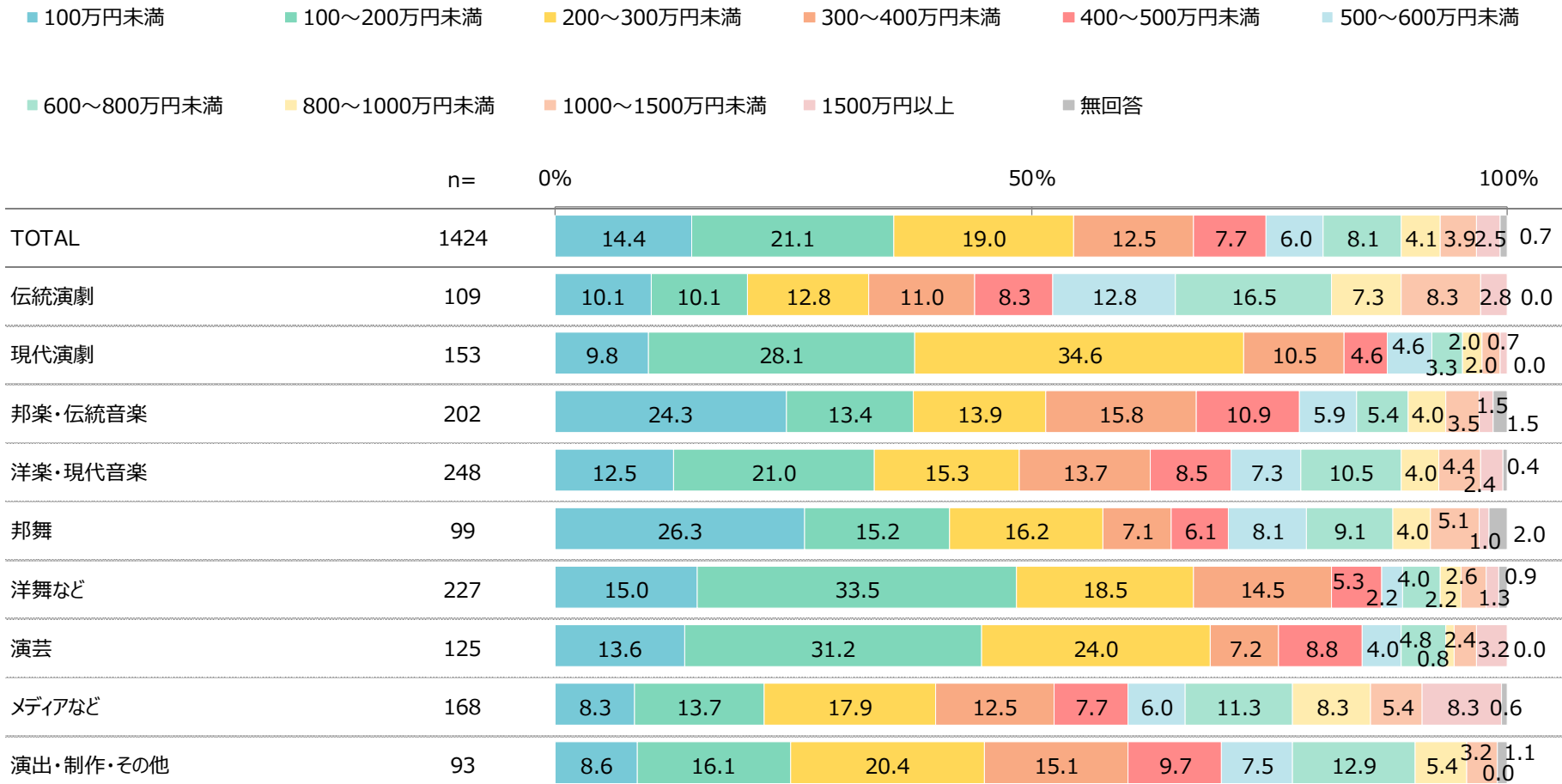
【ベース：QB_3aで、勤めて教えていると回答した人】

- 第10回から第11回の変化として、「小学校・中学校・高校」や「自治体が主催のもの」はやや減少、「大学・大学院・短大・専門学校」や「民間のカルチャースクール、音楽教室等」、「劇団、舞踊団、プロダクションなどの付属養成機関」は増加の傾向となっている。



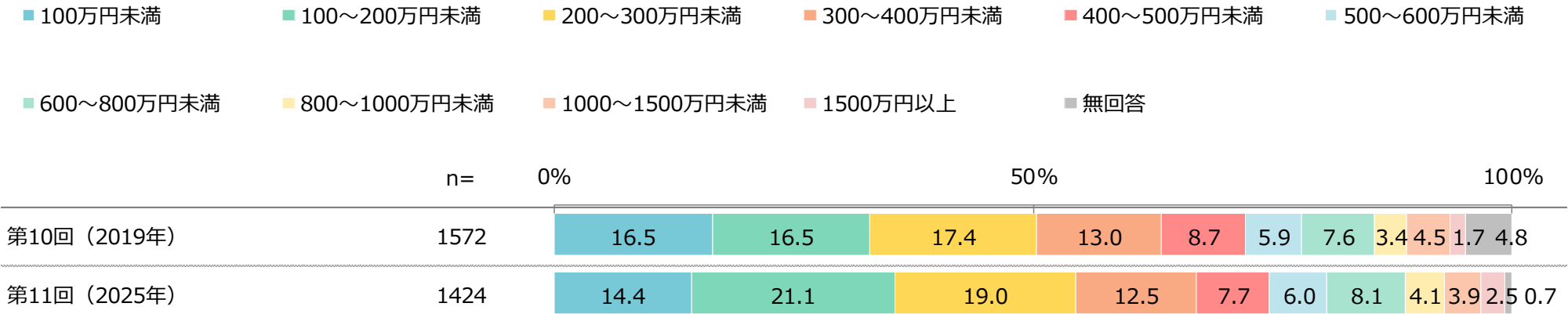
QB_4 昨年 1 年間の個人収入

- 昨年 1 年間の個人収入は、「100～200万円未満」が21.1%と最も多く、次いで「200～300万円未満」19.0%、「100万円未満」14.4%と続く。中央値は「200～300万円」で、全体の約54%が300万円未満の収入となっている。
- ジャンル別にみると、伝統演劇やメディアなどが高収入の傾向がみられる。一方で、現代演劇や演芸、洋舞などは低～中収入層の割合が多い。邦楽・伝統音楽、洋楽・現代音楽、邦舞では、プロフェッショナル層から愛好家まで幅広く存在するためか、300万円未満と300万円以上に分散する傾向がみられる。



QB_4 昨年 1 年間の個人収入

- 第11回で割合が増えたのは「100～200万円未満」16.5%→21.1%、「200～300万円未満」17.4%→19.0%であり、全体として300万円未満層が50.4%から54.5%に増加している。



QB_5 昨年 1 年間の活動別収入の割合／QB_6 得ている報酬の形式別割合

昨年 1 年間の活動別収入の割合

n=1424	平均%									
	TOTAL	伝統演劇	現代演劇	邦楽・伝統音楽	洋楽・現代音楽	邦舞	洋舞など	演芸	メディアなど	演出・制作・その他
舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業	31.4	52.0	46.4	20.3	49.4	8.0	14.8	64.7	8.4	21.4
映画・放送・メディアの出演・スタッフ業	7.5	1.4	6.4	0.4	1.5	0.0	0.3	3.7	48.5	3.6
振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザイン、企画・プロデュース・制作	4.4	2.3	5.6	1.1	2.8	1.2	3.6	2.1	2.1	29.2
教える・指導する仕事	20.4	19.1	6.5	26.0	26.4	30.3	34.6	3.3	9.6	13.6
原稿料、著作権料、著作隣接権料	0.9	0.4	0.4	0.2	1.7	0.0	0.0	1.1	2.5	1.6
芸能に関連するその他の仕事	3.2	2.3	5.4	2.1	1.6	1.2	1.5	6.4	4.5	6.9
不動産、その他の事業経営	2.2	1.1	2.5	4.3	0.7	7.3	0.9	1.1	2.6	1.2
年金	4.9	10.0	3.7	12.2	3.5	8.7	0.7	3.4	2.0	2.8
上記以外の収入（芸能に関連しない仕事を含む）	23.4	11.3	22.4	31.0	11.1	39.2	40.5	14.2	18.6	17.6

得ている報酬の形式別割合

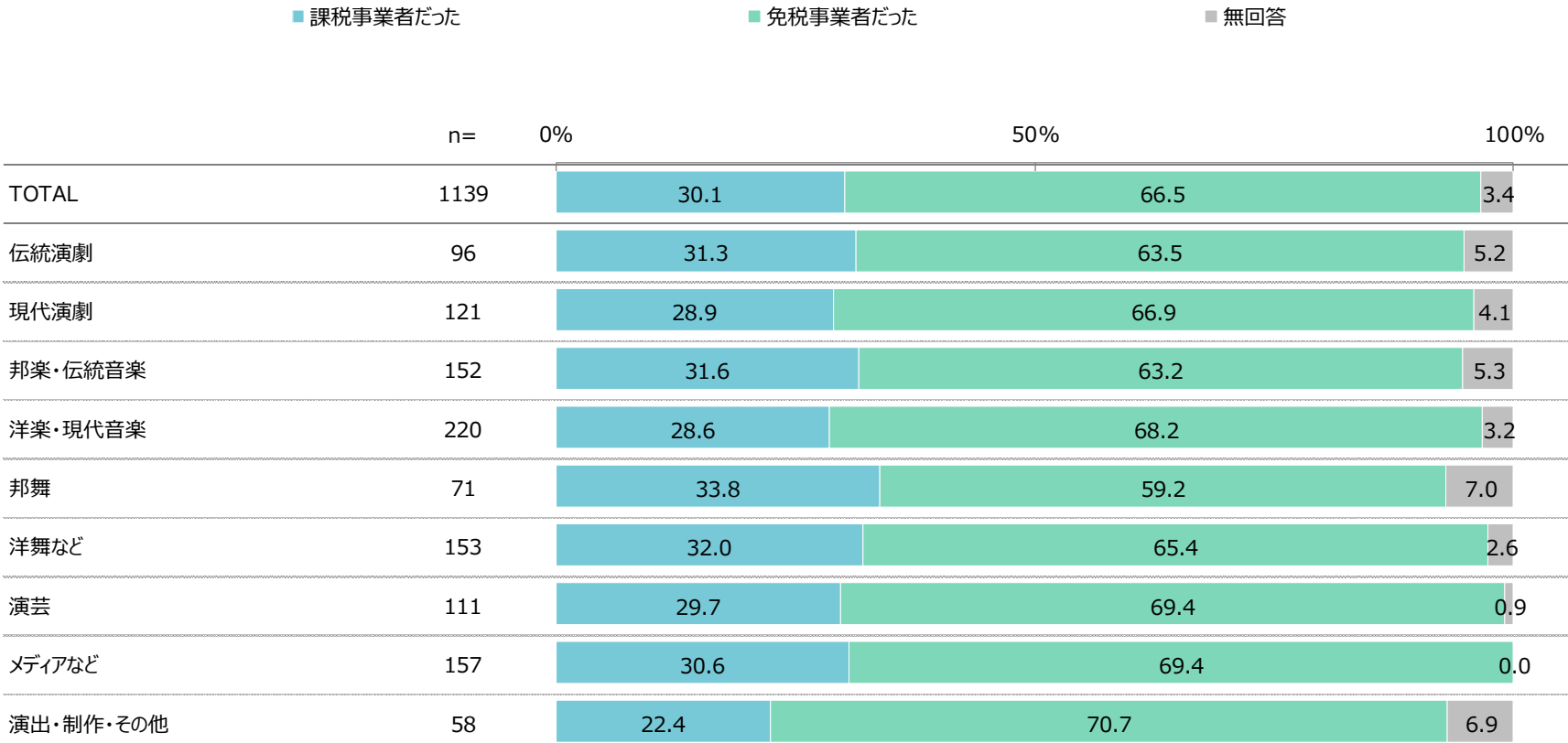
n=1424	平均%									
	TOTAL	伝統演劇	現代演劇	邦楽・伝統音楽	洋楽・現代音楽	邦舞	洋舞など	演芸	メディアなど	演出・制作・その他
雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金	34.4	23.1	40.2	34.3	40.8	34.4	44.0	18.0	16.2	53.6
業務委託による、年俸などのあらかじめ決められた報酬	5.7	9.2	6.4	4.0	7.5	3.7	3.3	7.5	4.7	6.9
業務委託による、仕事に応じて支払われる報酬（月間・年間であらかじめ金額が決められてはいない報酬）	34.2	37.3	39.9	25.3	33.0	14.7	17.9	57.6	63.4	20.1
事業運営による収入（自らが主催）	12.7	10.4	4.4	15.6	10.3	19.1	26.5	7.6	4.8	9.7
会社経営による報酬	3.0	2.8	2.8	2.1	1.6	5.0	3.6	2.9	4.0	3.3
その他（著作権料・著作隣接権料、不動産、年金など）	6.1	12.6	5.0	10.7	4.0	16.0	1.3	3.2	5.1	3.2

QB_5 あなた個人の昨年1年間（2024年1月から12月末まで）の年収を、仕事の種類別に分けると、どのような割合になりますか。おおよその割合を入力してください。
QB_6 あなたが得ている報酬を、形式別に分けると、どのような割合になりますか（芸能以外の収入も含む）。おおよその数字を欄内に入力してください。

QC_1a インボイス制度の導入以前は課税事業者だったか

【ベース：QB_6で、「雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金」以外の報酬を得ている人】

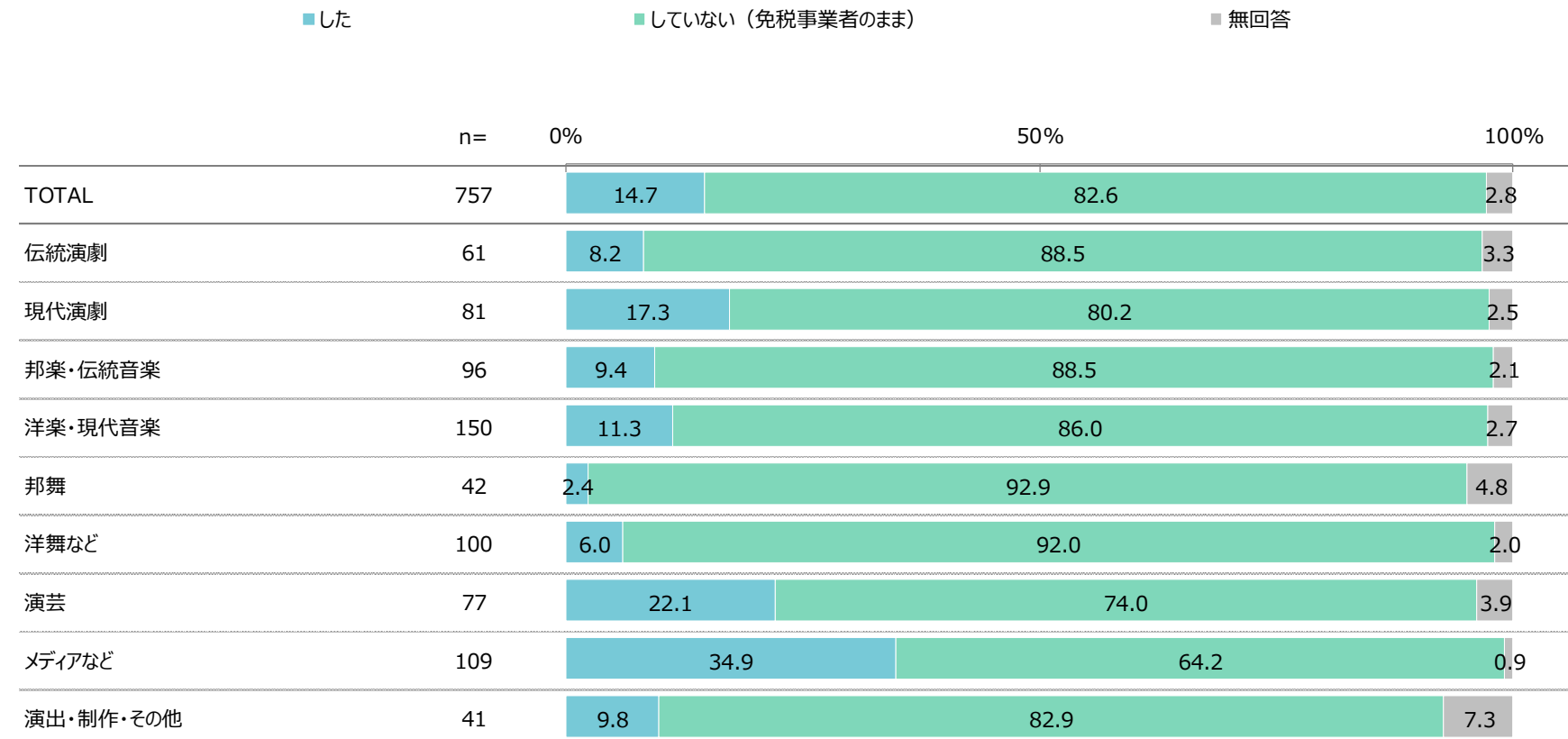
- インボイス制度導入以前は、全体の66.5%が免税事業者であり、30.1%が課税事業者であった。
- ジャンル別にみると、課税事業者の割合が高いのは邦舞33.8%、洋舞など32.0%、邦楽・伝統音楽31.6%、伝統演劇31.3%など。一方、免税事業者の割合が高いのは、演芸・メディアなど各69.4%、洋楽・現代音楽68.2%。



QC_1b インボイス制度導入を受けて適格請求書発行事業者登録をしたか

【ベース：QC_1aで、インボイス制度導入以前は免税事業者だった人】

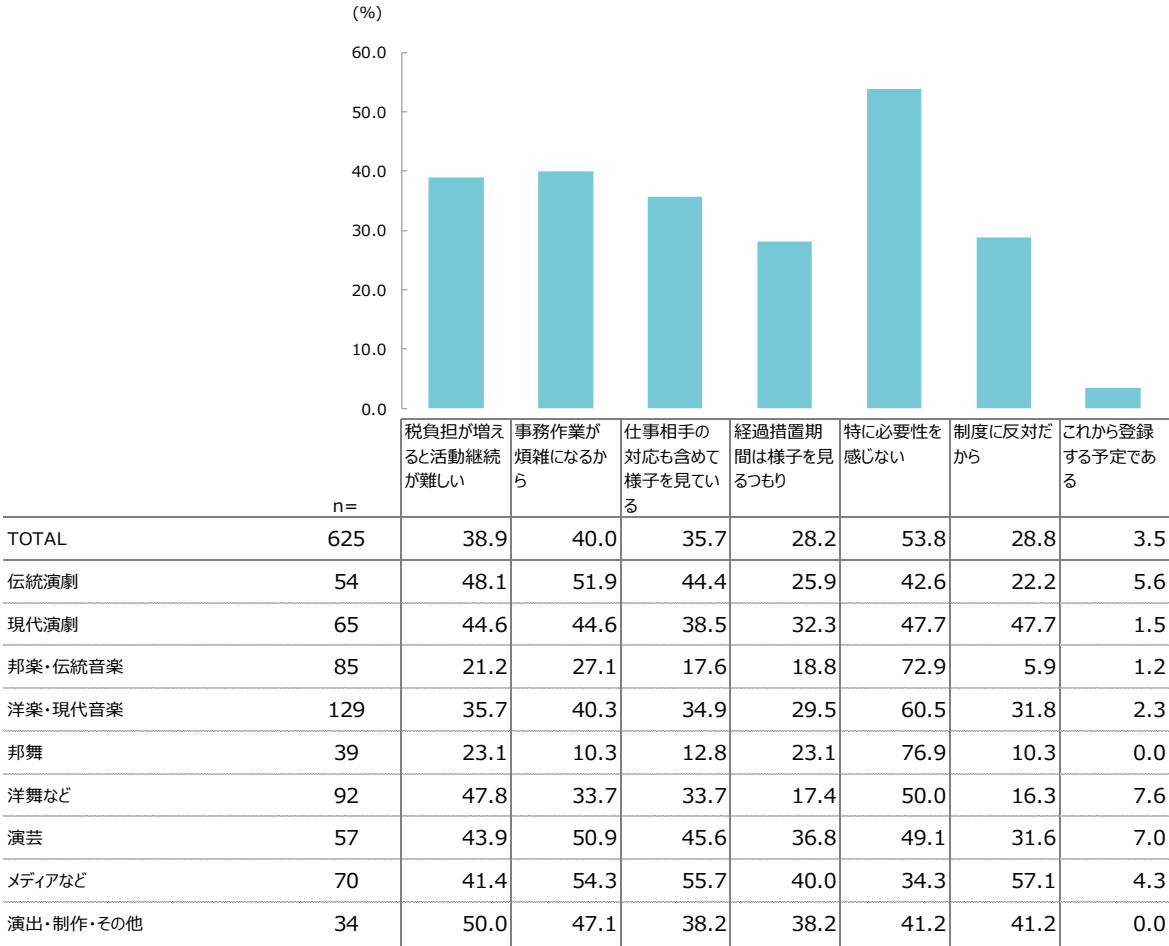
- インボイス制度導入を受けて、82.6%の大多数が適格請求書発行事業者登録をしていない状態（免税事業者のまま）で、登録した人は14.7%にとどまっている。
- ジャンル別にみると、登録率が高いのは、メディアなどが34.9%と最も高く、次いで演芸22.1%、現代演劇17.3%と続く。登録率が低いのは、邦舞2.4%、洋舞6.0%となっている。伝統的な分野（伝統演劇、邦楽・伝統音楽、邦舞）は、現代的な分野（現代演劇、洋楽・現代音楽）と比較して、登録率が低い傾向にある。



QC_1C 適格請求書発行事業者の登録をしていない理由（MA）

【ベース：QC_1bで、適格請求書発行事業者登録をしていない人】

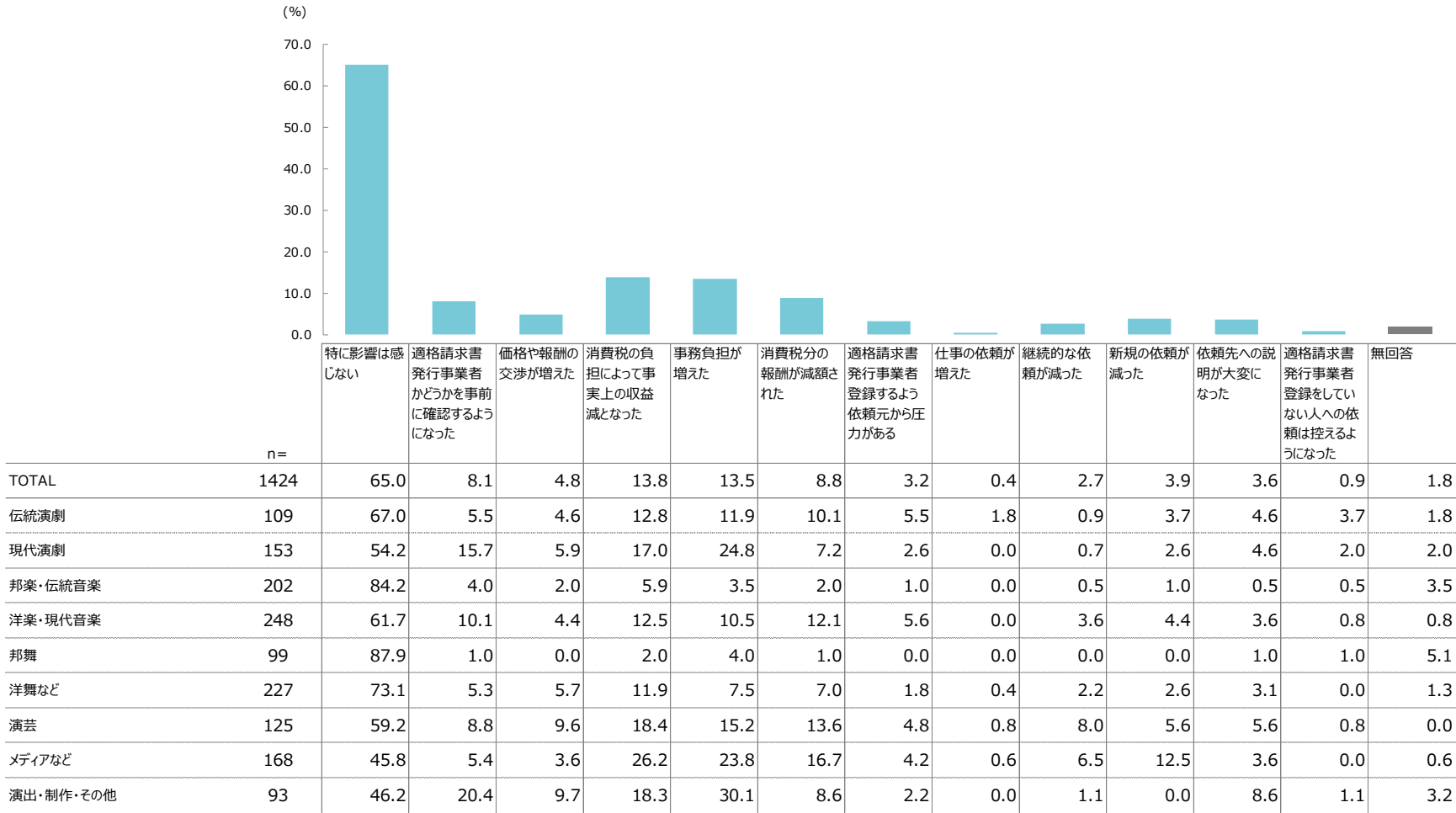
- 適格請求書発行事業者の登録をしていない理由は、「特に必要性を感じない」が最も多く53.8%。次いで「事務作業が煩雑になるから」40.0%、「税負担が増えると活動継続が難しい」38.9%が上位を占めている。
- ジャンル別にみると、「特に必要性を感じない」は邦舞76.9%、邦楽・伝統音楽72.9%が他のジャンルと比べて高い。他、「税負担が増えると活動継続が難しい」は、伝統演劇48.1%、洋舞47.8%が高く、「制度に反対だから」はメディアなど57.1%、現代演劇47.7%が高い。メディアなどは、「仕事相手の対応も含めて様子を見ている」55.7%や、「経過措置期間は様子を見るつもり」40.0%も高く、業界内での動向を注視する傾向がみられる。



QC_1C 適格請求書発行事業者の登録をしていない理由は何ですか。当てはまるものすべてを選んでください。
インボイス制度導入後、適格請求書発行事業者登録を「していない（免税事業者のまま）」と答えた方のみにお伺いします。

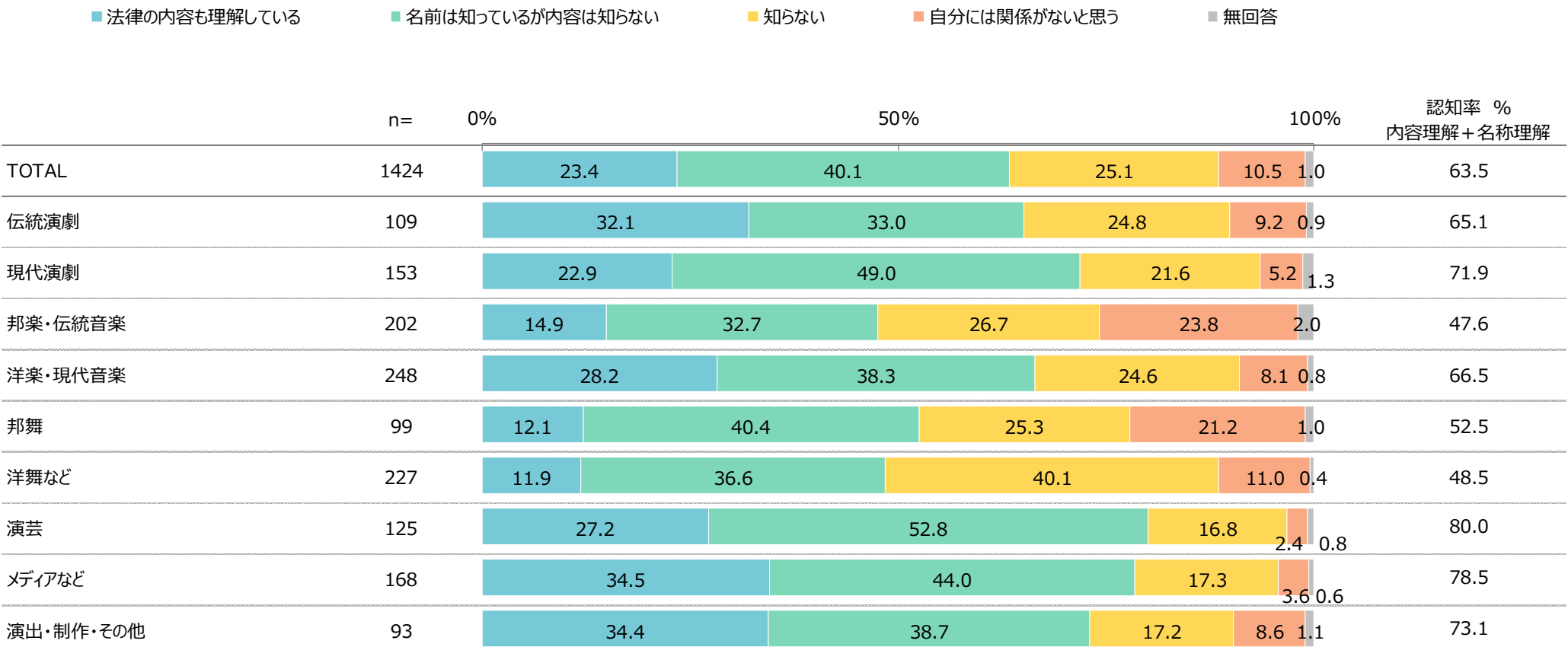
QC_2 インボイス制度導入による芸能活動への影響の有無（MA）

- インボイス制度導入による芸能活動への影響について、「特に影響は感じない」は65.0%と多数。
一方、「消費税の負担によって事実上の収益減となった」13.8%や「事務負担が増えた」13.5%といった声が一定数みられる。
- ジャンル別にみると、邦舞や邦楽・伝統音楽では「特に影響は感じない」が8割を超えており、他のジャンルと比べて制度の影響を受けている割合が低いと考えられる。
一方、「特に影響は感じない」の割合が半数以下であるのはメディアなどや演出・制作・その他であった。
メディアなどは、「消費税の負担によって事実上の収益減となった」26.2%、「事務負担が増えた」23.8%が高く、演出・制作・その他では、「事務負担が増えた」30.1%が高い。
- また、演芸では「継続的な依頼が減った」8.0%の割合が他の分野と比べて高く、インボイス制度導入が仕事の継続性に影響を与えている可能性がある。



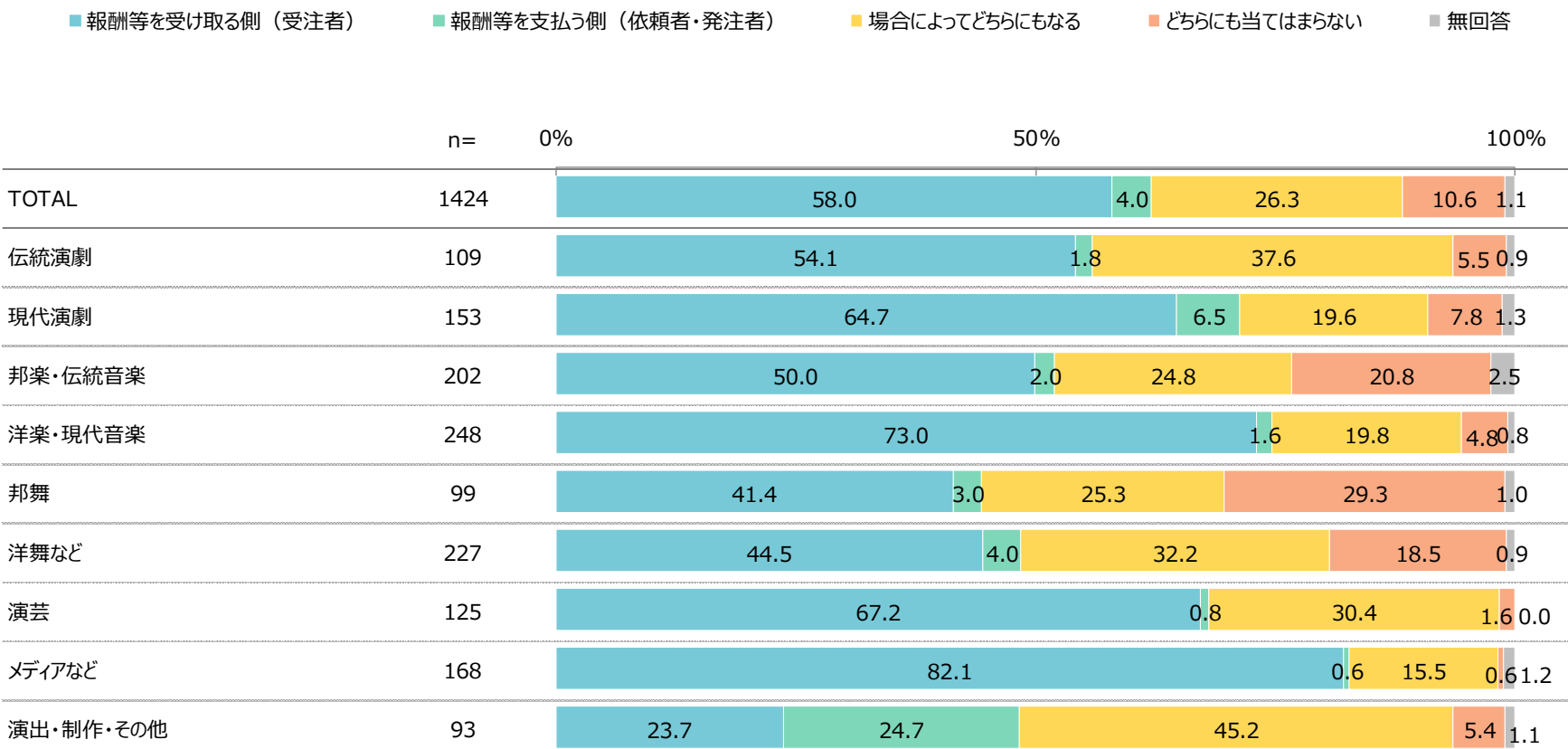
QC_3 「フリーランス・事業者間取引適正化等法」の認知

- フリーランス・事業者間取引適正化等法について、「名前は知っているが内容は知らない」が40.1%と多く、「法律の内容も理解している」23.4%と合わせて、認知率（内容理解＋名称理解）は63.5%であった。一方、25.1%が「知らない」と回答している。
- ジャンル別にみると、「法律の内容も理解している」のはメディアなど34.5%、演出・制作・その他34.4%、伝統演劇32.1%が高く、「名前は知っているが内容は知らない」は演芸52.8%、現代演劇49.0%が高い。
「自分には関係がないと思う」は邦楽・伝統音楽23.8%、邦舞21.2%が高く、「知らない」は洋舞など40.1%で高い。



QC_4 あなたは個人事業者として受注する側（報酬等を受け取る側）か個人事業者へ発注する側（報酬等を支払う側）か

- 個人事業者として受注または個人事業者へ発注する側かどうかについては、「報酬等を受け取る側（受注者）」58.0%、「場合によってどちらにもなる」26.3%、「報酬等を支払う側（依頼者・発注者）」4.0%の割合であった。
- ジャンル別にみると、「報酬等を受け取る側（受注者）」の割合は、メディアなど82.1%、洋楽・現代音楽73.0%、演芸67.2%、現代演劇64.7%が高い。「報酬等を支払う側（依頼者・発注者）」の割合は、演出・制作・その他24.7%と他のジャンルより高く、「場合によってどちらにもなる」も45.2%と高い。
- 一方、「どちらにも当てはまらない」は邦舞29.3%、邦楽・伝統音楽20.8%で高い。

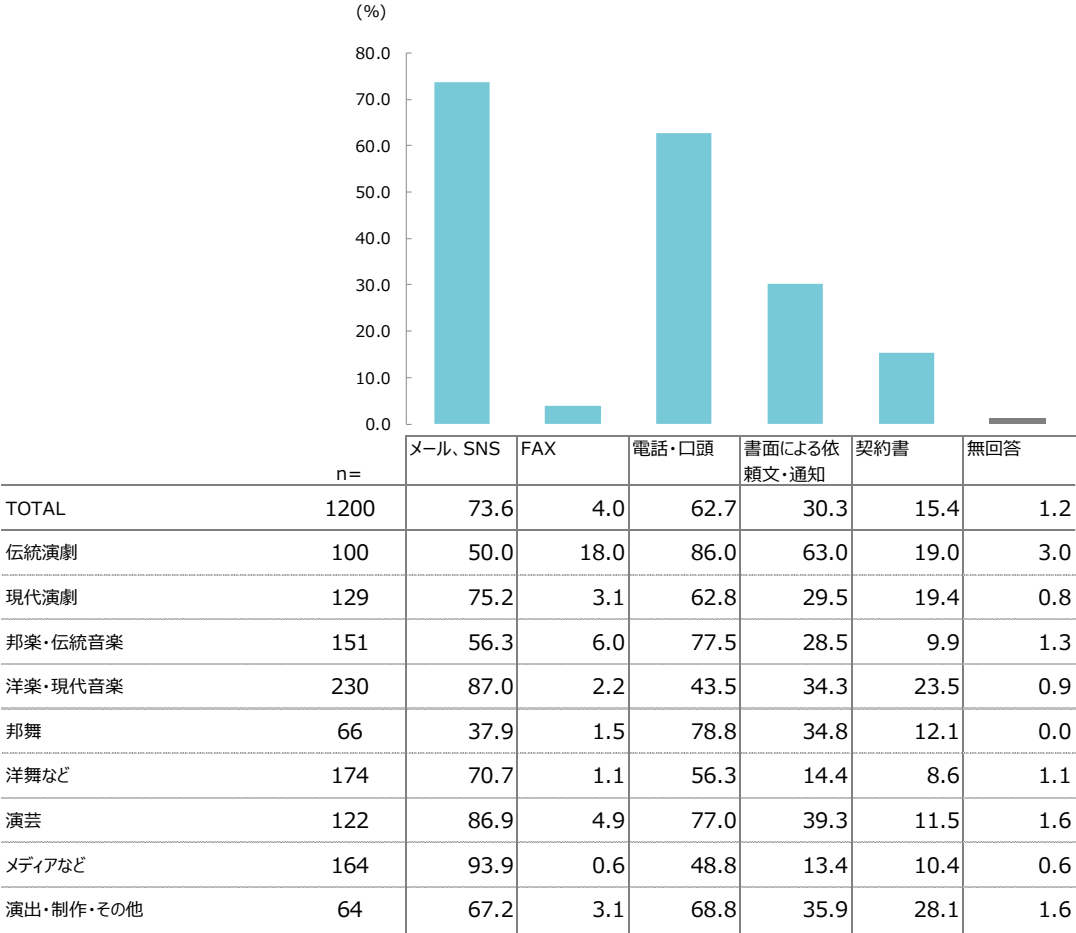


QC_4 あなたは、個人事業者として受注する側（報酬等を受け取る側）、個人事業者へ発注する側（報酬等を支払う側）、どちらの立場になりますか。
以下の質問では、個人で仕事をしている人、団体や事務所に所属していても雇用関係ではない働き方の人たちを「個人事業者」という表記にしています。

QC_5 依頼される際に仕事内容や条件を知らされた方法（MA）

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

- 依頼時に仕事内容や条件を知らされた方法は、「メール・SNS」73.6%が最も多く、次いで「電話・口頭」62.7%、「書面による依頼文・通知書、日程表など」30.3%と続く。「契約書」15.4%や「FAX」4.0%は低い。
- ジャンル別にみると、「メール・SNS」は、メディアなど93.9%、洋楽・現代音楽87.0%、演芸86.9%が高い。
一方、「電話・口頭」は、伝統演劇86.0%、邦舞78.8%、邦楽・伝統音楽77.5%、演芸77.0%と伝統的な分野で高い傾向がみられる。
- 「書面による依頼文・通知書、日程表など」は伝統演劇63.0%、「契約書」は演出・制作・その他28.1%、洋楽・現代音楽23.5%が高い。



QC_5 直近で受けた仕事について、依頼される際に仕事内容や条件はどのような形式で知らされましたか。当てはまるものすべてを選んでください。
個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_5 依頼される際に仕事内容や条件を知らされた方法（重複状況 上位5位まで）

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

- 依頼時に仕事内容や条件を知らされた方法の重複状況を確認すると、「メール、SNSのみ」23.7%が最も多く、次いで「メール、SNS＋電話・口頭」23.1%、「電話・口頭のみ」16.0%と続く。
- ジャンル別にみると、「電話・口頭のみ」が1位となっているのは、伝統演劇20.0%、邦楽・伝統音楽31.1%、邦舞36.4%であった。

TOTAL	n数	%
TOTAL	1200	—
メール、SNS	284	23.7
メール、SNS,電話・口頭	277	23.1
電話・口頭	192	16.0
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	98	8.2
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など,契約書	66	5.5

伝統演劇	n数	%
TOTAL	100	—
電話・口頭	20	20.0
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	16	16.0
電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	14	14.0
メール、SNS,FAX,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	8	8.0
メール、SNS,電話・口頭	8	8.0

現代演劇	n数	%
TOTAL	129	—
メール、SNS,電話・口頭	31	24.0
メール、SNS	27	20.9
電話・口頭	17	13.2
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	13	10.1
メール、SNS,書面による依頼文・通知書、日程表など	7	5.4

邦楽・伝統音楽	n数	%
TOTAL	151	—
電話・口頭	47	31.1
メール、SNS,電話・口頭	34	22.5
メール、SNS	21	13.9
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	13	8.6
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など,契約書	8	5.3

洋楽・現代音楽	n数	%
TOTAL	230	—
メール、SNS	72	31.3
メール、SNS,電話・口頭	47	20.4
メール、SNS,書面による依頼文・通知書、日程表など,契約書	19	8.3
メール、SNS,書面による依頼文・通知書、日程表など	19	8.3
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など,契約書	15	6.5

邦舞	n数	%
TOTAL	66	—
電話・口頭	24	36.4
メール、SNS,電話・口頭	12	18.2
書面による依頼文・通知書、日程表など	7	10.6
電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	6	9.1
メール、SNS	5	7.6

洋舞など	n数	%
TOTAL	174	—
メール、SNS	57	32.8
メール、SNS,電話・口頭	43	24.7
電話・口頭	38	21.8
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	5	2.9
メール、SNS,契約書	5	2.9

QC_5 依頼される際に仕事内容や条件を知らされた方法（重複状況 上位5位まで）

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

- 続けてジャンル別にみると、「電話・口頭のみ」は、演出・制作・その他35.0%でも1位となっている。

TOTAL	n数	%
TOTAL	1200	—
メール、SNS	284	23.7
メール、SNS,電話・口頭	277	23.1
電話・口頭	192	16.0
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	98	8.2
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など,契約書	66	5.5

演芸	n数	%
TOTAL	122	—
メール、SNS,電話・口頭	36	29.5
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	27	22.1
メール、SNS	20	16.4
電話・口頭	13	10.7
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など,契約書	10	8.2

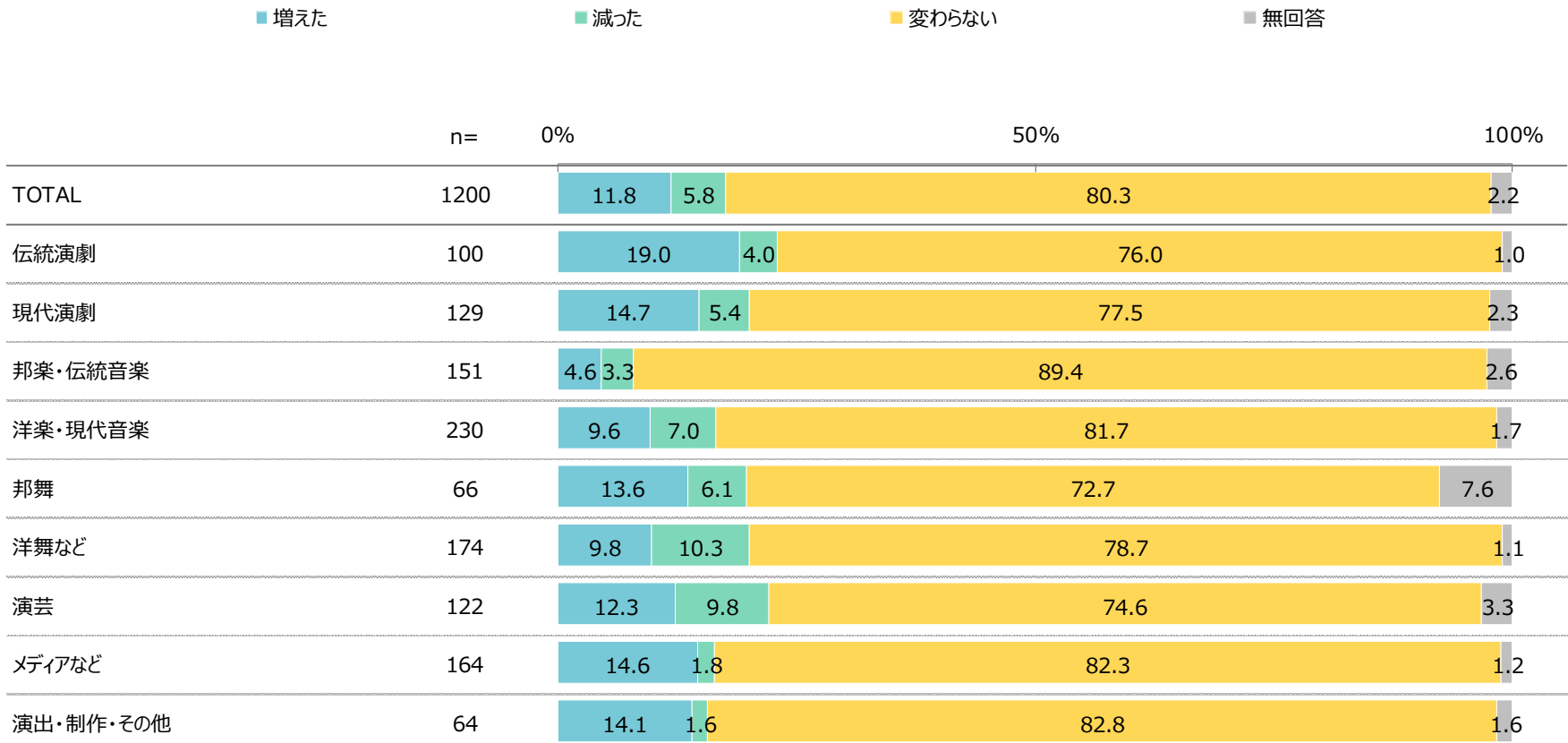
メディアなど	n数	%
TOTAL	164	—
メール、SNS	72	43.9
メール、SNS,電話・口頭	56	34.1
メール、SNS,電話・口頭,契約書	7	4.3
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など,契約書	6	3.7
メール、SNS,書面による依頼文・通知書、日程表など	5	3.0

演出・制作・その他	n数	%
TOTAL	64	—
電話・口頭	16	25.0
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など,契約書	10	15.6
メール、SNS,電話・口頭	10	15.6
メール、SNS	9	14.1
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	4	6.3

QC_6 仕事を依頼される際に文書による事前通知、契約が増えたか

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

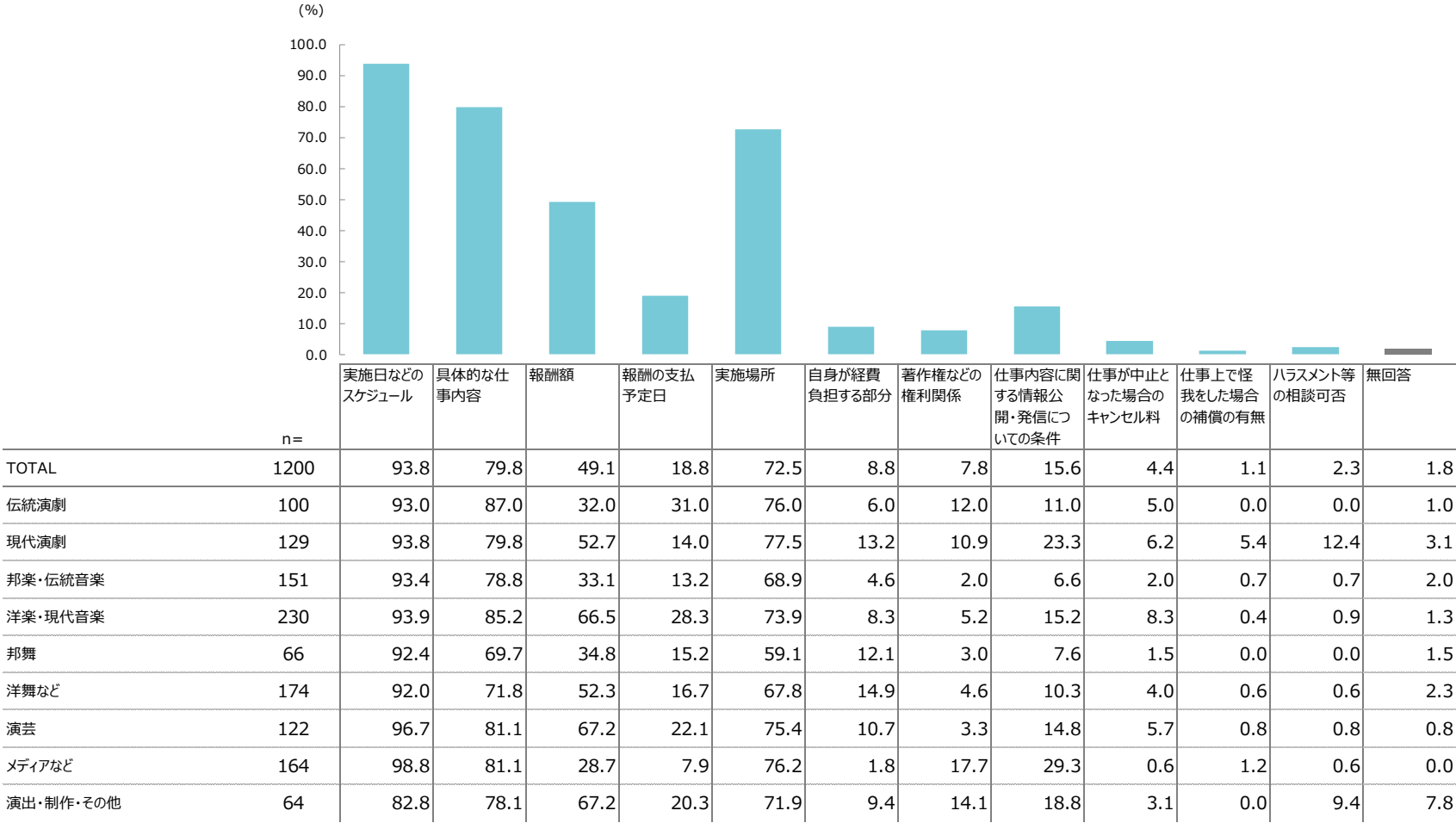
- 仕事の依頼時に文章による事前通知、契約が増えたかどうかは、「変わらない」が80.3%にのぼる。
「増えた」11.8%、「減った」5.8%であった。
- ジャンル別にみると、「増えた」の割合が高いのは、伝統演劇19.0%が最も高く、TOTALを7.2ポイント上回っている。
「変わらない」の割合が高いのは邦楽・伝統音楽89.4%、「減った」の割合が高いのは洋舞など10.3%、演芸9.8%となっている。



QC_7 仕事を依頼される際に事前に知らされた内容（MA）

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

- 仕事を依頼される際に事前に知らされた内容では、「実施日などのスケジュール」93.8%が最も高く、次いで「具体的な仕事内容」79.8%、「実施場所」72.5%と続く。報酬に関わる項目（報酬額49.1%、報酬の支払予定日18.8%など）については5割を下回っている。
- 「報酬額」に注目すると、メディアなど28.7%、伝統演劇32.0%、邦楽・伝統音楽33.1%、邦舞34.8%で事前予告される割合が低い。
- 「仕事が中止となった場合のキャンセル料」は洋楽・現代音楽8.3%、「仕事上でけがをした場合の保障の有無」は現代演劇5.4%、「ハラスメント等の相談可否」は現代演劇12.4%、演出・制作・その他9.4%が他のジャンルと比べて高い傾向にあるが、全体として事前予告される割合は低い。

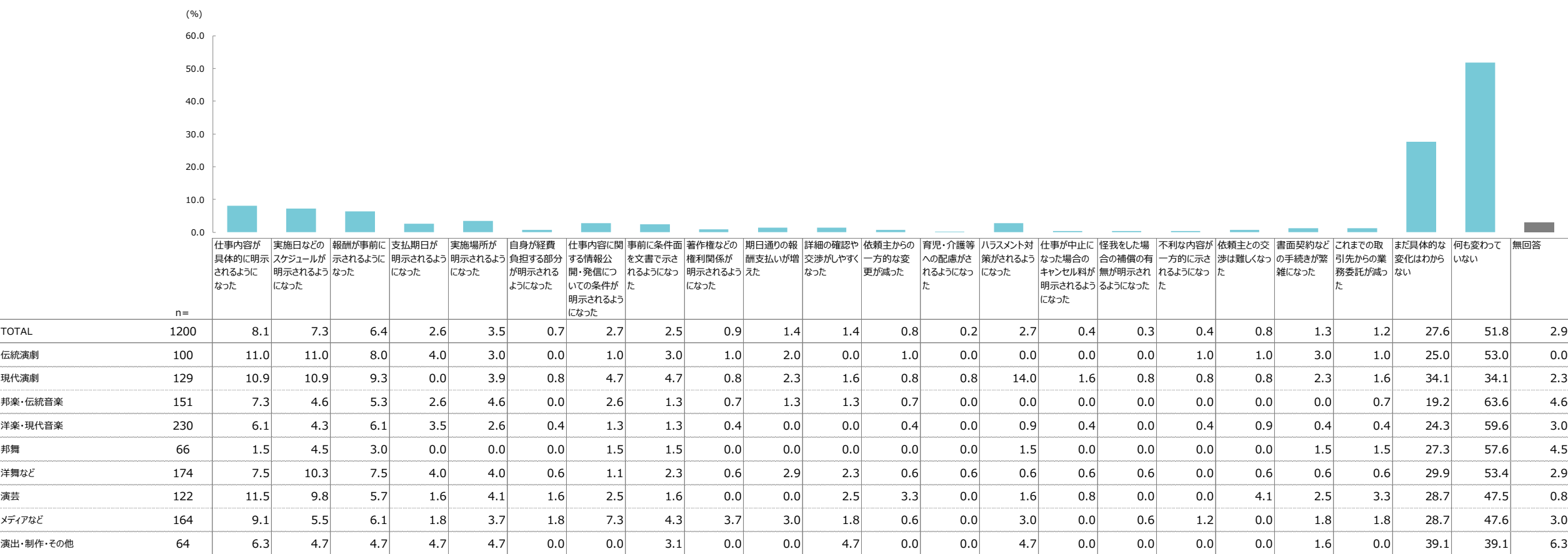


QC_7 直近で受けた仕事について、依頼される際にどのような内容が事前に知らされましたか。当てはまるものすべてを選んでください。
個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_8a 依頼される側の立場で、フリーランス法の施行後に変化したこと（MA）

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

- 依頼される立場でフリーランス法の施行後の変化として、多くの回答者が具体的な変化を感じていないか、まだ変化がわからない状況にあり、「何も変わっていない」51.8%と「まだ具体的な変化はわからない」27.6%を合わせると、約80%に達する。法施行の影響がまだ顕著には現れていない可能性がある。
- ジャンル別にみると、伝統演劇や現代演劇では、「仕事内容が具体的に明示されるようになった」や「実施日などのスケジュールが明示されるようになった」、「報酬が事前に示されるようになった」などが他のジャンルと比べて高い傾向にある。また、現代演劇では「ハラスメント対策がされるようになった」14.0%が高い。邦楽・伝統音楽では、「何も変わっていない」63.6%が他のジャンルと比べて最も高い。

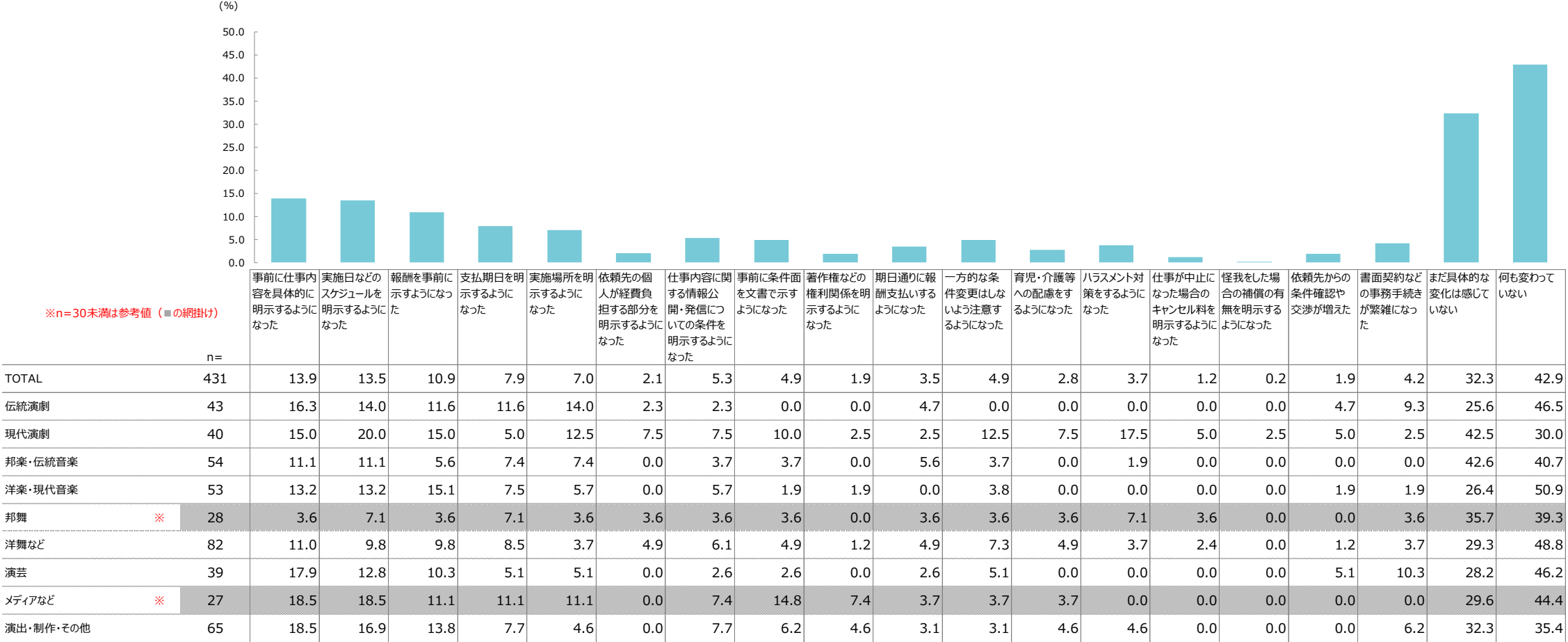


QC_8a フリーランス法の施行後（2024年11月以降）に、変化したことはありますか。依頼される側の立場で、あてはまるものすべてを選んでください。※「フリーランス法」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_8b 依頼する側の立場で、フリーランス法の施行後に変化したこと（MA）

【ベース：QC_4で、「報酬等を支払う側（依頼者・発注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

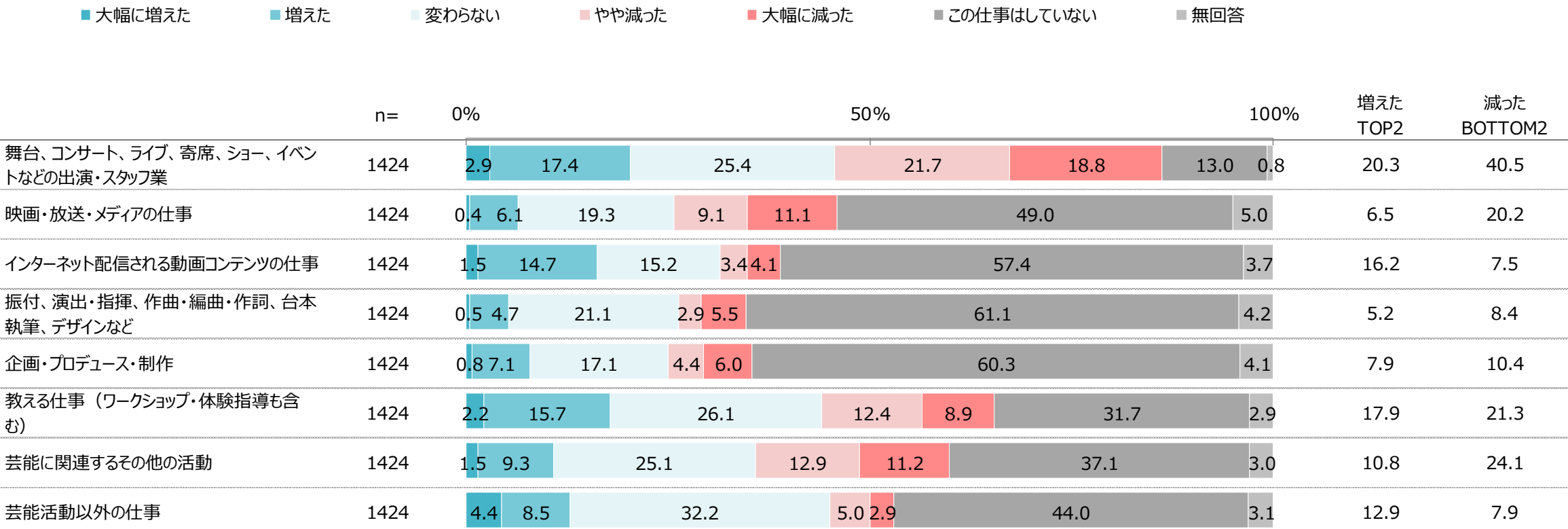
- 依頼する立場でフリーランス法の施行後の変化として、多くの回答者が具体的な変化を感じていないか、まだ変化がわからない状況にあり、「何も変わっていない」42.9%と「まだ具体的な変化はわからない」32.3%を合わせると、約80%に達する。
- 「事前に仕事内容を具体的に明示するようになった」に注目すると、演出・制作・その他18.5%、演芸17.9%が高い。「報酬を事前に示すようになった」では、洋楽・現代音楽15.1%、現代演劇15.0%が高い。現代演劇では、「ハラスメント対策をするようになった」17.5%、「一方的な条件変更はしないよう注意するようになった」12.5%も高く、労働環境改善に関する変化が他のジャンルより顕著にみられる。
- なお、「何も変わっていない」は、洋楽・現代音楽50.9%が最も高い。



QC_8b フリーランス法の施行後（2024年11月以降）に、変化したことはありますか。依頼する側の立場で、あてはまるものすべてを選んでください。※「フリーランス法」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。
個人事業者の立場として「報酬等を支払う側（依頼者・発注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

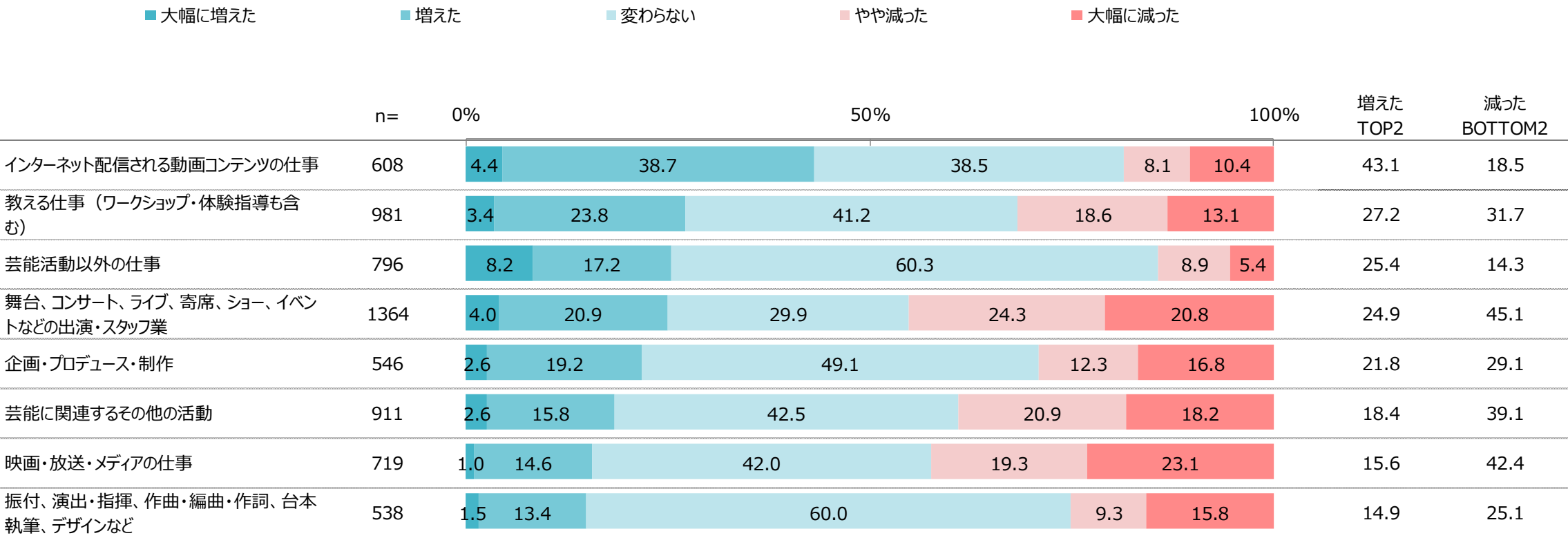
QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

* 「この仕事はしていない」という回答も含めた全体（参考）



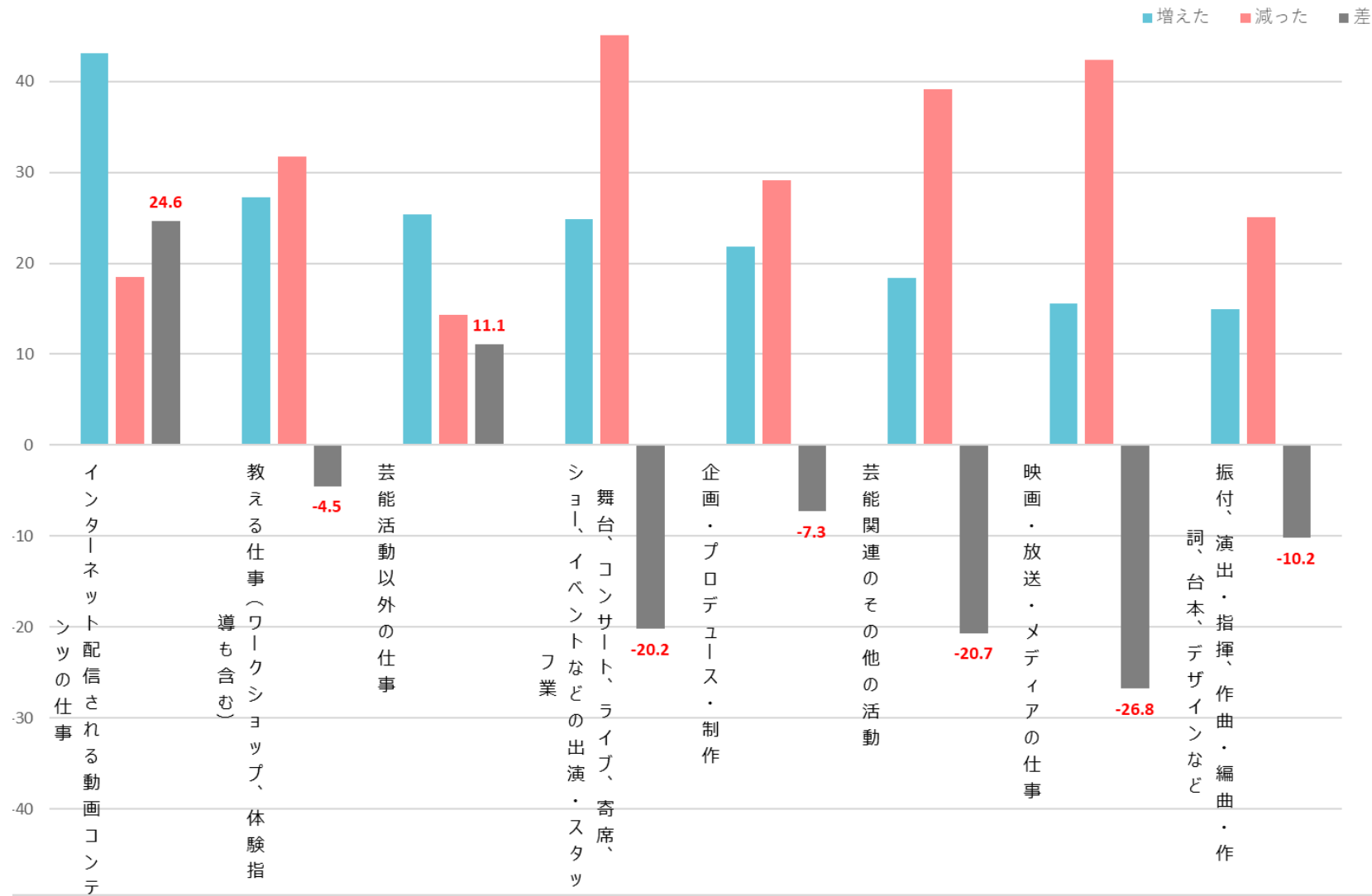
QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

- 多くの芸能関連の仕事の多くが減少傾向（減ったBOTTOM2：減った＋大幅に減ったの割合が高い）の中で、『インターネット配信』では増加傾向（増えたTOP2：大幅に増えた＋増えたの割合が高い）がみられる。また、『芸能活動以外の仕事』も増加傾向となっている。



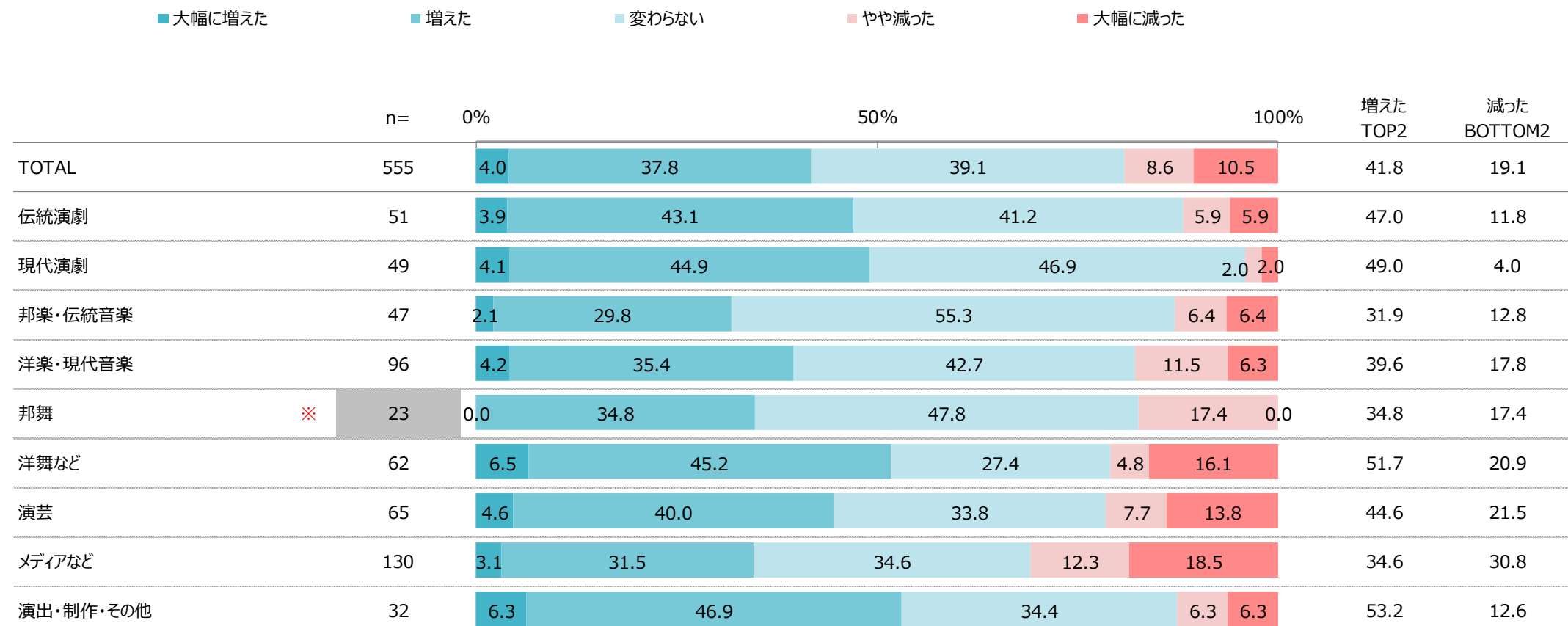
QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

- 「変わらない」という回答を除いて、増えたTOP2（大幅に増えた＋増えた）と、減ったBOTTOM2（減った＋大幅に減った）の差をみると、『インターネット配信』『芸能活動以外の仕事』では増えたTOP2の割合が高く、その他の項目はすべて減ったBTTOM2の割合が高い。仕事の機会が上向きに転じている様子ではない。



QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較 インターネット配信される動画コンテンツの仕事

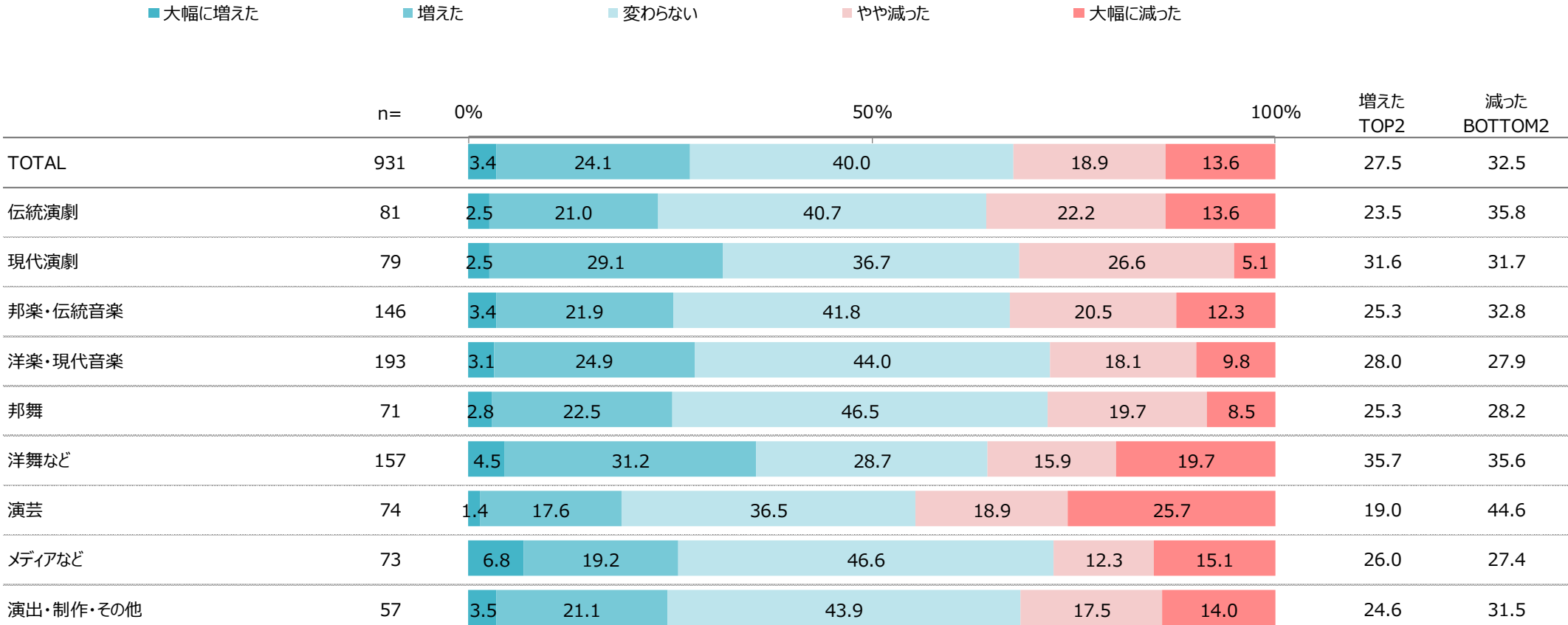
- インターネット配信される動画コンテンツの仕事は、増加傾向（増えたTOP2：大幅に増えた＋増えたの割合が41.8%と高い）であった。
- ジャンル別にみると、増加傾向（増えたTOP2：大幅に増えた＋増えたの割合が高い）にあるのは、演出・制作・その他53.2%、洋舞など51.7%、現代演劇49.0%、伝統演劇47.0%など。メディアなどでは、仕事量が増加した回答者と減少した回答者の両方が多く、二極化の傾向がみられる。



※n=30未満は参考値（■の網掛け）

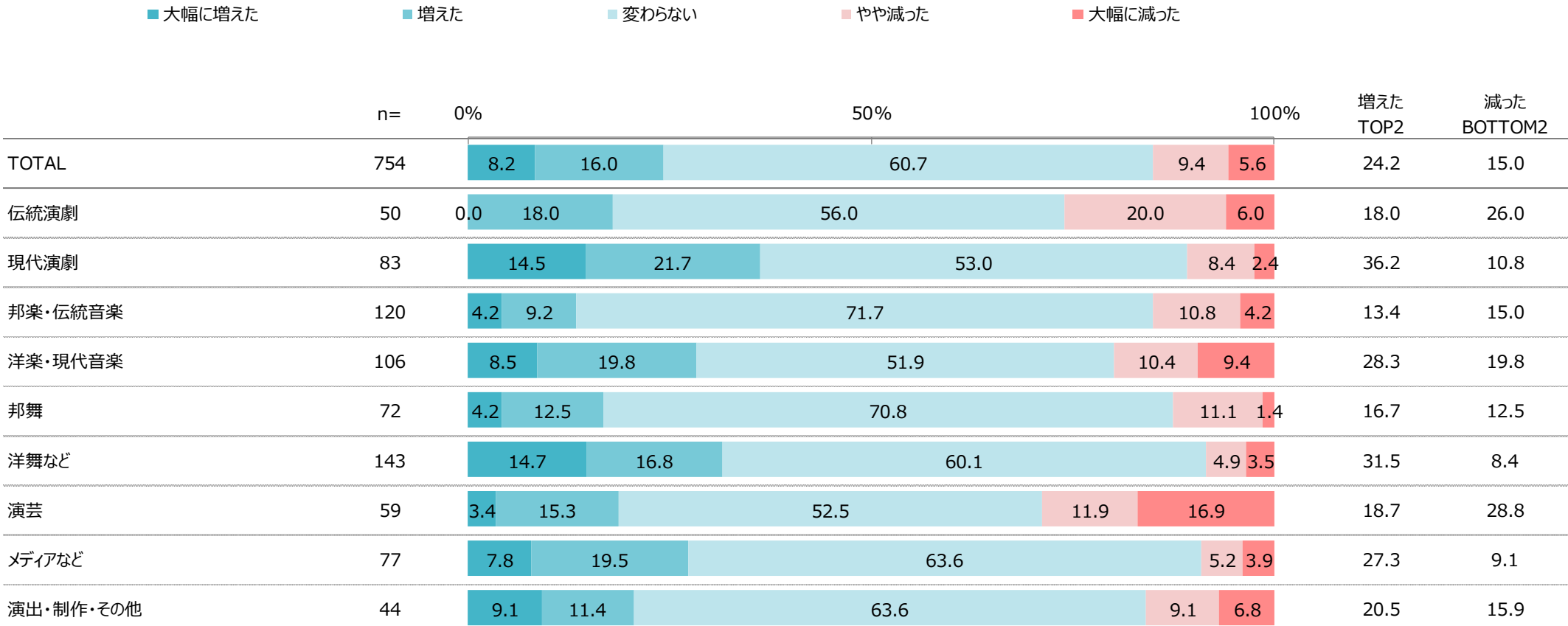
QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較 教える仕事（ワークショップ・体験指導も含む）

- 教える仕事（ワークショップ・体験指導も含む）の仕事は、減少傾向（減ったBOTTOM2：減った+大幅に減ったの割合が32.5%と高い）であった。
- ジャンル別にみると、特に減少傾向にあるのは、演芸44.6%となっている。
ただし、多くのジャンルで仕事量が増加した回答者と減少した回答者の両方が3割前後と同程度の場合が多い。



QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較 芸能活動以外の仕事

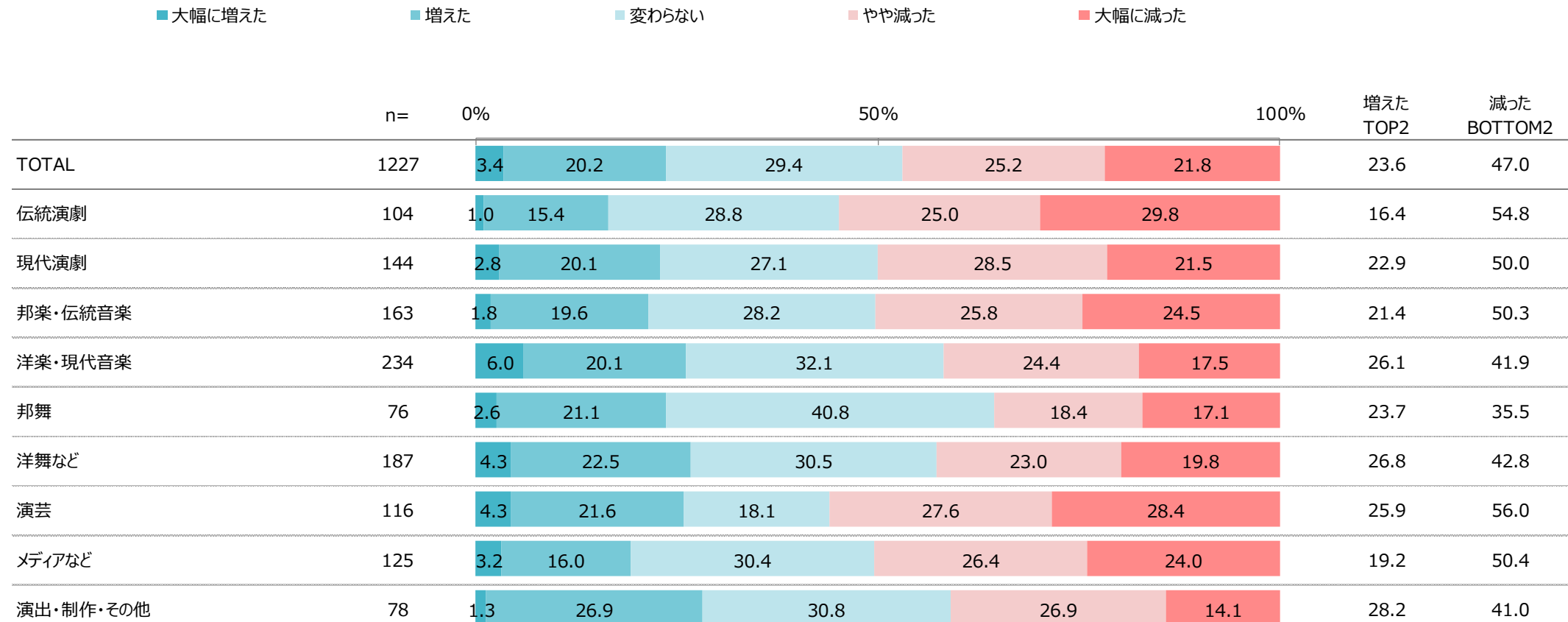
- 芸能活動以外の仕事は、増加傾向（増えたTOP2：大幅に増えた＋増えたの割合が24.2%と高い）であるが、「変わらない」とする割合が60.7%と過半数を占める。
- ジャンル別にみると、特に増加傾向にあるのは、現代演劇36.2%、洋舞31.5%となっている。
一方、減少傾向にあるのは、演芸28.8%、伝統演劇26.0%となっている。



QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業

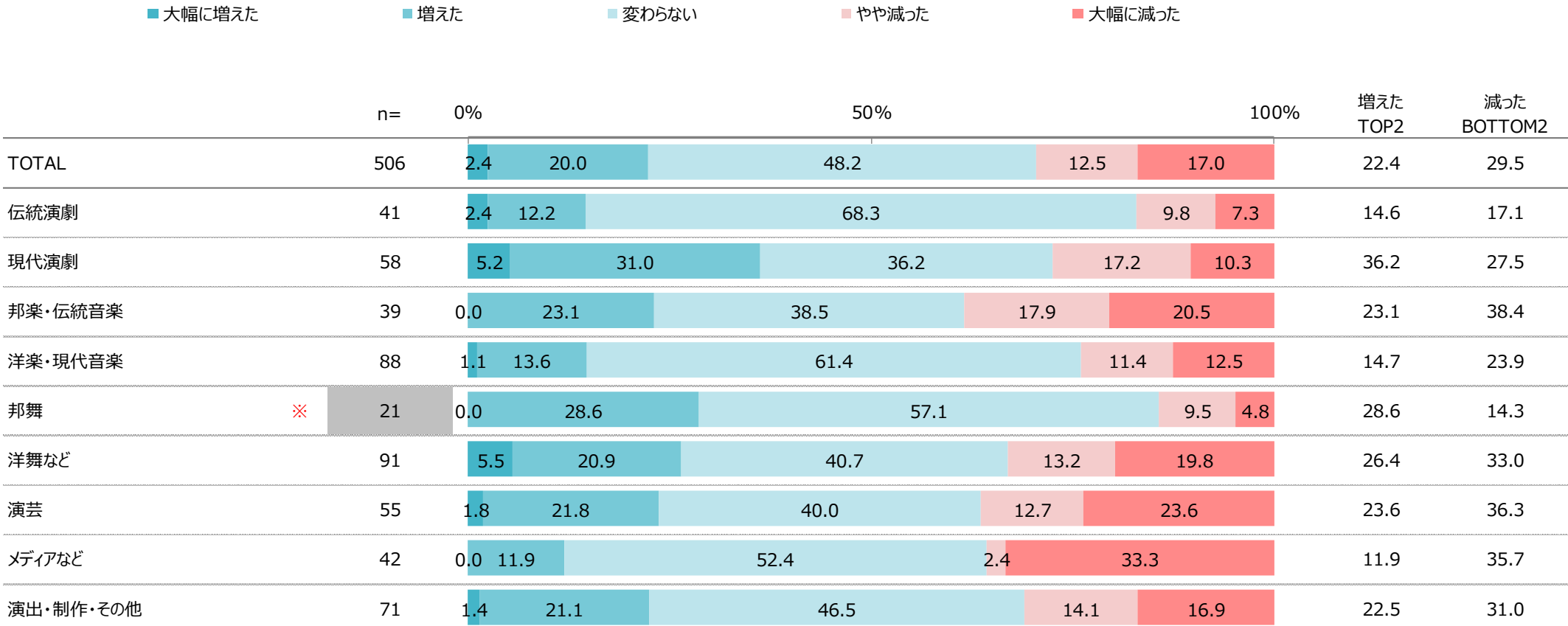
- 出演・スタッフ業の仕事は、減少傾向（減ったBOTTOM2：減った＋大幅に減ったの割合が47.0%と高い）であり、約半数を占める。
- どのジャンルも減少傾向を示し、特に、演芸56.0%、伝統演劇54.8%が顕著となっている。



QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

企画・プロデュース・制作

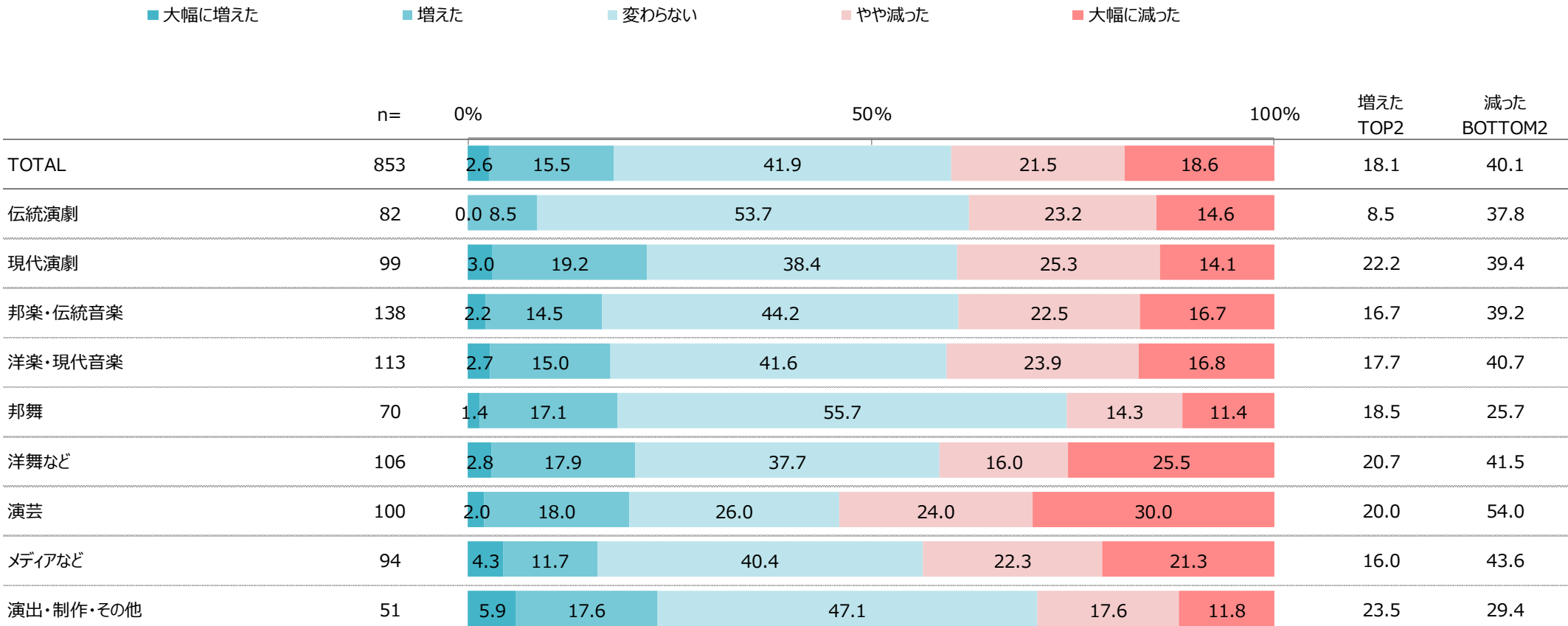
- 企画・プロデュース・制作の仕事は、減少傾向（減ったBOTTOM2：減った+大幅に減ったの割合が29.5%と高い）であるものの、「変わらない」とする割合48.2%と約半数を占める。
- ジャンル別にみると、現代演劇以外が減少傾向を示し、特に、邦楽・伝統音楽38.4%、演芸36.3%、メディアなど35.7%となっている。



※n=30未満は参考値（■の網掛け）

QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較 芸能に関連するその他の活動

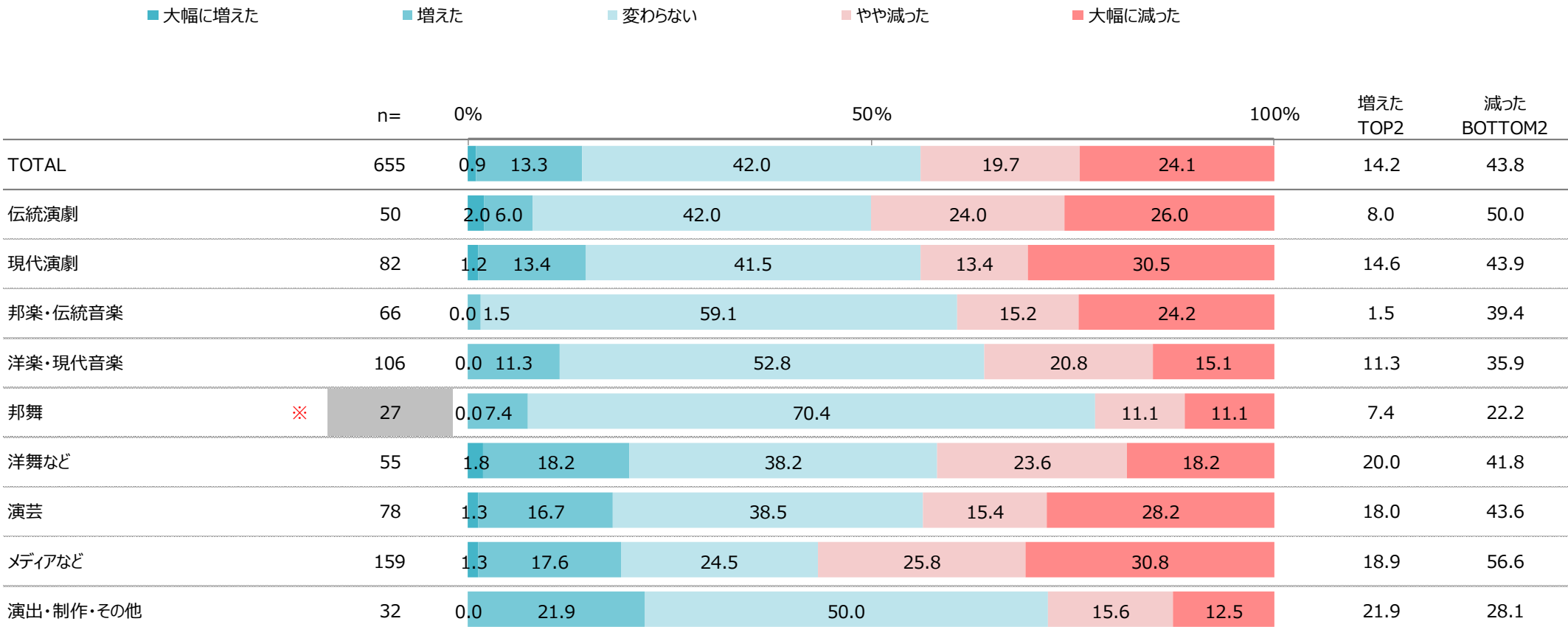
- 芸能に関連するその他の活動の仕事は、減少傾向（減ったBOTTOM2：減った＋大幅に減ったの割合が40.1%と高い）であった。
- ジャンル別にみると、特に減少傾向にあるのは、演芸54.0%となっている。



QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

映画・放送・メディアの仕事

- 映画・放送・メディアの仕事は、減少傾向（減ったBOTTOM2：減った＋大幅に減ったの割合が43.8%と高い）であった。
- ジャンル別にみると、特に減少傾向にあるのは、メディアなど56.6%、伝統演劇50.0%となっている。

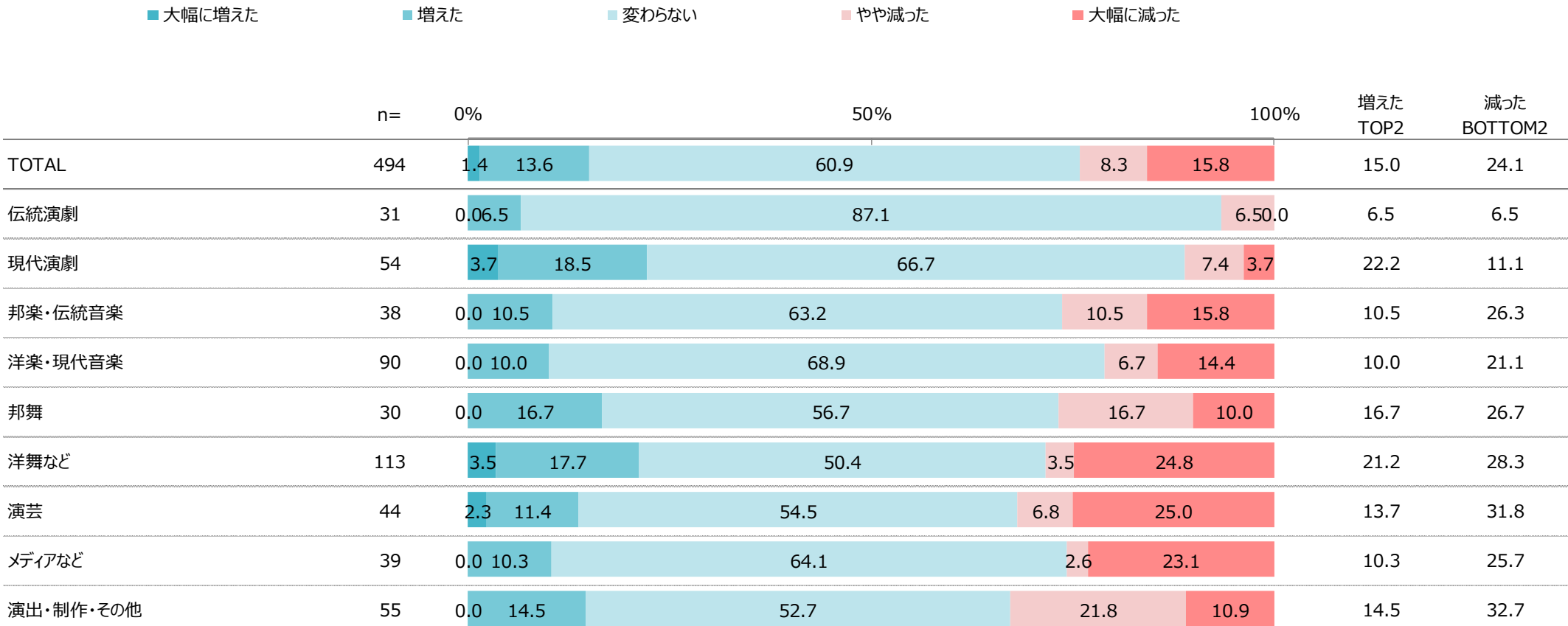


※n=30未満は参考値（■の網掛け）

QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

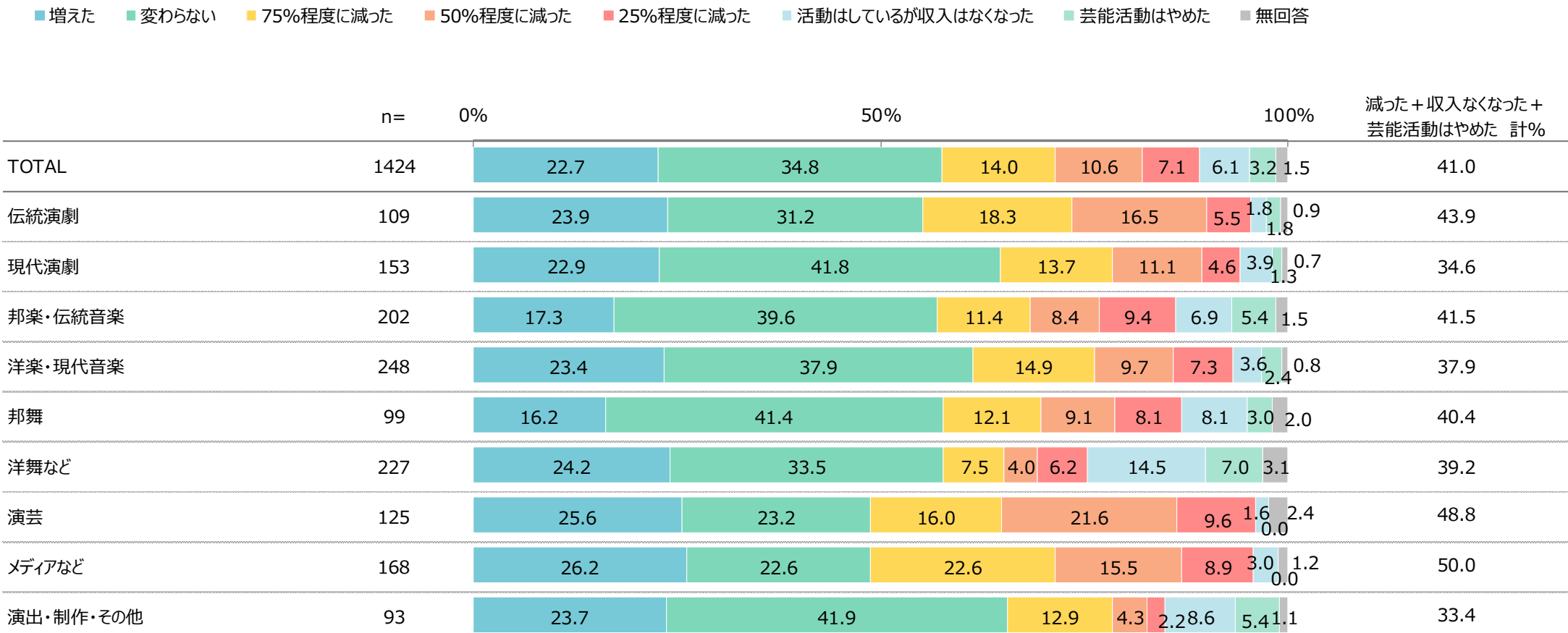
振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザインなど

- 振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザインなどの仕事は、減少傾向（減ったBOTTOM2：減った＋大幅に減ったの割合が24.1%と高い）であったが、「変わらない」とする割合が60.9%と過半数を占める。
- ジャンル別にみると、現代演劇以外が減少傾向を示し、特に、演出・制作・その他32.7%、演芸31.8%となっている。



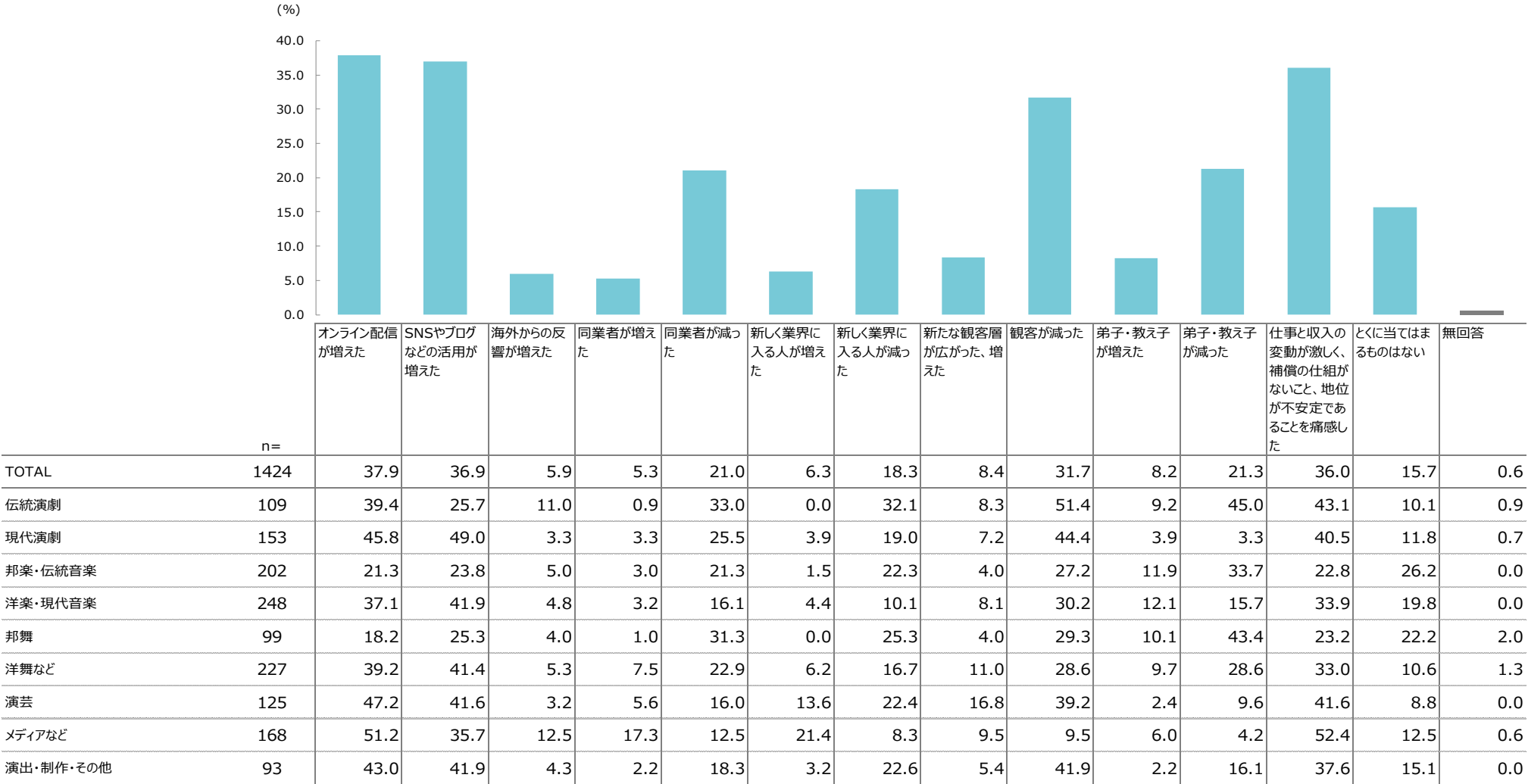
QD_2 2024年の芸能活動からの収入について2019年（コロナ禍前）との比較

- 2024年の芸能活動からの収入を2019年（コロナ禍前）と比べると、「変わらない」34.8%が最も高く、次いで「増えた」22.7%となっている。一方、収入が減少した（25～75%程度に減った）および「活動はしているが収入はなくなった」、「芸能活動はやめた」を合計すると41.0%であり、芸能活動の収入状況には差が生じている。
- ジャンル別にみると、メディアなど、演芸は「増えた」の割合がやや高めで、「変わらない」を含めると約5割。一方、「25～75%程度に減った」「収入はなくなった」「芸能活動はやめた」の合計も約5割となっている。



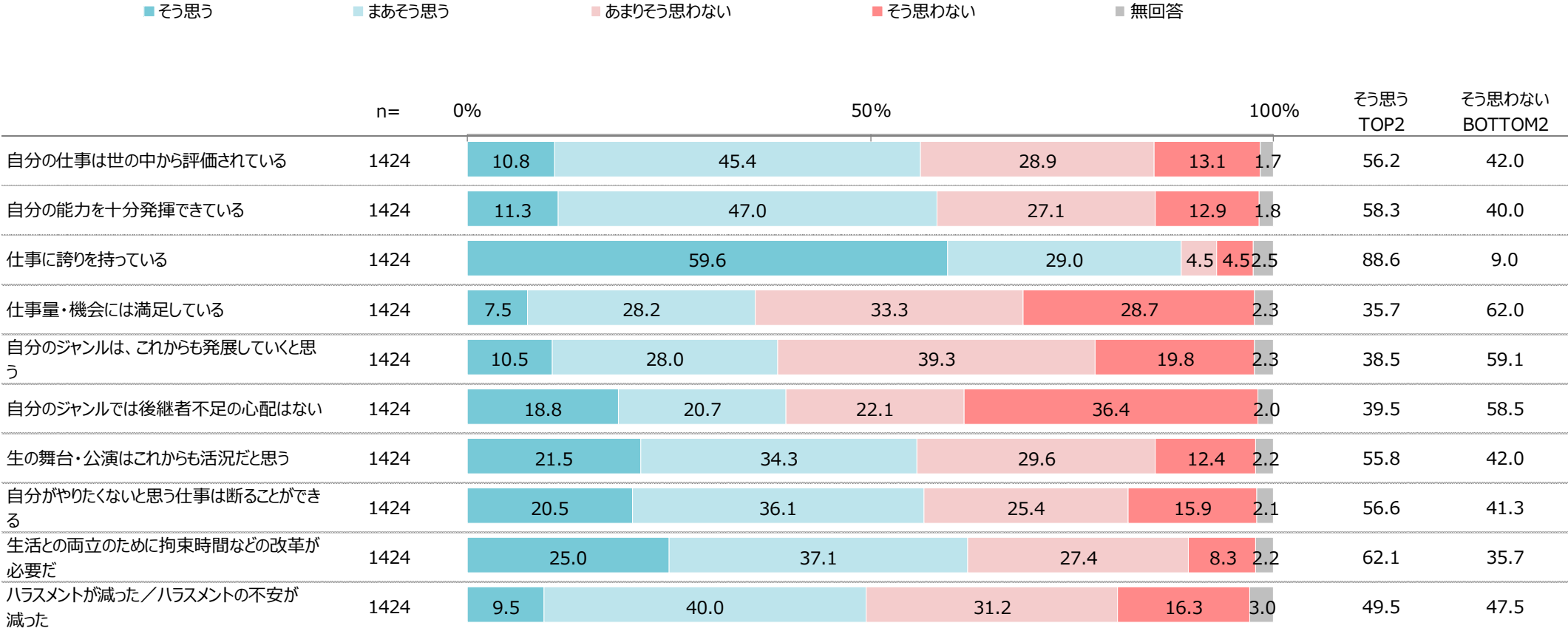
QD_3 2020年以降の芸能活動についてあてはまるもの（MA）

- 2020年以降の芸能活動についてあてはまるものとしては、「オンライン配信が増えた」37.9%、「SNSやブログなどの活用が増えた」36.9%が最も顕著な変化としてみられる。一方で、「観客が減った」31.7%、「仕事と収入の変動が激しく、補償の仕組みがないこと、地位が不安定であることを痛感した」36.0%も高い割合を示している。
- ジャンル別にみると、伝統演劇では、「観客が減った」51.4%、「弟子・教え子が減った」45.0%、「新しく業界に入る人が減った」32.1%、現代演劇では、「SNSやブログなどの活用が増えた」49.0%、「オンライン配信が増えた」45.8%、「観客が減った」44.4%、メディアなどでは、「仕事と収入の変動が激しく、補償の仕組みがないこと、地位が不安定であることを痛感した」52.4%、「オンライン配信が増えた」51.2%、「新しく業界に入る人が増えた」21.4%、が他のジャンルと比べて高い傾向にある。



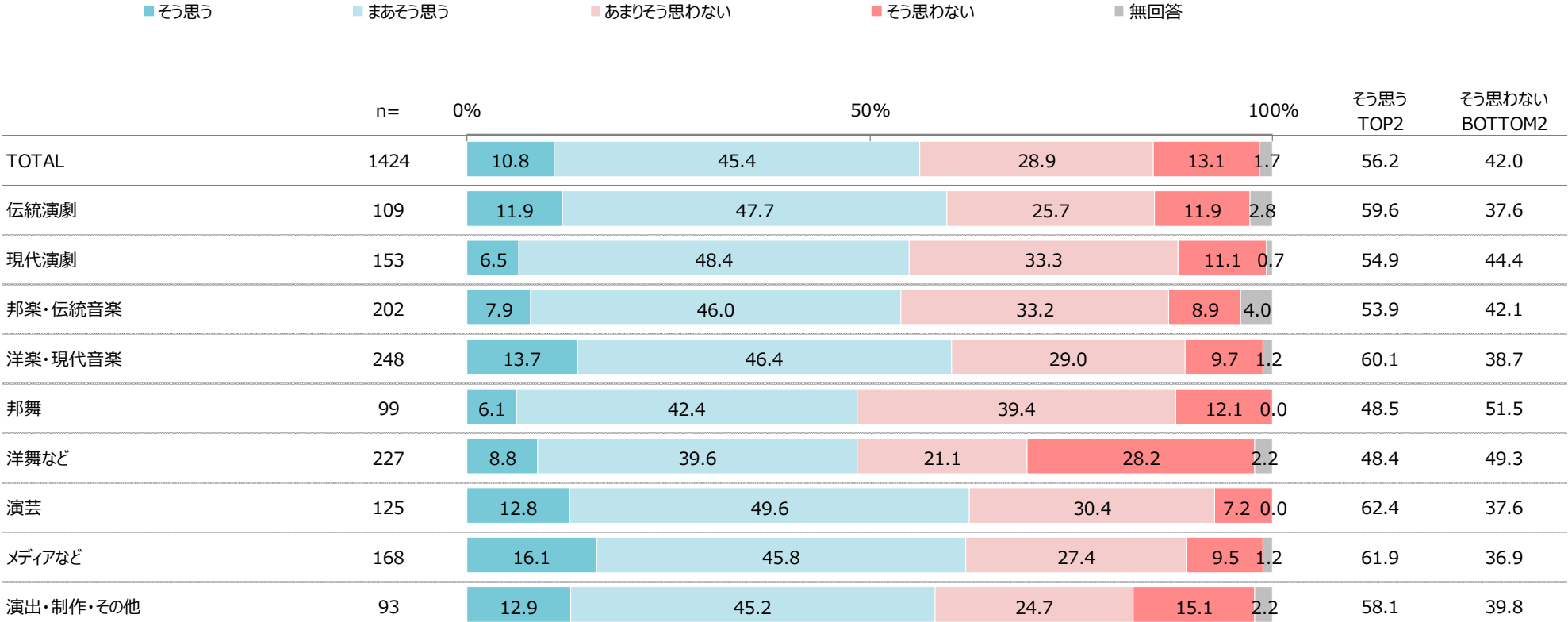
QD_4 仕事や環境に対する考え方 全体

- 仕事や環境に対する考え方の中でも、『仕事に誇りを持っている』と考える人（そう思うTOP2:そう思う+まあそう思うの合計）が多く、88.6%となっている。
『自分の能力を十分発揮できている』と感じている人も過半数を超えている（そう思うTOP2: 58.3%）。
- 一方で、『仕事量・機会には満足していない』人（そう思わないBOTTOM2:あまりそう思わない+そう思わないの合計）が多く62.0%。また『自分のジャンルはこれからも発展していく』と思わない人も多い（そう思わないBOTTOM2: 59.1%）。



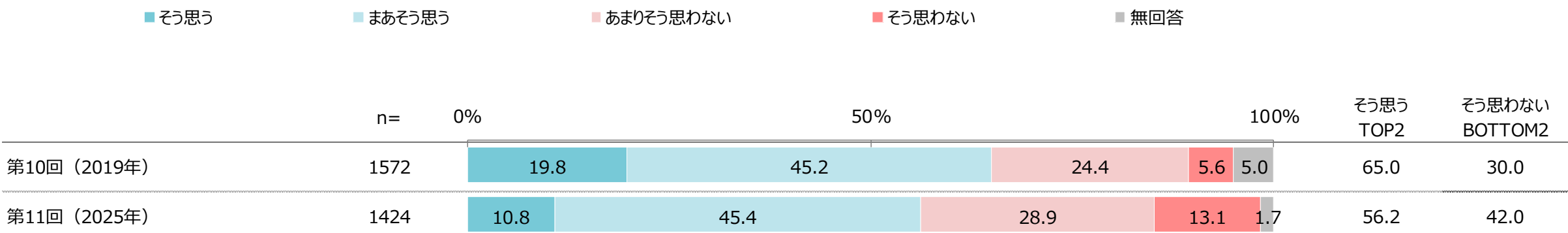
QD_4 仕事や環境に対する考え方:自分の仕事は世の中から評価されている

- 『自分の仕事は世の中から評価されている』と感じている（そう思うTOP2：そう思う+まあそう思う合計）のは56.2%で半数を占める。一方で、感じていない（そう思わないBOTTOM2：あまりそう思わない+そう思わない合計）割合も 42.0%となっている。
- ジャンル別にみると、『自分の仕事が世の中から評価されている』と感じている（そう思うTOP2の割合が高い）のは、特に、演芸62.4%、メディアなど61.9%、洋楽・現代音楽60.1%などとなっている。一方、感じていない（そう思うTOP2の割合が高い）および感じていない（そう思わないBOTTOM2の割合が高い）のがほぼ同程度であるのは、邦舞、洋舞となっている。



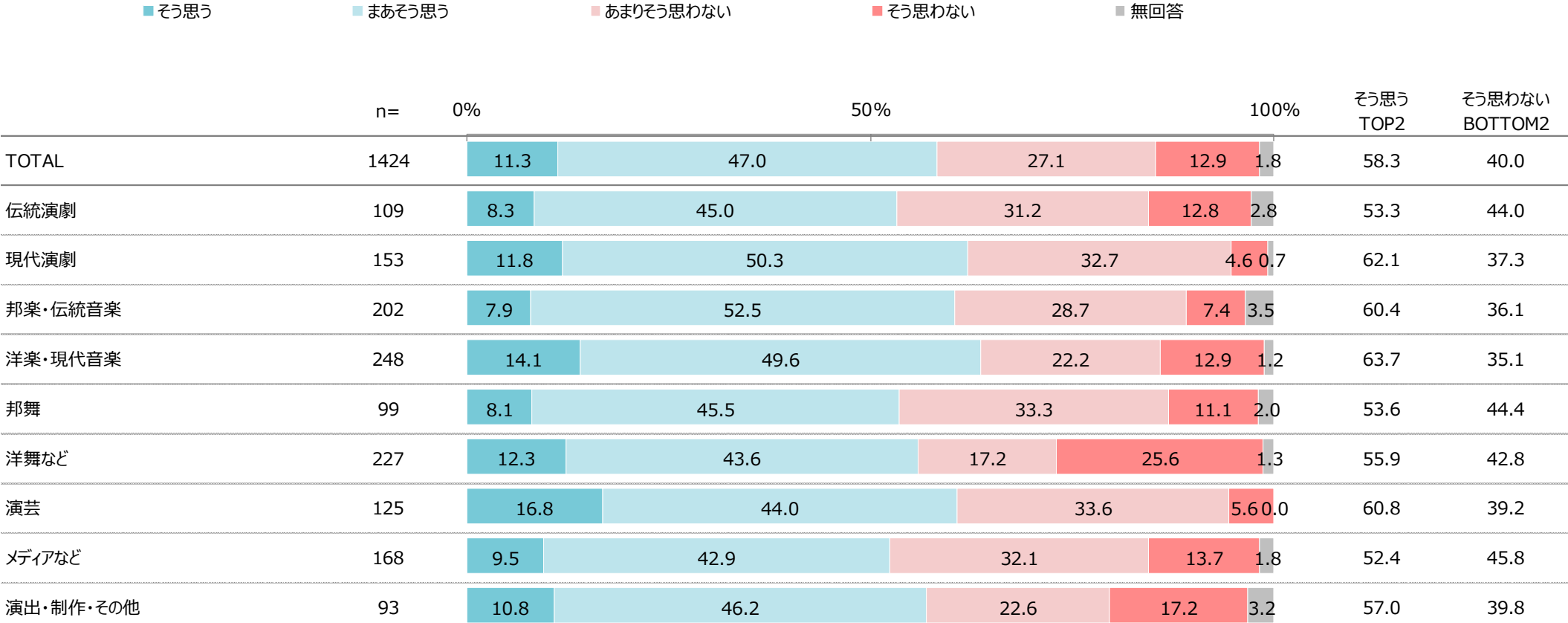
QD_4 仕事や環境に対する考え方:自分の仕事は世の中から評価されている

- 第11回調査では『自分の仕事は世の中から評価されている』と感じていない（そう思わないBOTTOM2）の割合は42.0%で、第10回より12.0ポイント増加している。



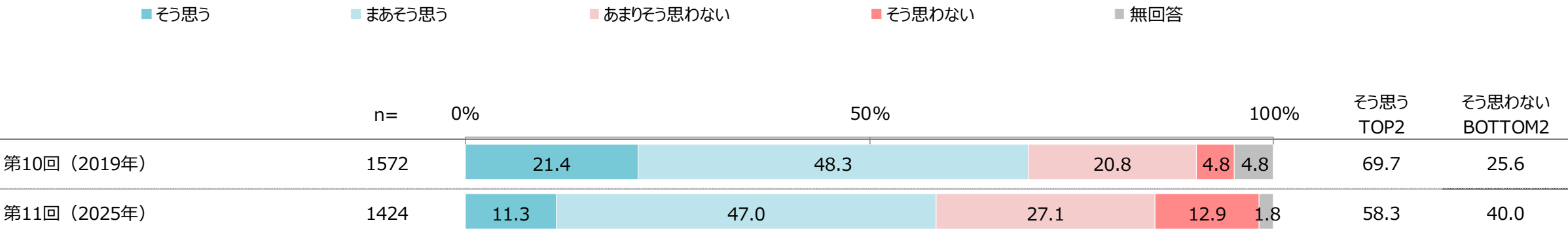
QD_4 仕事や環境に対する考え方:自分の能力を十分発揮できている

- 『自分の能力を十分発揮できている』と感じている（そう思うTOP2：そう思う+まあそう思う合計）のは58.3%で半数以上を占める。
一方で、感じていない（そう思わないBOTTOM2：あまりそう思わない+そう思わない合計）割合も 40.0%となっている。
- ジャンル別にみると、『自分の能力を十分発揮できている』と感じている（そう思うTOP2の割合が高い）のは、特に、洋楽・現代音楽63.7%、現代演劇62.1%などとなっている。



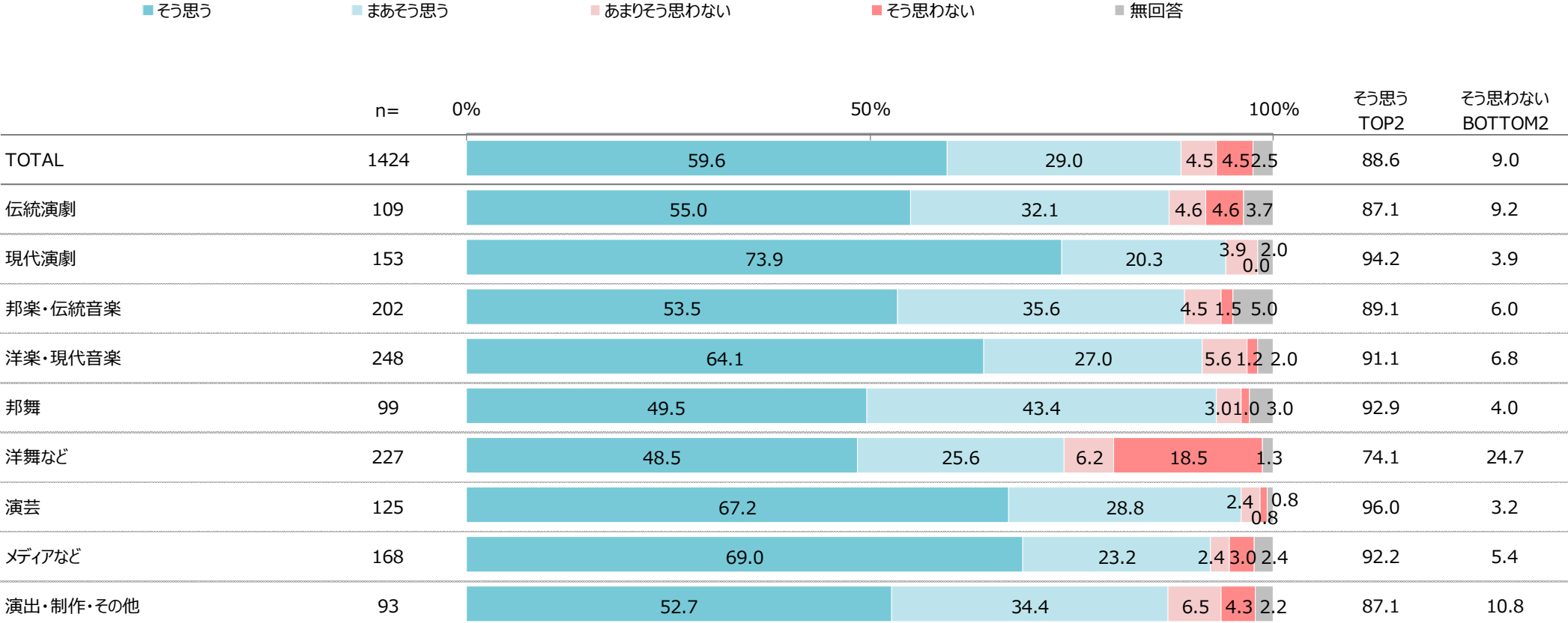
QD_4 仕事や環境に対する考え方:自分の能力を十分発揮できている

- 第11回調査では『自分の能力を十分発揮できている』と感じていない（そう思わないBOTTOM2）の割合は40.0%であり、第10回より14.4ポイント増加している。



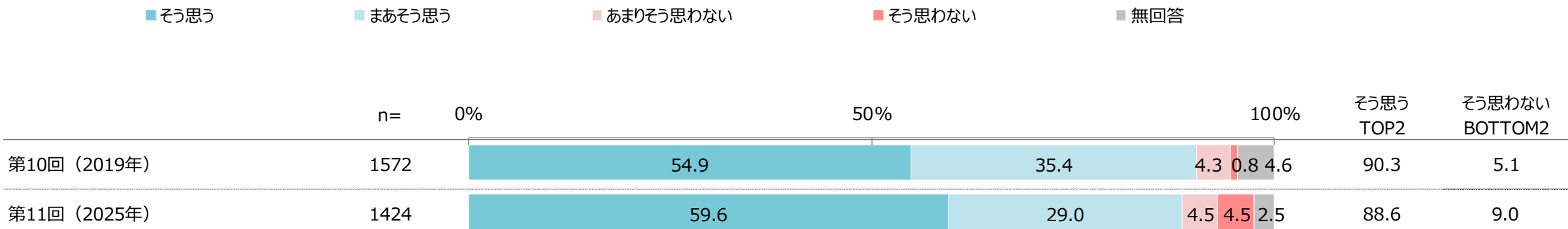
QD_4 仕事や環境に対する考え方:仕事に誇りを持っている

- 『仕事に誇りを持っている』と感じている（そう思うTOP2：そう思う+まあそう思う合計）のは88.6%と多数を占める。
- ジャンル別にみると、『仕事に誇りを持っている』と感じていない（そう思わないBOTTOM2：あまりそう思わない+そう思わない合計が高い）のは、特に、洋舞24.7%で高い傾向がある。



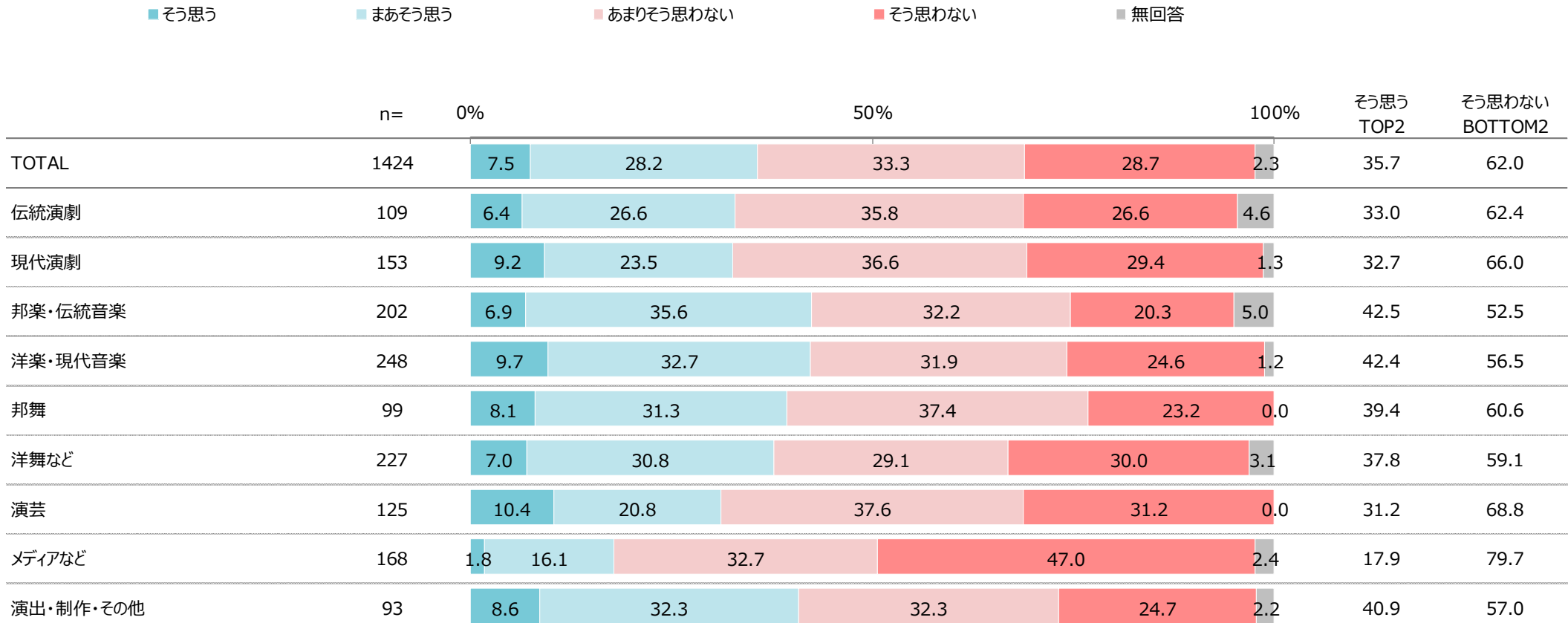
QD_4 仕事や環境に対する考え方:仕事に誇りを持っている

- 第10回に対して、第11回では「そう思う」が増加し、「まあそう思う」の割合が減少しており、より強い肯定的な回答にシフトしている。
一方で、「そう思わない」が第10回0.8%から第11回4.5%へと大きく増加しており、より強い否定的な意見を持つ人の割合が増えている。



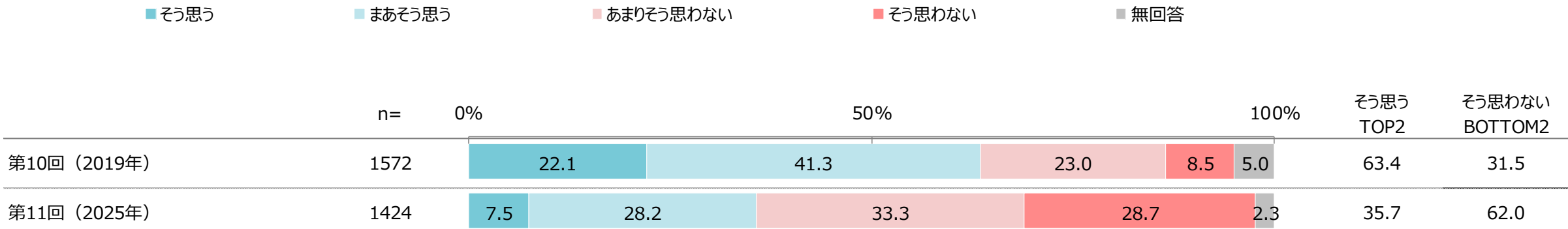
QD_4 仕事や環境に対する考え方:仕事量・機会には満足している

- 『仕事量・機会には満足している』と感じていない（そう思わないBOTTOM2：あまりそう思わない+そう思わない合計）のは62.0%で過半数を占める。
- ジャンル別にみると、『仕事量・機会には満足している』と感じていない（そう思わないBOTTOM2の割合が高い）のは、特に、メディアなど79.7%が顕著となっている。次いで、演芸68.8%も高い。



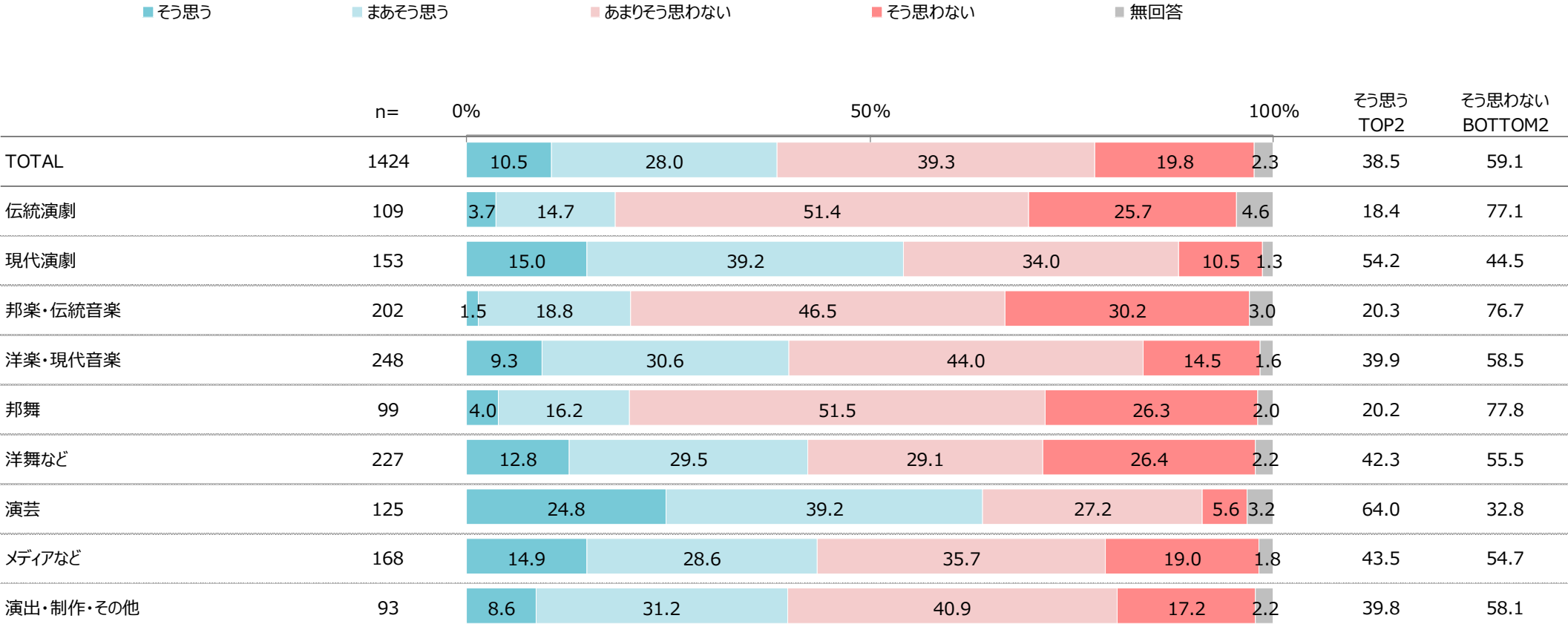
QD_4 仕事や環境に対する考え方:仕事量・機会には満足している

- 第11回調査では『仕事量・機会には満足している』と感じていない（そう思わないBOTTOM2）の割合が62.0%で、第10回より30.5ポイントと大幅に増加している。



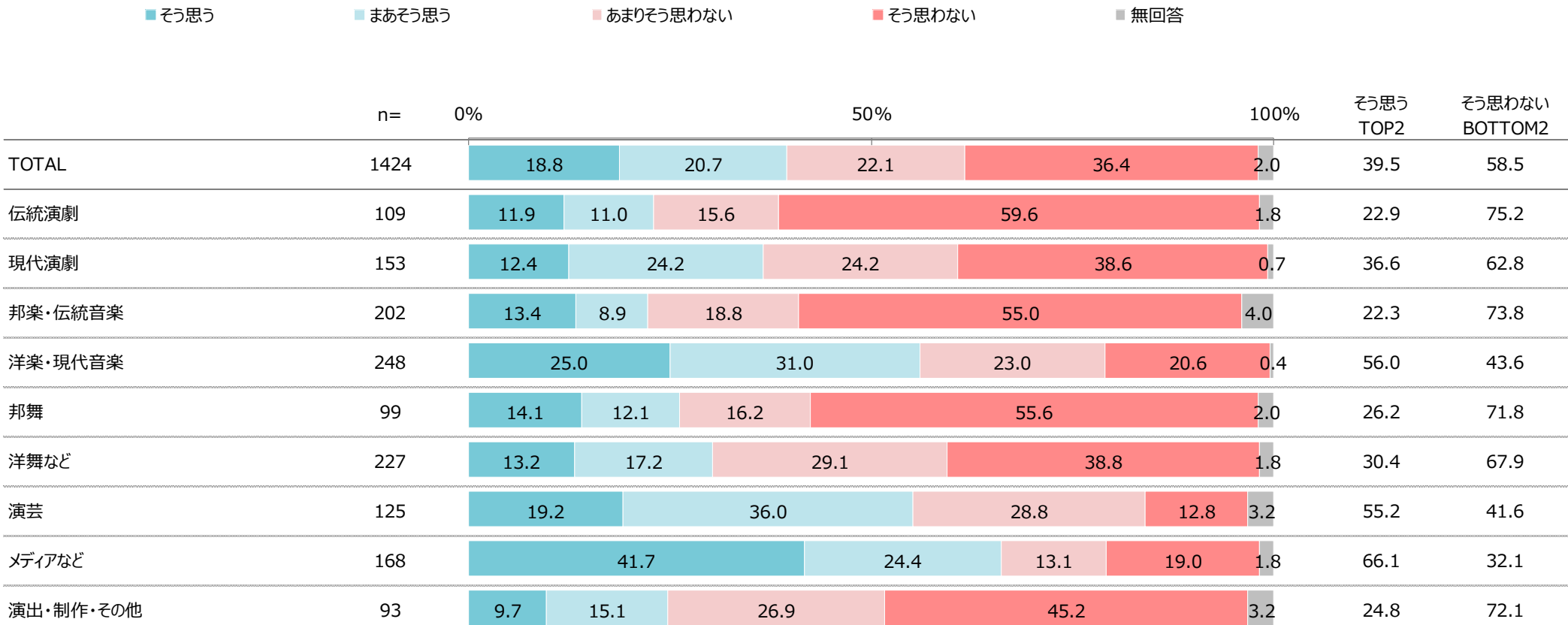
QD_4 仕事や環境に対する考え方:自分のジャンルは、これからも発展していくと思う

- 『自分のジャンルは、これからも発展していくと思う』と感じていない（そう思わないBOTTOM2：あまりそう思わない+そう思わない合計）のが59.1%で過半数を占める。
- ジャンル別にみると、『自分のジャンルは、これからも発展していくと思う』と感じていない（そう思わないBOTTOM2の割合が高い）のは、特に、邦舞77.8%、伝統演劇77.1%、邦楽・伝統音楽76.7%と伝統的なジャンルが顕著となっている。
一方で、『自分のジャンルは、これからも発展していくと思う』と感じている（そう思うTOP2の割合が高い）のは、演芸64.0%、現代演劇54.2%となっている。



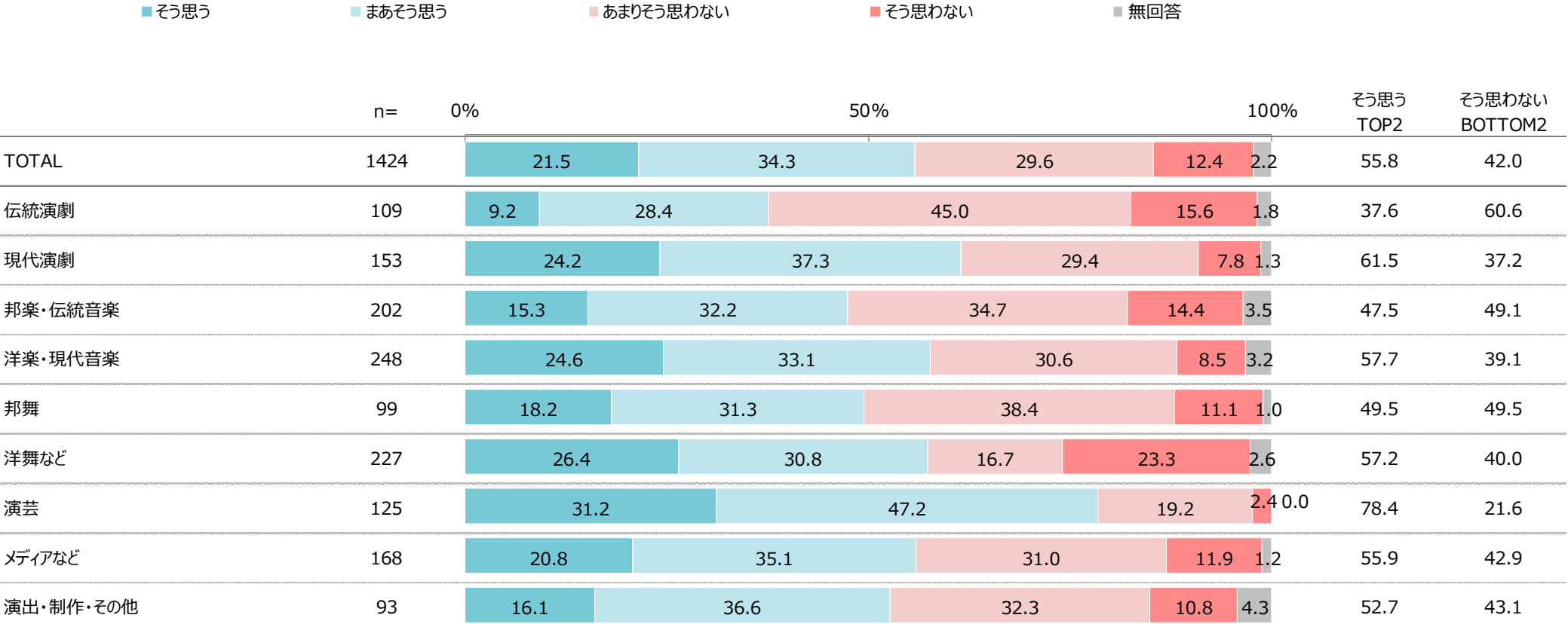
QD_4 仕事や環境に対する考え方:自分のジャンルでは後継者不足の心配はない

- 『自分のジャンルでは後継者不足の心配はない』と感じていない（そう思わないBOTTOM2：あまりそう思わない+そう思わない合計）のが58.5%で過半数を占める。
- ジャンル別にみると、『自分のジャンルでは後継者不足の心配はない』と感じていない（そう思わないBOTTOM2の割合が高い）のは、特に、伝統演劇75.2%、邦楽・伝統音楽73.8%、邦舞71.8%、と伝統的なジャンルが顕著となっている。
一方で、『自分のジャンルでは後継者不足の心配はない』と感じている（そう思うTOP2の割合が高い）のは、メディアなど66.1%となっている。



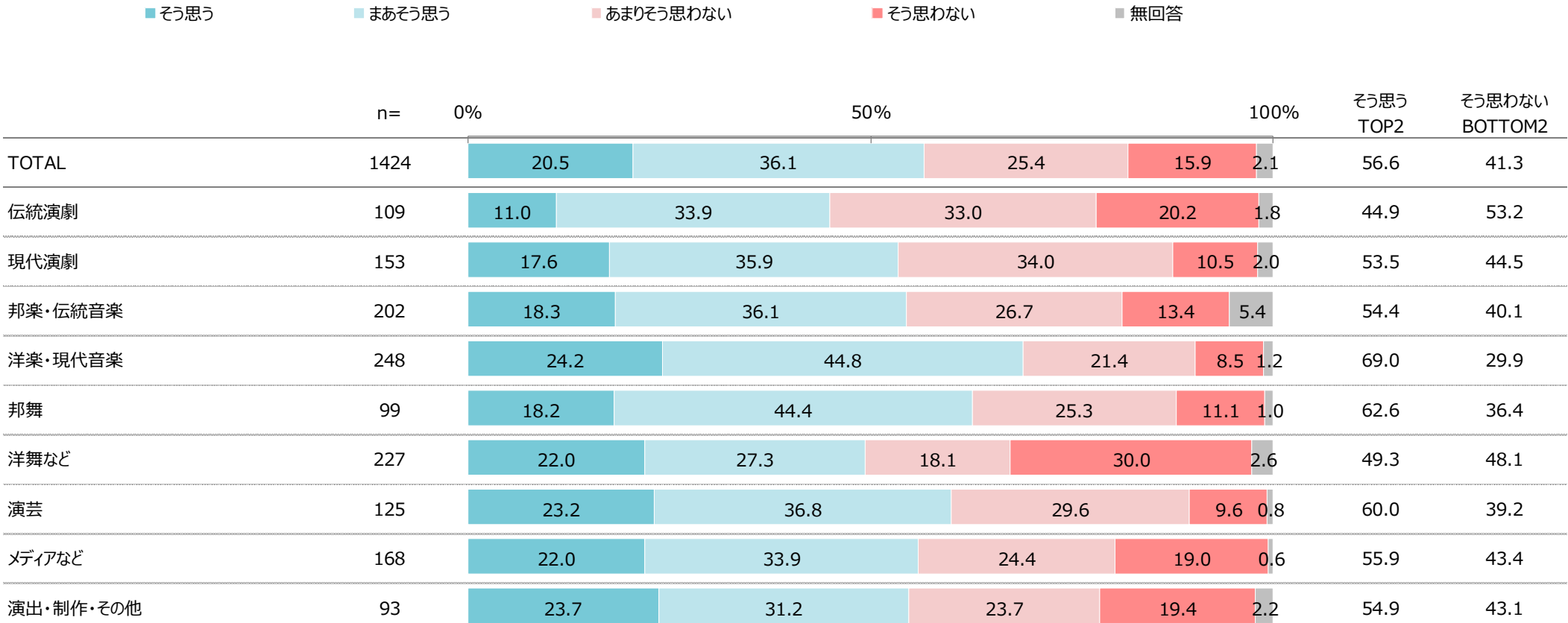
QD_4 仕事や環境に対する考え方:生の舞台・公演はこれからも活況だと思う

- 『生の舞台・公演はこれからも活況だと思う』と感じている（そう思うTOP2：そう思う+まあそう思う合計）のは55.8%と約半数を占める。
- ジャンル別にみると、『生の舞台・公演はこれからも活況だと思う』と感じている（そう思うTOP2の割合が高い）のは、特に、演芸78.4%、現代演劇61.5%となっている。一方で、『生の舞台・公演はこれからも活況だと思う』と感じていない（そう思わないBOTTOM2の割合が高い）のは、伝統演劇60.6%となっている。



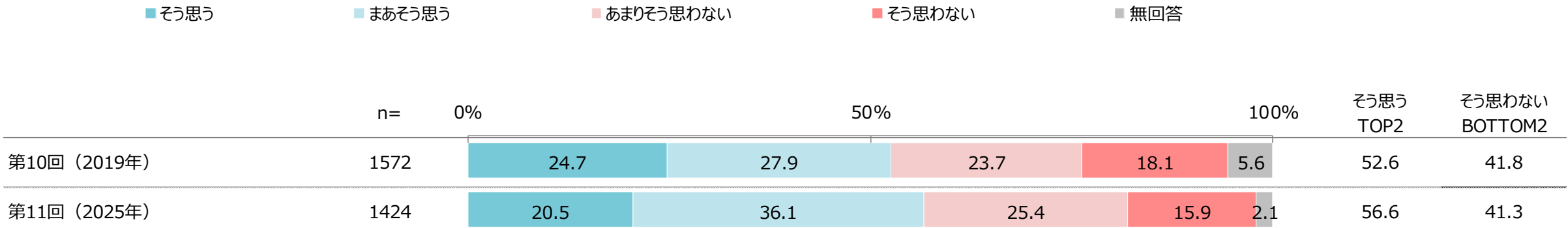
QD_4 仕事や環境に対する考え方:自分がやりたくないと思う仕事は断ることができる

- 『自分がやりたくないと思う仕事は断ることができる』と感じている（そう思うTOP2：そう思う+まあそう思う合計）のは56.6%と約半数を占める。
- ジャンル別にみると、『自分がやりたくないと思う仕事は断ることができる』と感じている（そう思うTOP2の割合が高い）のは、特に、洋楽・現代音楽69.0%で顕著となっている。



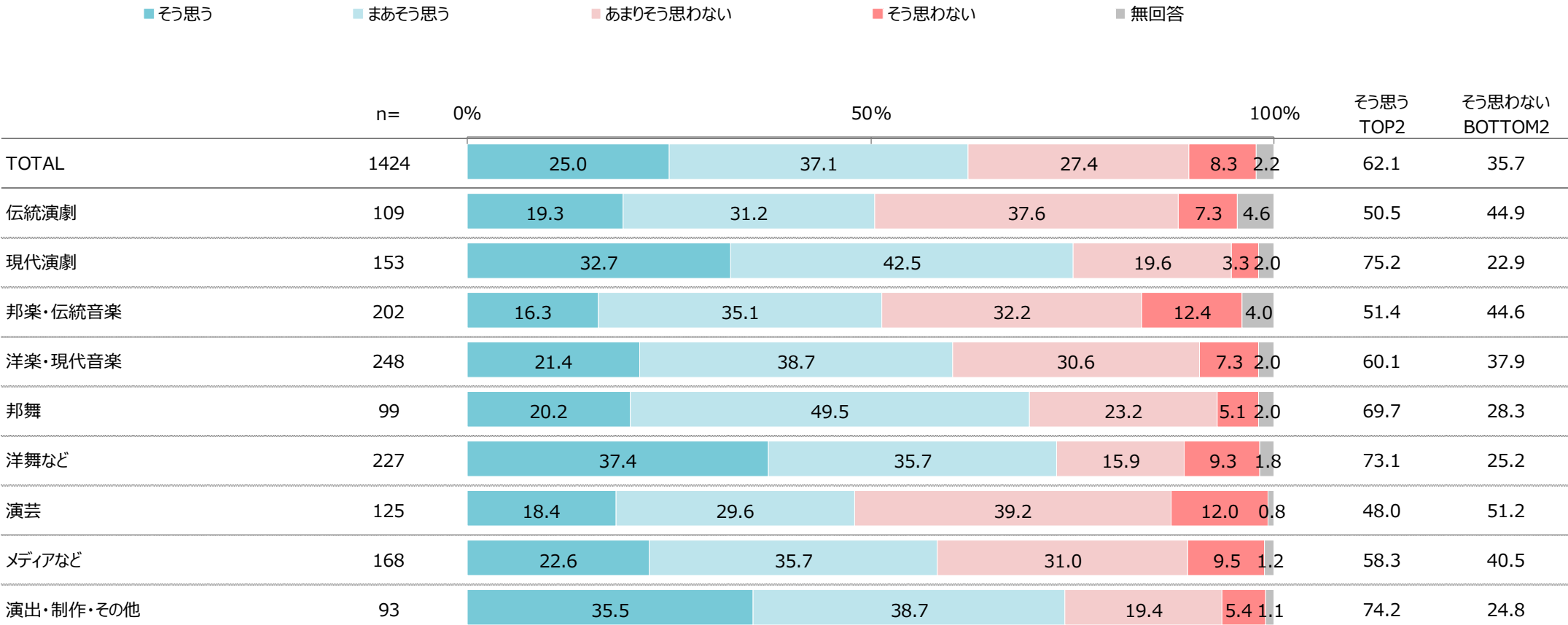
QD_4 仕事や環境に対する考え方:自分がやりたくないと思う仕事は断ることができる

- 第11回調査では『自分がやりたくないと思う仕事は断ることができる』と感じている（そう思うTOP2）の割合が56.6%で、第10回より4.0ポイント増加し、肯定的な回答が否定的な回答を上回っている。
ただし、第10回に対して第11回では「そう思う」が減少し「まあそう思う」が増加しており、肯定的な回答の中でも強い肯定から弱い肯定へのシフトがみられる。全体的に、依然として4割以上の人が仕事を断ることに困難を感じていることがわかる。



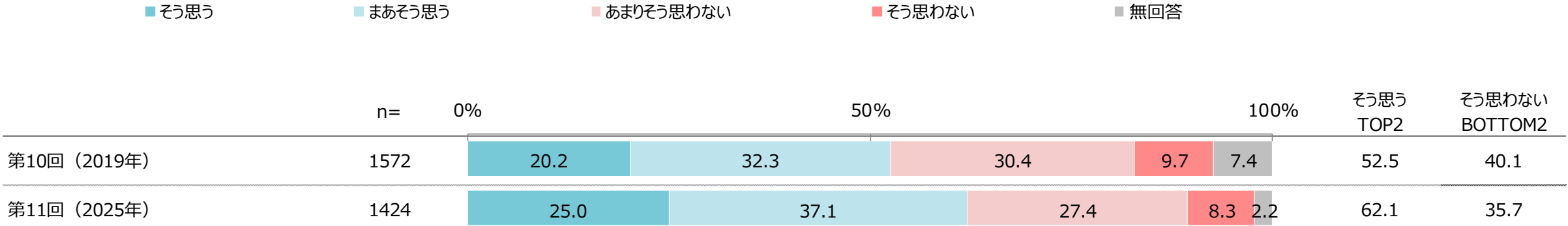
QD_4 仕事や環境に対する考え方:生活との両立のために拘束時間などの改革が必要だ

- 『生活との両立のために拘束時間などの改革が必要だ』と感じている（そう思うTOP2：そう思う+まあそう思う合計）のは62.1%と過半数を占める。
- ジャンル別にみると、『生活との両立のために拘束時間などの改革が必要だ』と感じている（そう思うTOP2の割合が高い）のは、特に、現代演劇75.2%、演出・制作・その他74.2%、洋舞73.1%で顕著となっている。



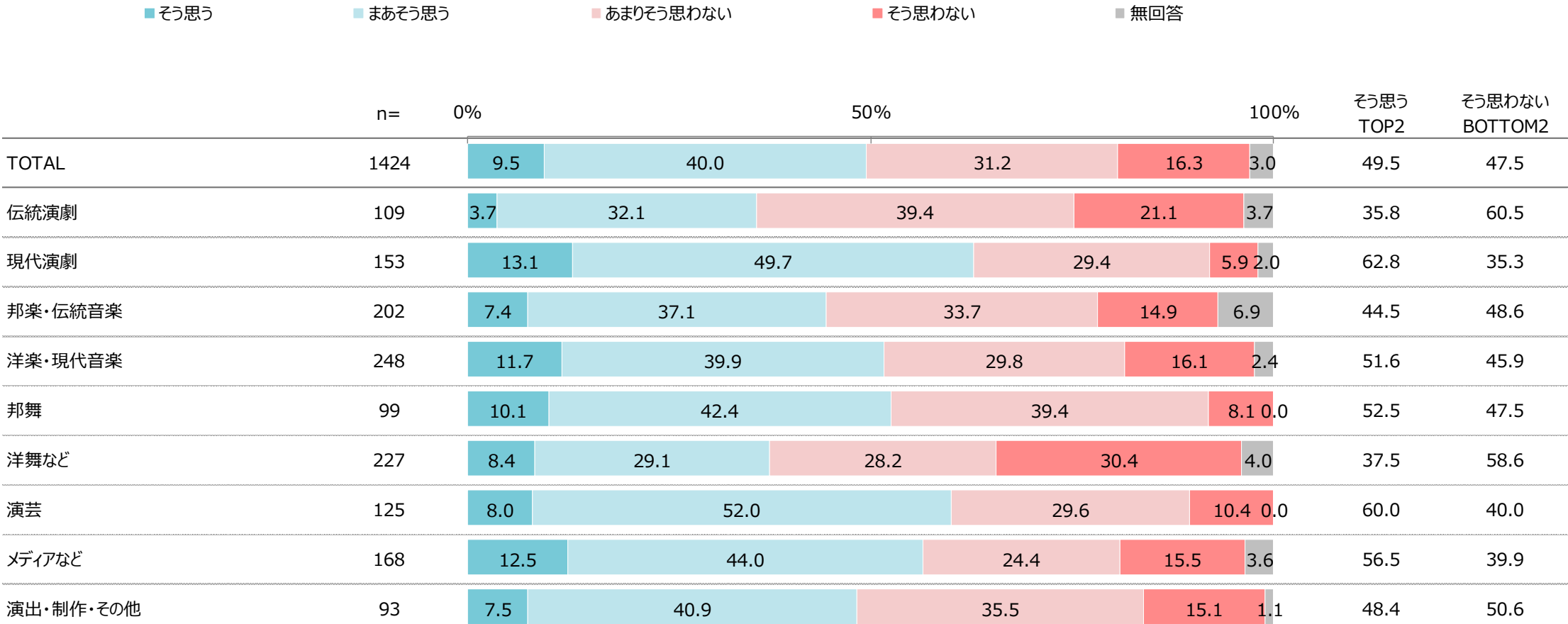
QD_4 仕事や環境に対する考え方:生活との両立のために拘束時間などの改革が必要だ

- 第11回調査では『生活との両立のために拘束時間などの改革が必要だ』と感じている（そう思うTOP2）の割合は62.1%で、第10回より9.6ポイント増加している。



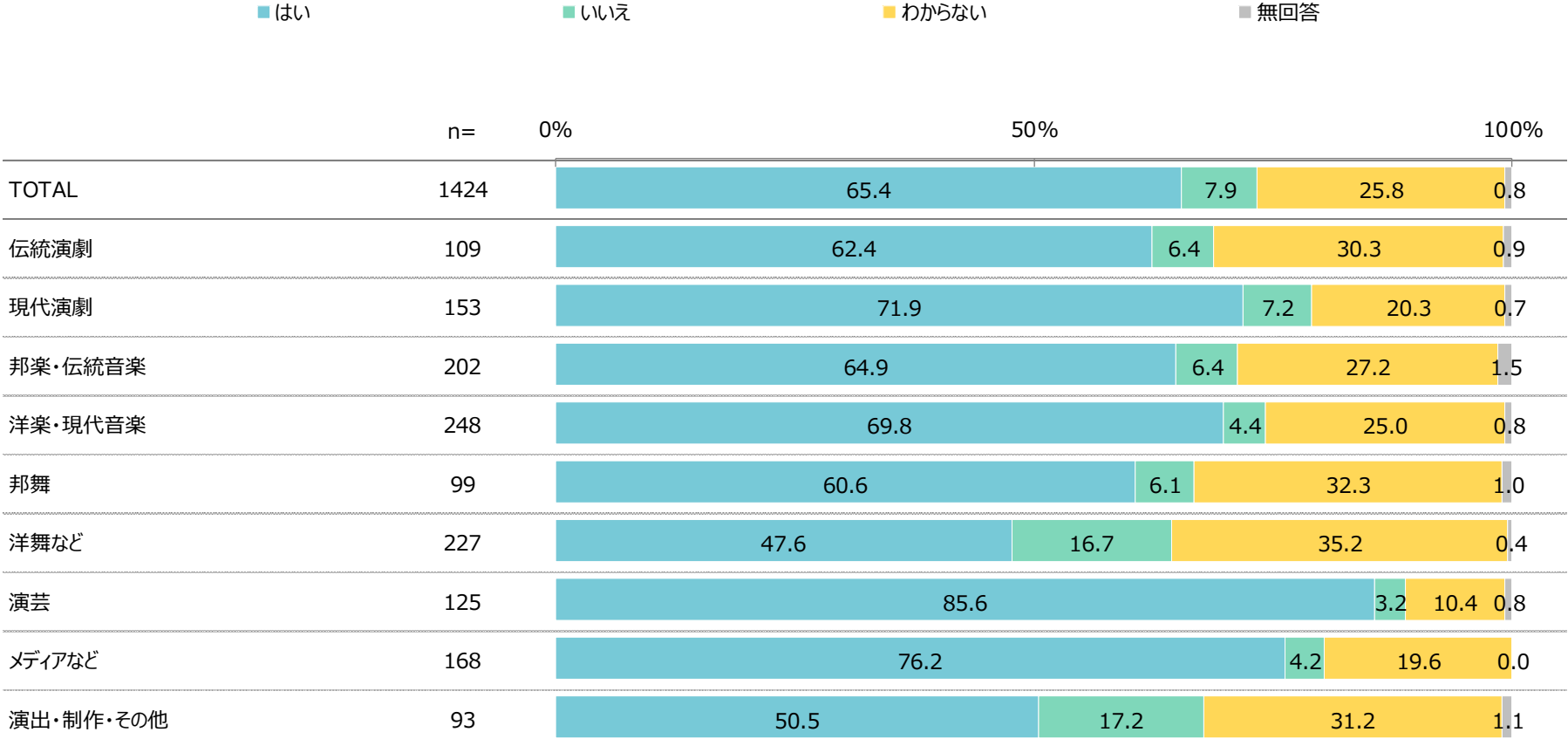
QD_4 仕事や環境に対する考え方:ハラスメントが減った／ハラスメントの不安が減った

- 『ハラスメントが減った／ハラスメントの不安が減った』と感じている（そう思うTOP2：そう思う+まあそう思う合計）は49.5%、感じていない（そう思わないBOTTOM2：あまりそう思わない+そう思わない合計）は47.5%で、肯定的な回答と否定的な回答がほぼ拮抗している。
- ジャンル別にみると、『ハラスメントが減った／ハラスメントの不安が減った』と感じている（そう思うTOP2の割合が高い）のは、特に、現代演劇62.8%、演芸60.0%となっている。一方で、『ハラスメントが減った／ハラスメントの不安が減った』と感じていない（そう思わないBOTTOM2の割合が高い）のは、伝統演劇60.5%、洋舞など58.6%となっている。



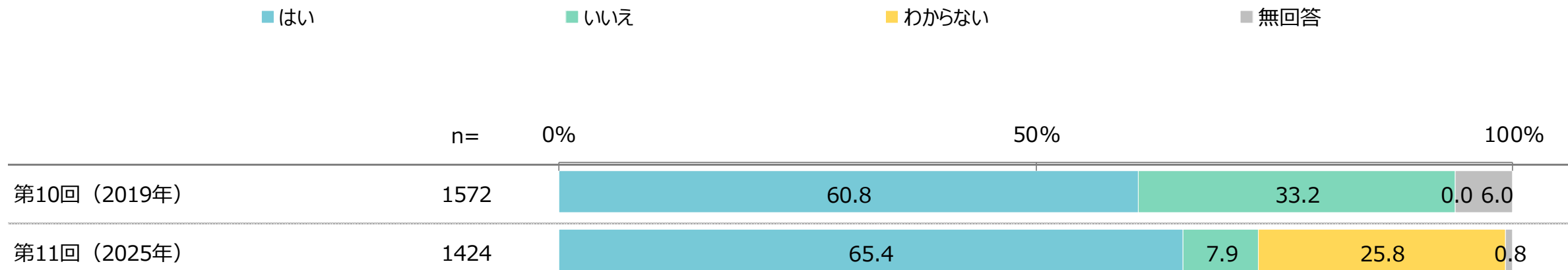
QD_5a 10年後も今の仕事を続けていたいと思うか

- 10年後も今の仕事を続けていたいと思うかについては、65.4%が10年後も今の仕事を続けたい（はい）と回答している一方で、25.8%が「わからない」と回答している。
- ジャンル別にみると、継続意向が高いのは、演芸85.6%、メディアなど76.2%、現代演劇71.9%など。一方、洋舞などでは、継続意向が47.6%と最も低く、「いいえ」16.7%と「わからない」35.2%の割合が他のジャンルと比べて高い。演出・制作・その他も同様の傾向となっている（「いいえ」17.2%、「わからない」31.2%）。



QD_5a 10年後も今の仕事を続けていたいと思うか

- 第11回では継続意向が65.4%であり、第10回から4.6ポイント増加している。



* 第10回と第11回で聴取選択肢が異なる。

QD_5b 10年後は今の仕事を続けていないかもしれないと思う理由（3LA）

【ベース：QD_5aで、10年後も今の仕事を続けたいかを「いいえ」「わからない」と回答した人】

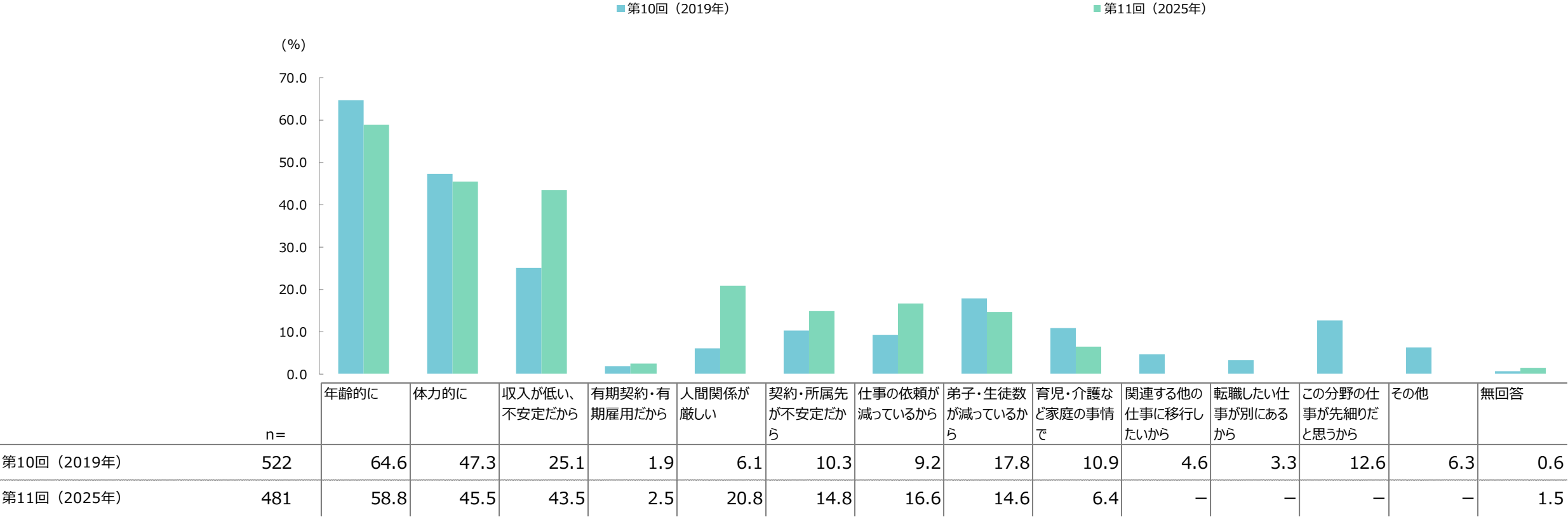
- 10年後は今の仕事を続けていないかもしれないと思う理由は、「年齢的に」58.8%が最も多く、次いで「体力的に」45.5%、「収入が低い、不安定だから」43.5%が主な理由として挙げられている。
- ジャンル別にみると、伝統演劇では、「収入が低い、不安定だから」55.0%、「人間関係が厳しい」32.5%、「契約・所属先が不安定だから」25.0%、邦楽・伝統音楽では、「年齢的に」69.1%、「体力的に」58.8%、「弟子・生徒数が減っているから」25.0%などとともに、「育児・介護など家庭の事情で」13.2%、邦舞では、「弟子・生徒数が減っているから」50.0%、洋舞などでは、「収入が低い、不安定だから」57.6%、「人間関係が厳しい」46.6%、メディアなどでは、「仕事の依頼が減っているから」55.0%などが他のジャンルと比べて特に高い。



QD_5b 10年後は今の仕事を続けていないかもしれないと思う理由（3LA）

【ベース： QD_5aで、 10年後も今の仕事を続けたいかを「いいえ」「わからない」と回答した人】

- 第10回から第11回の変化として、「年齢的に」や「体力的に」、「弟子・生徒数が減っているから」、「育児・介護など家庭の事情」は減少、「収入が低い、不安定だから」や「人間関係が厳しい」、「契約・所属先が不安定だから」、「仕事の依頼が減っているから」は増加の傾向となっている。



QD_5c 今の仕事を続けている理由（FA）

回答者の多くが情熱ややりがい、現実的な理由などを組み合わせて現在の仕事を続けていることがわかる。また、伝統や文化の継承、使命感、楽しさ、社会貢献といった多様な要素が働いていることが確認できる。

■特に多いキーワード（上位10位）

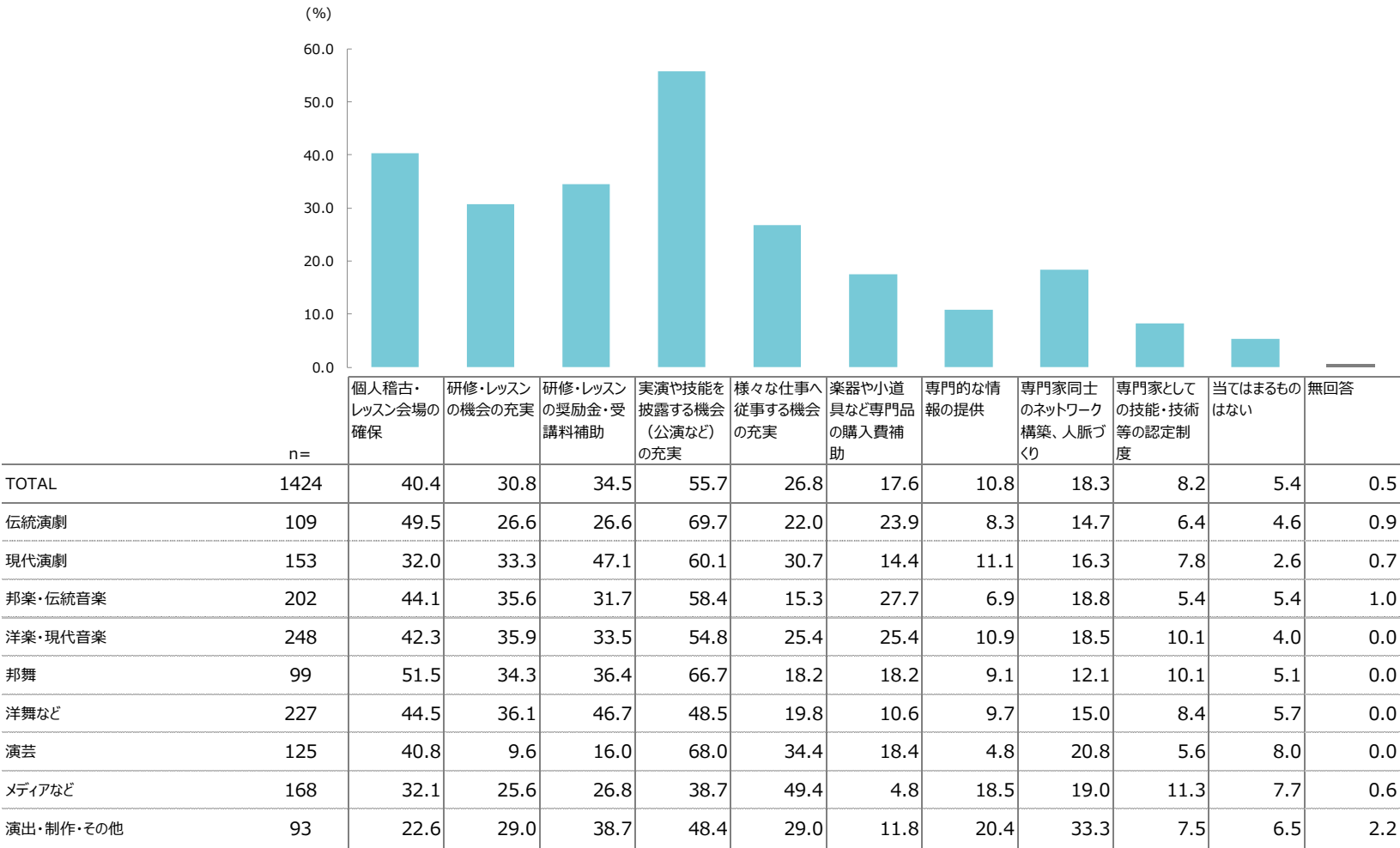
1. 好きだから - 178件
2. やりがいがあるから - 112件
3. 他にできないから - 82件
4. 生活のため - 74件
5. 自己実現・表現 - 60件
6. 生きがい - 54件
7. 伝統・文化の継承 - 47件
8. 使命感 - 41件
9. 楽しいから - 35件
10. 社会貢献 - 32件

■特徴的なコメント

- 「人生そのもの」
- 「やればやるほど面白い。舞台に立てることが何よりの喜び」
- 「最も専門性が評価される仕事だと思う」
- 「師匠から受け継いだ芸や伝統を伝えること、それを誇りに思っている」
- 「まだまだ経験が足りないから、続けなければいけないと思っている」
- 「自分の特性を活かすことができる仕事だし、高齢になっても続けられるから」
- 「AI技術やSNS等の発達により、生身で体験することの重要性が高まっている。想像力や表現力を育むコンテンツとして、芸術体験は大いに貢献できると考えている」

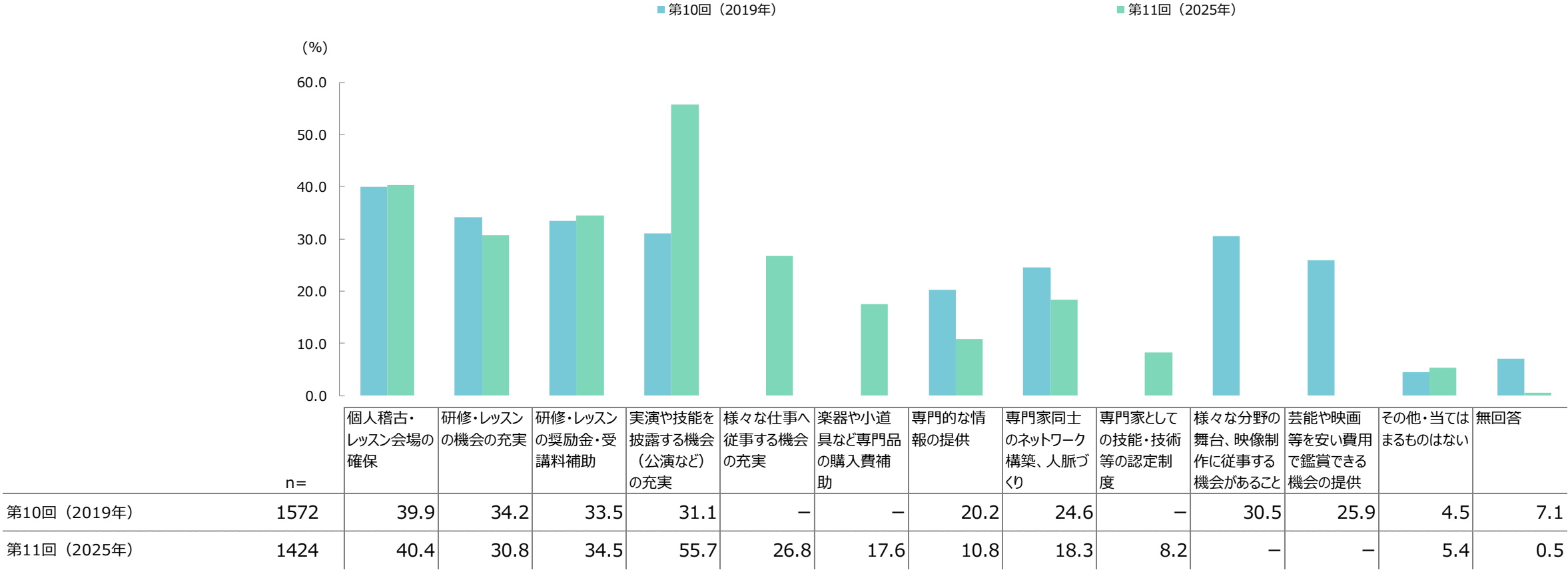
QD_6 技術・技能を向上させるための必要条件（3LA）

- 技術・技能を向上させるための必要条件としては、「実演や技能を披露する機会（公演など）の充実」が最も高く55.7%、次いで「個人稽古・レッスン会場の確保」40.4%、「研修・レッスンの奨励金・受講料補助」34.5%と続く。
- ジャンル別にみると、伝統演劇では「実演や技能を披露する機会（公演など）の充実」69.7%、現代演劇では「研修・レッスンの奨励金・受講料補助」47.1%、邦楽・伝統音楽では「楽器や小道具など専門品の購入費補助」27.7%、邦舞では「個人稽古・レッスン会場の確保」51.5%、演芸では「実演や技能を披露する機会（公演など）の充実」68.0%、メディアなどでは「様々な仕事へ従事する機会の充実」49.4%、演出・制作・その他では、「専門家同士のネットワーク構築、人脈づくり」33.3%などが、他のジャンルに比べて高い。



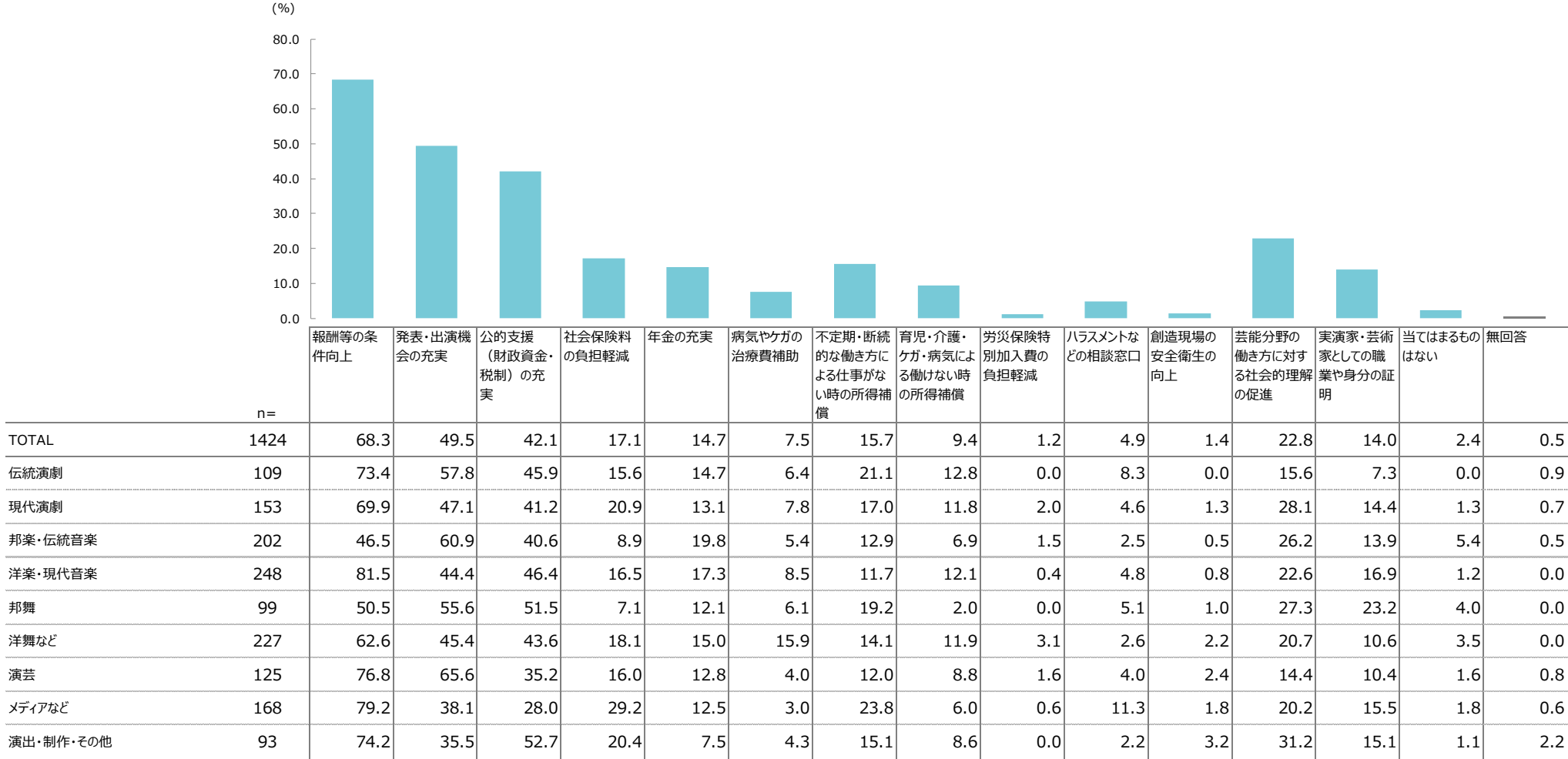
QD_6 技術・技能を向上させるための必要条件（3LA）

- 第10回と第11回で聴取項目の相違があるものの、「実演や技能を披露する機会（公演など）の充実」が、31.1%から55.7%へと24.6ポイント増加している。



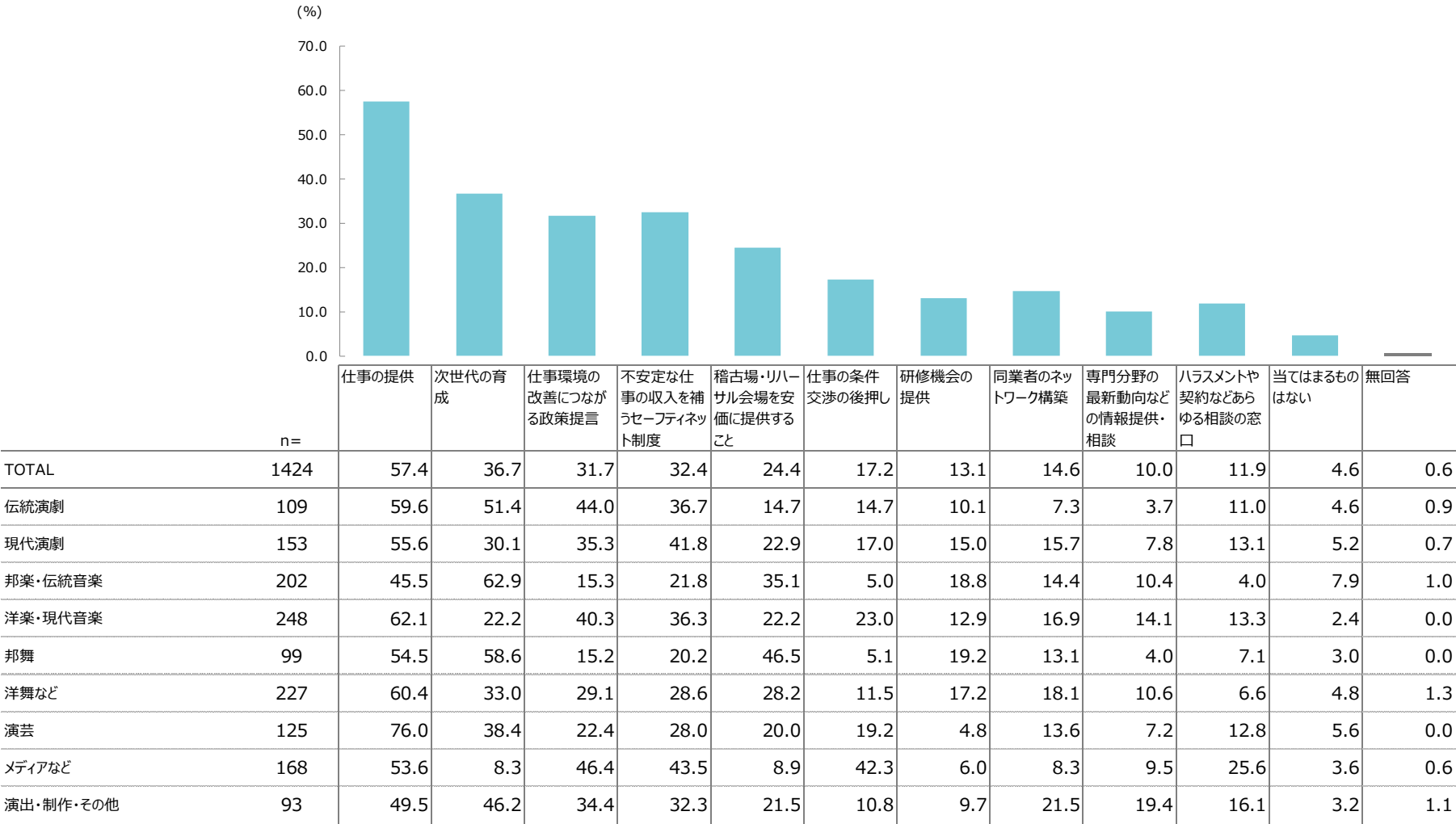
QD_7 安心して芸能活動に取り組むために必要なこと（3LA）

- 安心して芸能活動に取り組むために必要なこととして、「報酬等の条件向上」68.3%が最も高く、次いで「発表・出演機会の充実」49.5%、「公的支援（財政資金・税制）の充実」42.1%と続く。
- ジャンル別にみると、伝統演劇では、「報酬等の条件向上」73.4%、「発表・出演機会の充実」57.8%、「不定期・断続的な働き方による仕事がない時の所得補償」21.1%、邦楽・伝統音楽では、「発表・出演機会の充実」60.9%、「年金の充実」19.8%、洋楽・現代音楽では、「報酬等の条件向上」81.5%、「公的支援（財政資金・税制）の充実」46.4%、邦舞では、「実演家・芸術家としての職業や身分の証明」23.2%、メディアなどでは、「社会保険料の負担軽減」29.2%、ハラスメントなどの相談窓口」11.3%、演出・制作・その他では、「公的支援（財政資金・税制）の充実」52.7%、「芸能分野の働き方に対する社会的理解の促進」31.2%などが他のジャンルより高い。



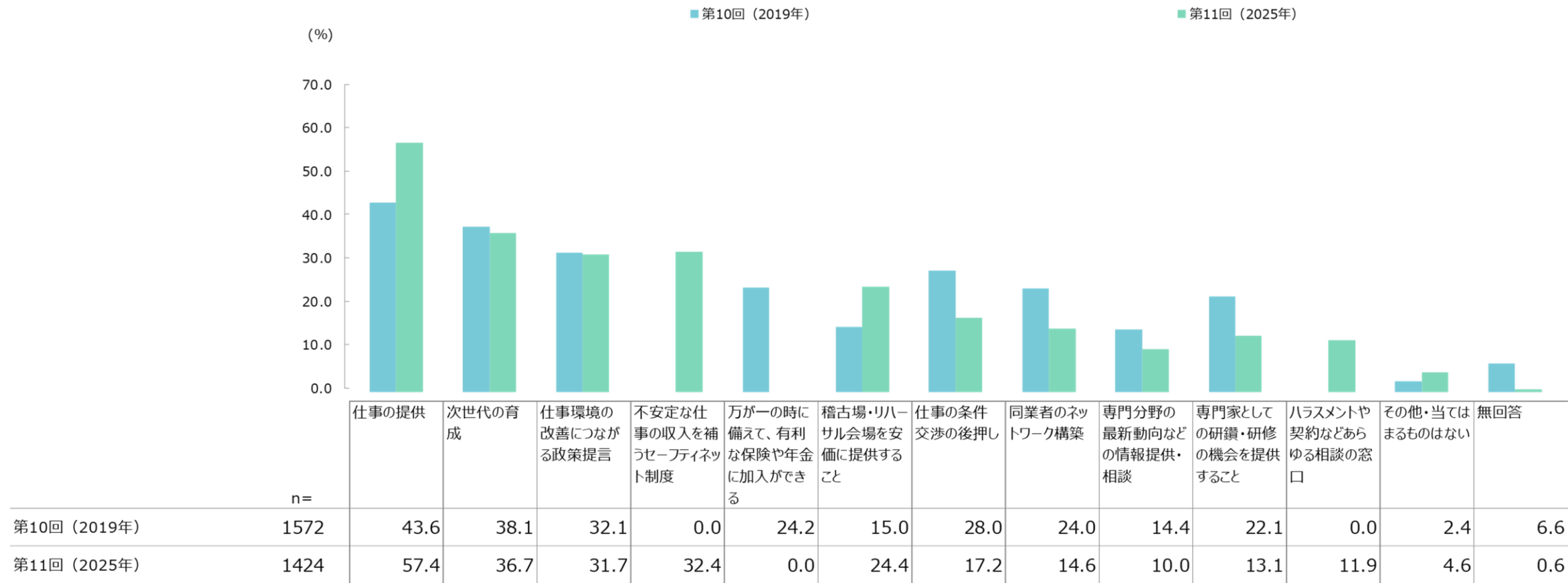
QD_8 会員組織に期待する役割（3LA）

- 会員組織に期待する役割では、「仕事の提供」57.4%が最も高く、次いで「次世代の育成」36.7%、「不安定な仕事の収入を補うセーフティネット制度」32.4%となっている。
- ジャンル別にみると、伝統演劇では、「次世代の育成」51.4%、「仕事環境の改善につながる政策提言」44.0%、邦楽・伝統音楽では、「次世代の育成」62.9%、「稽古場・リハーサル会場を安価に提供すること」35.1%であり、邦舞も同様の傾向（次世代育成58.6%、稽古場等を安価に提供46.5%）。洋楽・現代音楽は、「仕事環境の改善につながる政策提言」40.3%、「不安定な仕事の収入を補うセーフティネット制度」36.3%、演芸では、「仕事の提供」76.0%、メディアなどでは、「仕事の条件交渉の後押し」42.3%、「ハラスメントや契約などあらゆる相談の窓口」25.6%などが他のジャンルより高くなっている。



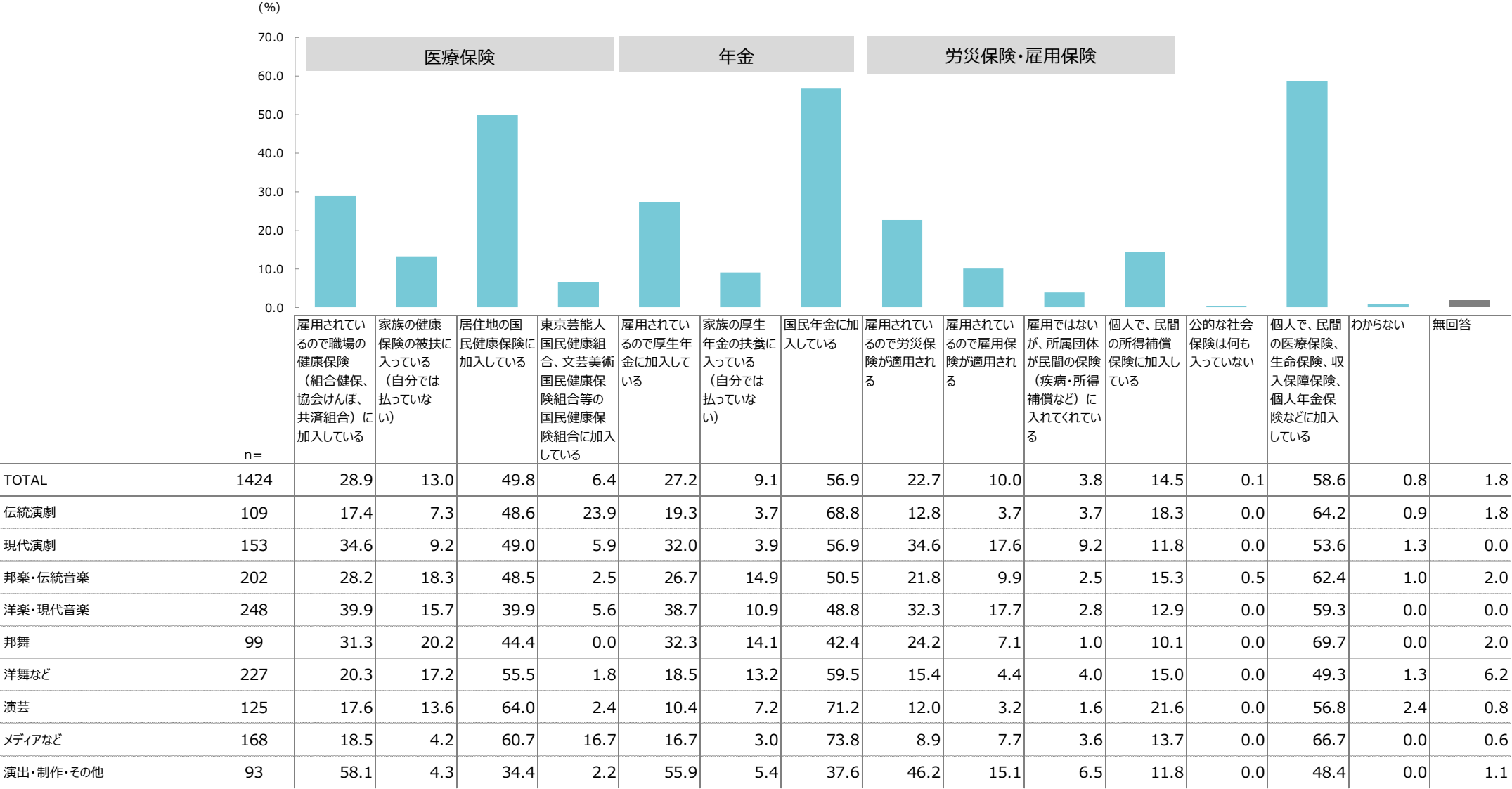
QD_8 会員組織に期待する役割（3LA）

- 第10回と第11回で聴取項目の相違があるものの、「仕事の提供」57.4%が第10回より13.8ポイント高く、「稽古場・リハーサル会場を安価に提供すること」24.4%も第10回より9.4ポイント高くなっている。



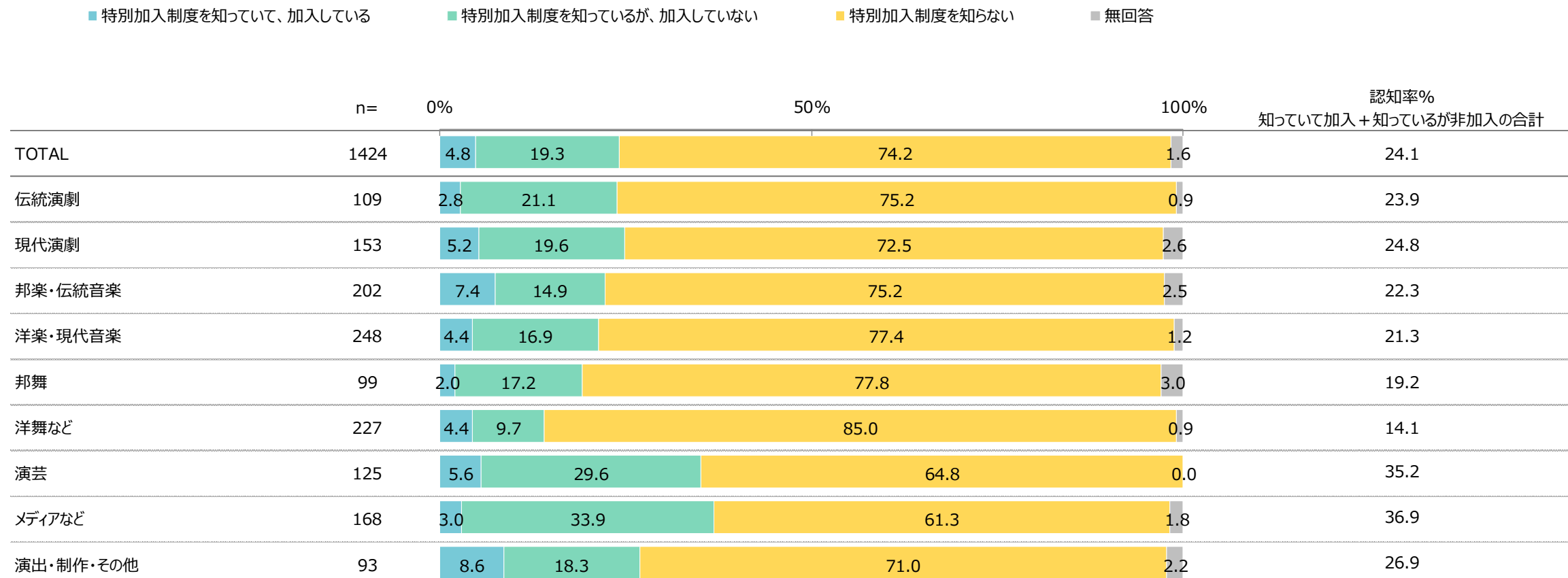
QD_9 ケガや病気、老後に備えるために、加入、適用されている制度（MA）

- ケガや病気、老後に備えるために、加入、適用されている制度では、「個人で、民間の医療保険、生命保険、収入保障保険、個人年金保険などに加入している」が58.6%と最も高く、次いで「国民年金に加入している」56.9%、「居住地の国民健康保険に加入している」49.8%の順となっている。



QD_10a 労災保険特別加入制度の加入・認知状況

- 労災保険特別加入制度の加入・認知状況は、全体74.2%が「特別加入制度を知らない」と回答しており、認知度が低いことがわかる。
「特別加入制度を知っているが、加入していない」19.3%、「特別加入制度を知っていて、加入している」4.8%となっており、合計した認知率は24.1%に留まる。
- ジャンル別にみると、「特別加入制度を知っていて、加入している」割合が比較的高いのは、演出・制作・その他8.6%、邦楽・伝統音楽7.4%など。
「特別加入制度を知っているが、加入していない」割合が高いのは、メディアなど33.9%、演芸29.6%など。
「特別加入制度を知らない」割合が高いのは、洋舞など85.0%となっており、認知率が最も低い。



QD_10b 労災保険特別加入制度に入らない理由（MA）

【ベース：QD_10aで、「特別加入制度を知っているが、加入していない」人】

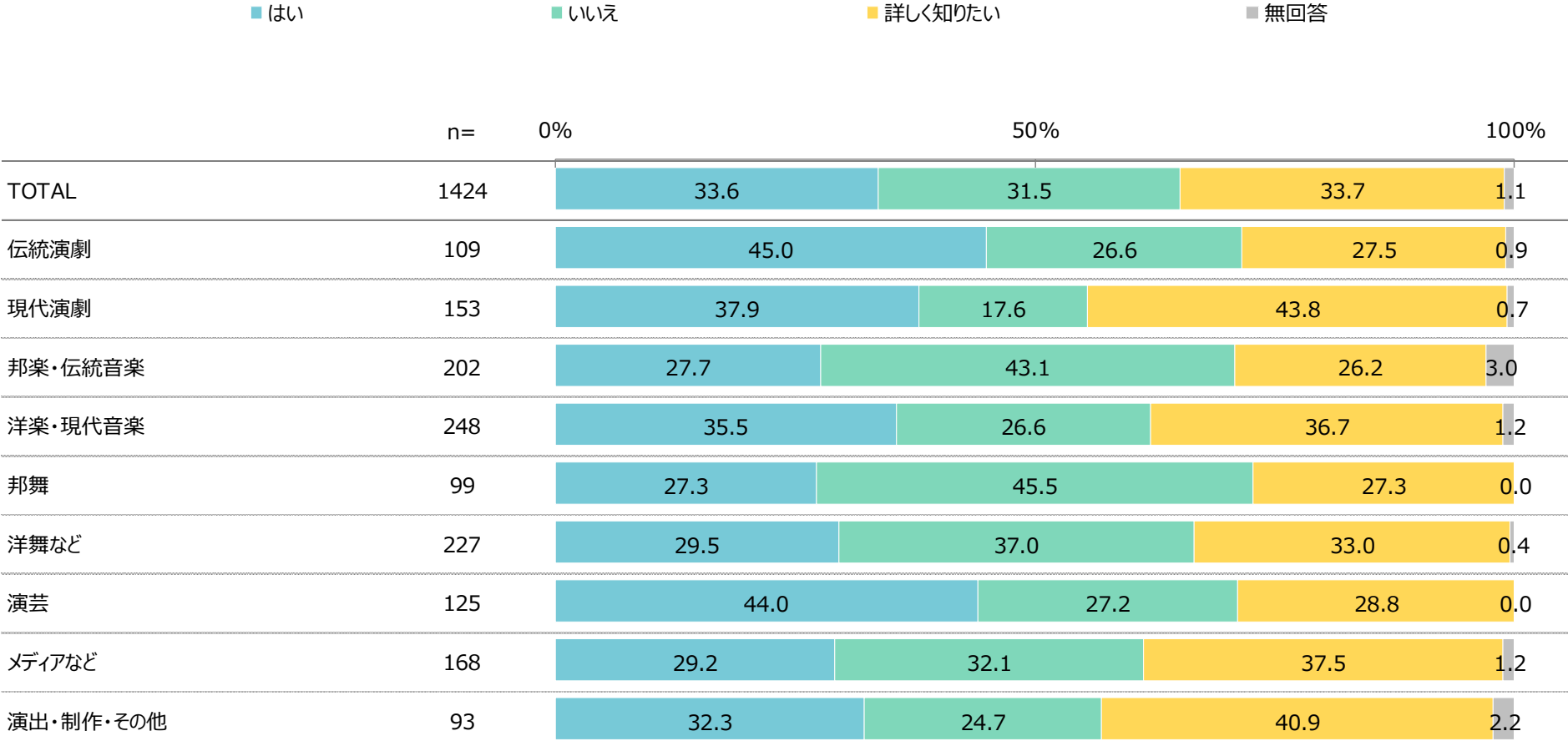
- 労災保険特別加入制度に入らない理由としては、「必要性を感じない」33.5%、「保険料・手数料の全額自己負担は経済的に厳しい」30.9%などが上位を占めている。
- ジャンル別にみると、現代演劇では、「所属団体で労災保険に入っている」36.7%、邦楽・伝統音楽では、「必要性を感じない」40.0%、「仕事上でケガや病気をする事は無いと思う」23.3%、メディアなどでは、「保険料・手数料の全額自己負担は経済的に厳しい」40.4%、「必要性を感じない」42.1%などが他のジャンルと比べて高い。一方で、演芸では、「仕事の仕方が業務委託ではないため加入対象にならない」が2.7%と最も低く、他のジャンルと比べて業務形態の違いがみられる。



QD_10b 労災保険特別加入に入らない理由は何ですか。当てはまるものすべてを選んでください。※「労災保険特別加入」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。「特別加入制度を知っているが、加入していない」と答えた方に伺います。

QD_11 「芸術家のための互助プラットフォーム」が実現された場合の加入意向

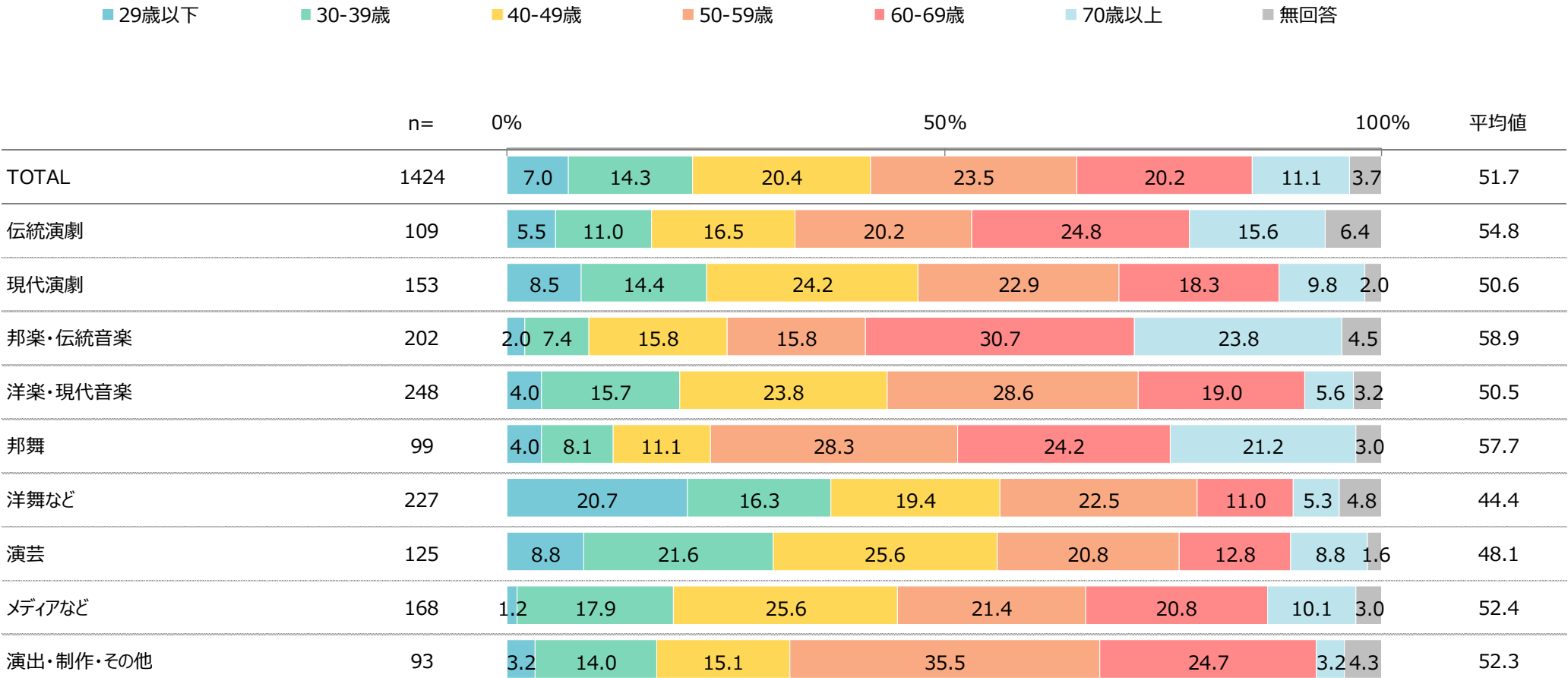
- 「芸術家のための互助プラットフォーム」が実現された場合の加入意向は、「はい（加入意向あり）」33.6%、「いいえ（加入意向なし）」31.5%、「詳しく知りたい」33.7%がほぼ同程度の割合を示している。
- ジャンル別にみると、加入意向ありの割合は、伝統演劇45.0%、演芸44.0%と高い。「詳しく知りたい」の割合は、現代演劇43.8%、演出・制作・その他40.9%が高い。加入意向なしの割合は、邦楽・伝統音楽43.1%が高い。



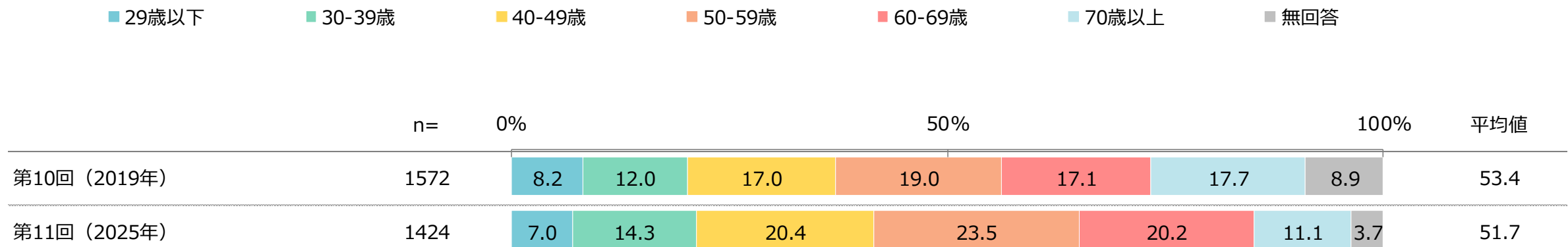
QD_11 実演家やスタッフが安心して働くことができるよう、個人負担を軽減して労災保険に加入しやすくするため、事業者（発注者）を含めた業界全体でつくる「芸術家のための互助プラットフォーム」（芸能関係作業従事者対象の労災保険特別加入団体の新規設立）が検討されています。この互助プラットフォームが実現された場合、加入したいと思いますか。
※「芸術家のための互助プラットフォーム」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

QE_1a 年代

- TOTALの平均年齢は、51.7歳。
「50-59歳」が最も高く23.5%。「40-49歳」20.4%、「60-69歳」20.2%が続く。
- ジャンル別にみると、邦楽・伝統音楽、邦舞では、60歳以上の割合が高い。

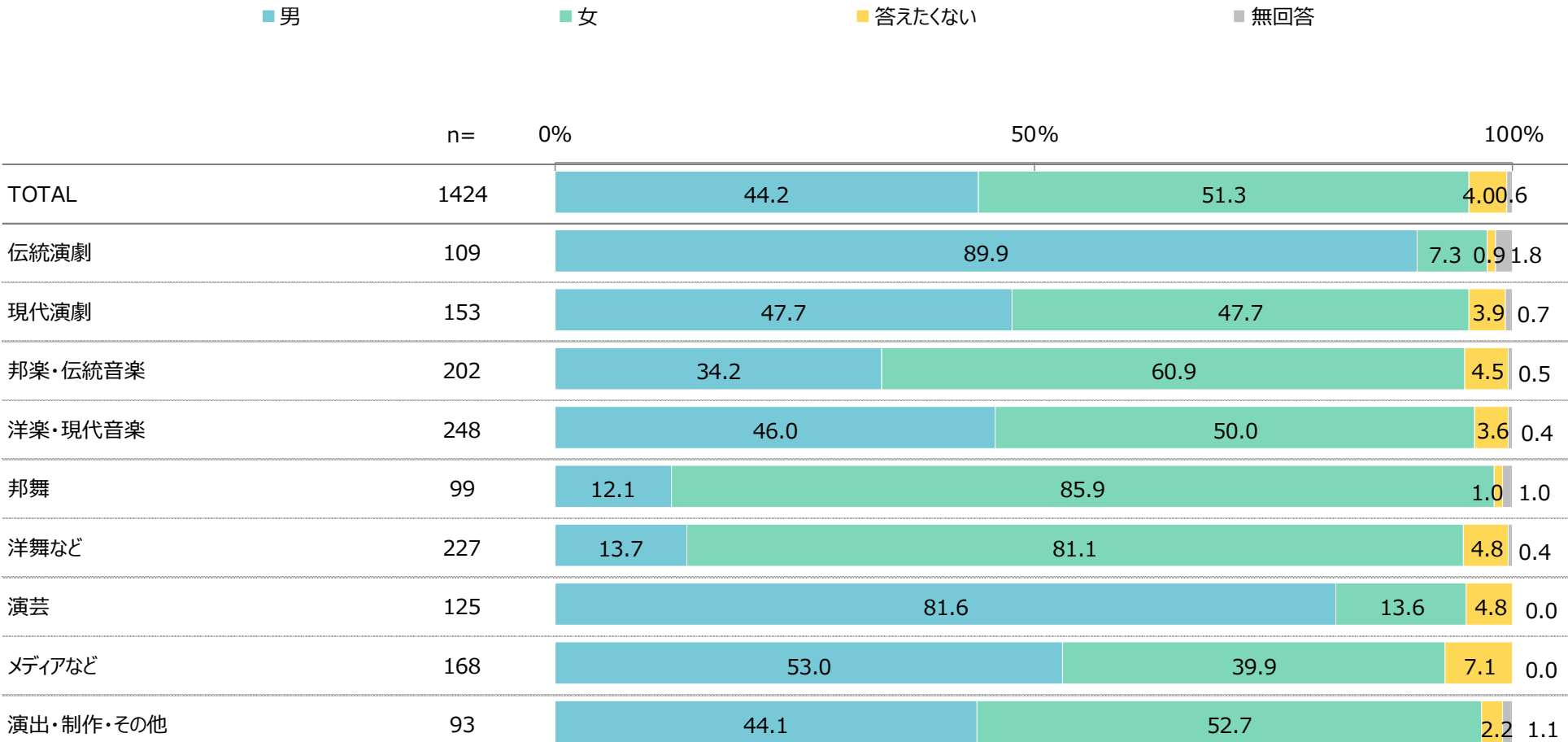


QE_1a 年代

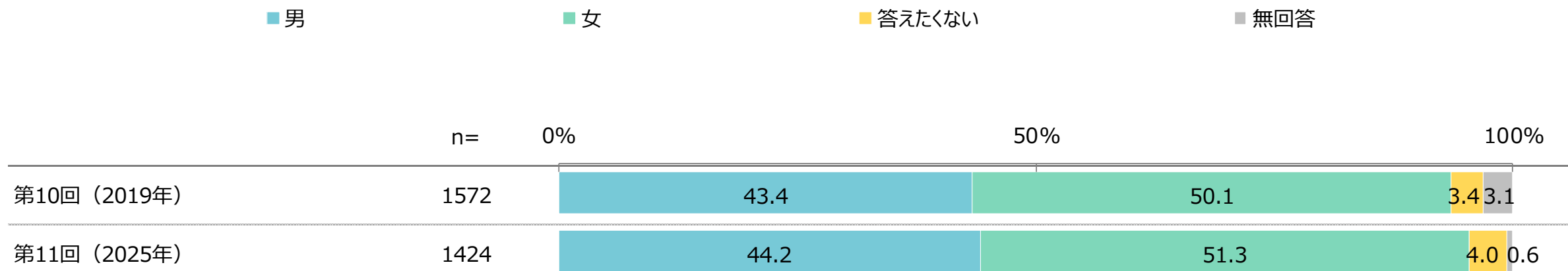


QE_1b 性別

- TOTALでは、「女」が51.3%で、「男」44.2%よりやや割合が高い。
- ジャンル別にみると、邦舞、洋舞などでは8割以上が女性。伝統演劇、演芸は8割以上が男性。

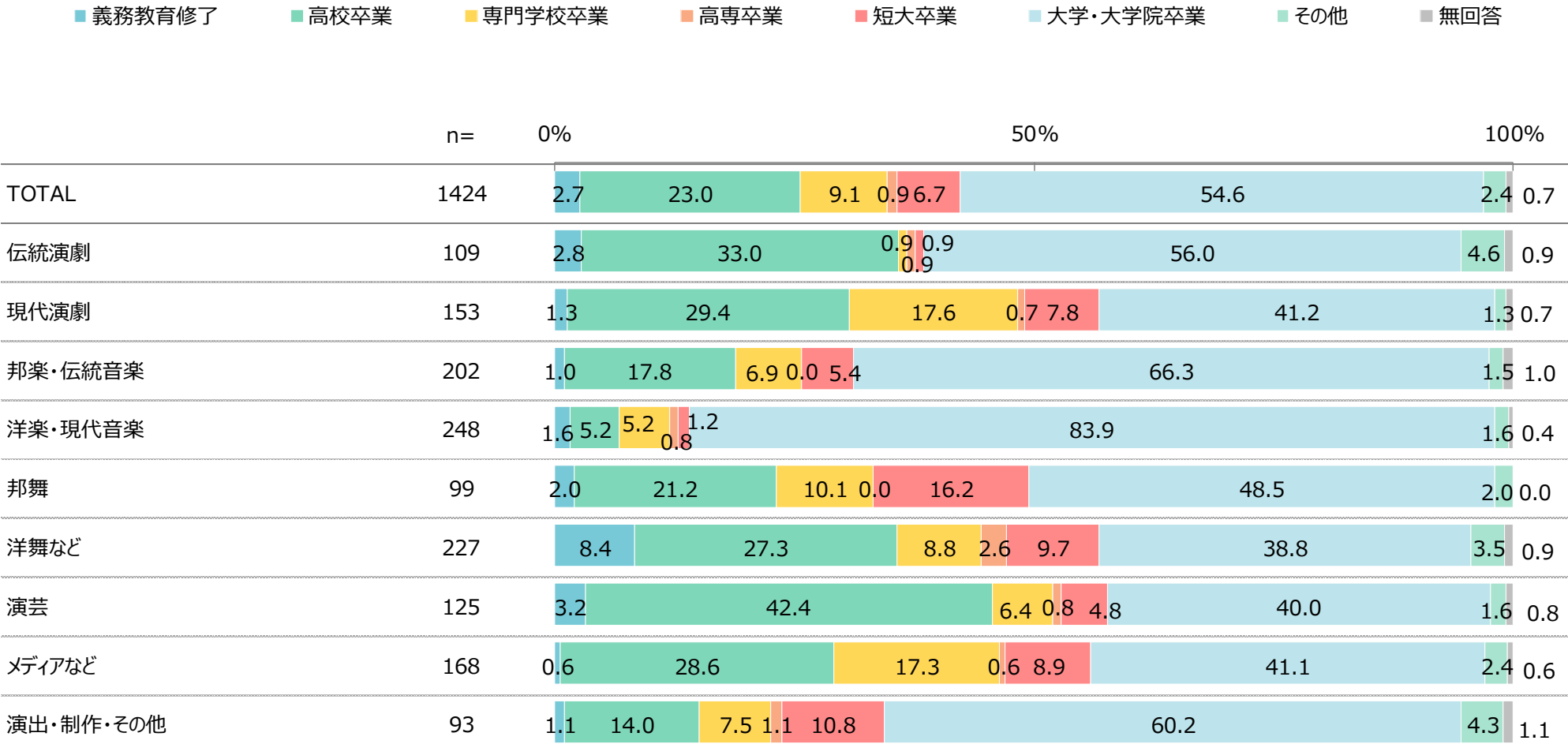


QE_1b 性別

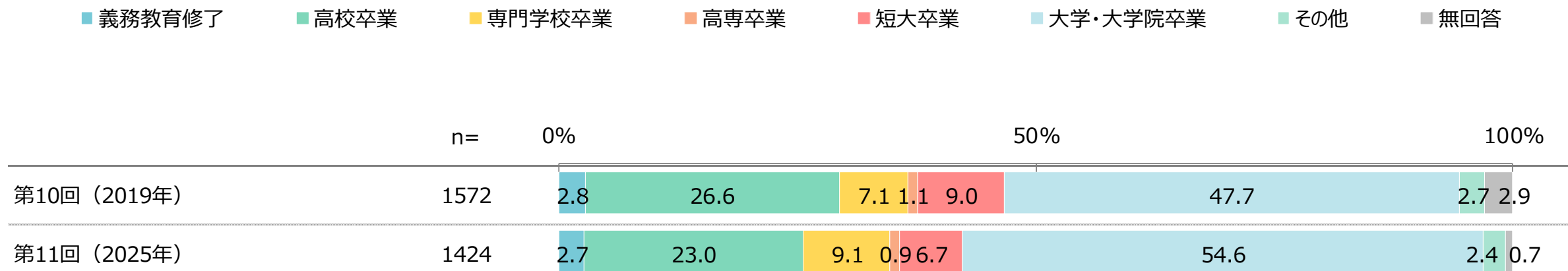


QE_2 最終学歴

- TOTALでは、「大学・大学院卒業」が最も高く、54.6%。「高校卒業」23.0%、「専門学校卒業」9.1%が続く。

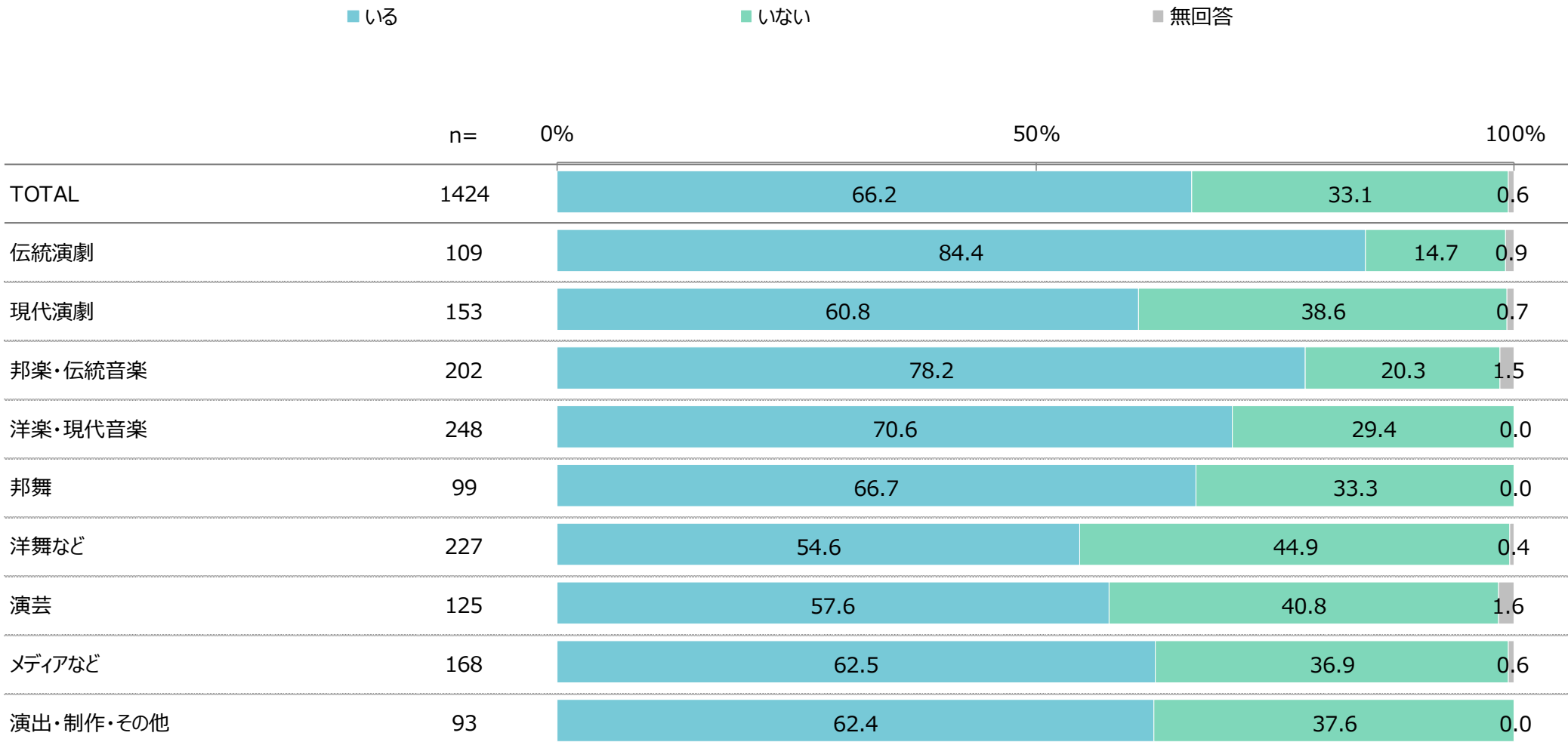


QE_2 最終学歴



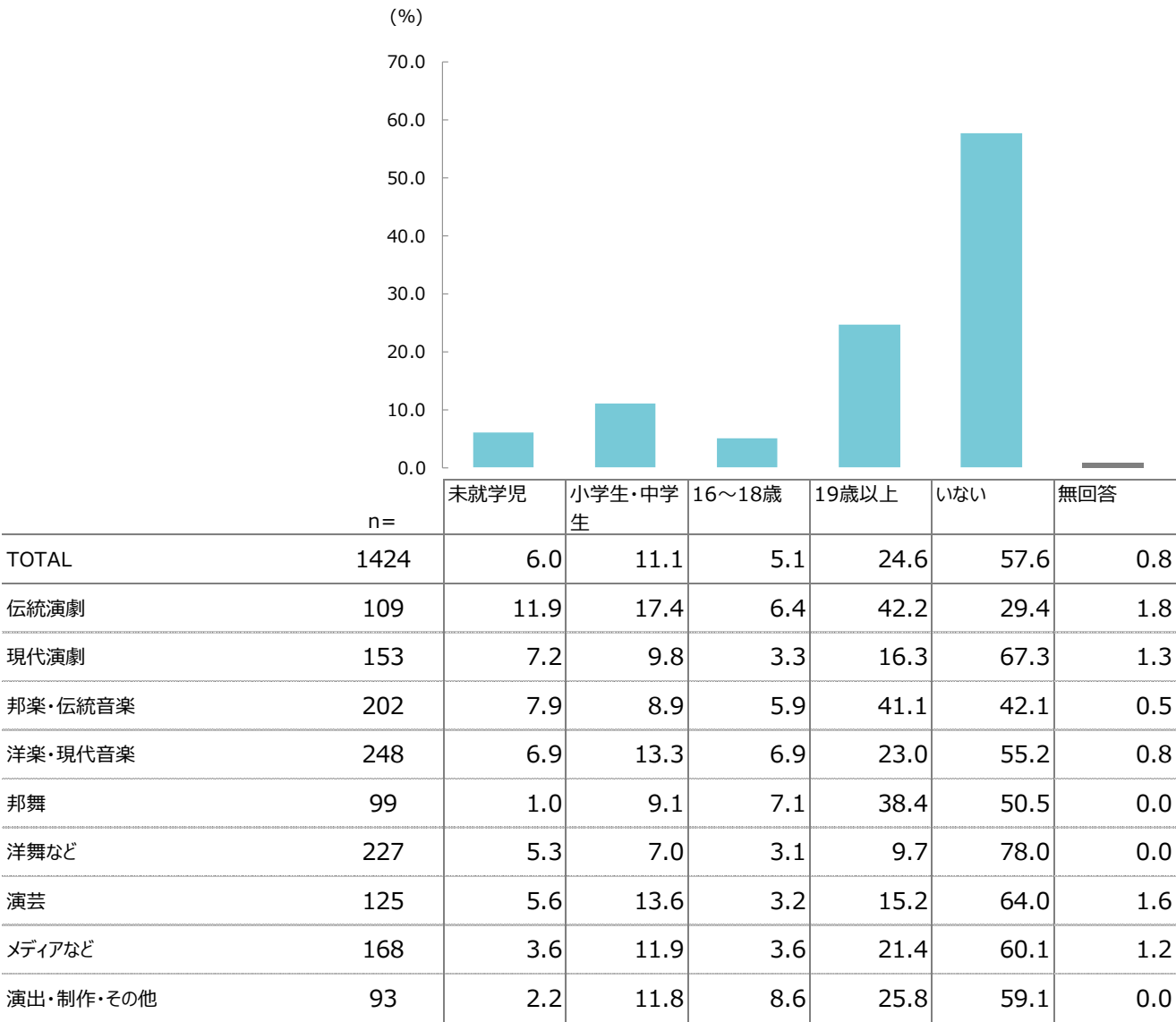
QE_3a 現在、生計を同じくする家族の有無

- TOTALでは、「いる」が最も高く、66.2%。「いない」33.1%が続く。



QE_3b 子供の有無・子供の年代（MA）

- TOTALでは、「19歳以上」が最も高く、24.6%。「小学生・中学生」11.1%、「未就学児」6.0%が続く。



調査票

実演家・スタッフ共有

第11回 芸能実演家・スタッフの活動と生活実態調査

アンケートにアクセスしていただき、ありがとうございます。

「開始」ボタンを押し、回答を開始してください。

ほとんどが選択肢から選んでいただく質問です。
(平均回答時間 約20分)

【本調査に関するお問い合わせ】

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会[芸団協]

TEL:03-5353-6600(平日11時～17時)

お問合せフォーム <https://pro.form-mailer.jp/fms/5e01223351981>

ウェブサイト <https://geidankyo.or.jp/>

開始

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

ご自身と仕事との関わりについて伺います。

QA_1

あなたが現在なさっている活動として、あてはまるものすべてを選んでください。また、そのうち、あなたが主たる活動だと考えているものを一つだけ選んでください。

※回答必須

1 / 2

現在なさっている活動
(回答はいくつでも)

☐ 劇やドラマを演じる	☐ 作詞、作曲・編曲をする
☐ 声で演じる・表現する	☐ 振付け、演出、指揮などをする
☐ 唸す・読む・語るなどの芸を演じる	☐ 撮影・録音・録画を行う
☐ 楽器を演奏する	☐ 録音・録画されたものを編集する
☐ 歌・唄、謡をうたう・語る	☐ 舞台監督をする
☐ 踊る・舞う	☐ 美術、照明、音響などのプランをつくる
☐ 人形をあやつる	☐ 大道具、照明、音響などの操作をする
☐ モデルとして表現する	☐ 小道具、衣装などをつくる
☐ 司会・レポートなどを行う	☐ 企画をたてる、制作をする
☐ 教える、指導をする	☐ 主宰、団体運営・経営をする
☐ アクション指導・構成をする	☐ 劇場・ホールの管理をする
☐ 脚本、台本を書く	その他 ☐

2 / 2

主たる活動だと考えているもの
(回答は1つ)

☐ 劇やドラマを演じる	☐ 作詞、作曲・編曲をする
☐ 声で演じる・表現する	☐ 振付け、演出、指揮などをする
☐ 唸す・読む・語るなどの芸を演じる	☐ 撮影・録音・録画を行う
☐ 楽器を演奏する	☐ 録音・録画されたものを編集する
☐ 歌・唄、謡をうたう・語る	☐ 舞台監督をする
☐ 踊る・舞う	☐ 美術、照明、音響などのプランをつくる
☐ 人形をあやつる	☐ 大道具、照明、音響などの操作をする
☐ モデルとして表現する	☐ 小道具、衣装などをつくる
☐ 司会・レポートなどを行う	☐ 企画をたてる、制作をする
☐ 教える、指導をする	☐ 主宰、団体運営・経営をする
☐ アクション指導・構成をする	☐ 劇場・ホールの管理をする
☐ 脚本、台本を書く	その他 ☐

QA_2

現在あなた自身が携わっている分野をすべて選んでください。また、そのうちあなたが主たる分野だと考えているものを一つだけ選んでください。分野を横断して活動している方は、携わることが一番多い分野を選んでください。

※回答必須

1 / 2

あなた自身が携わっている分野
(回答はいくつでも)

《伝統演劇》

☐ 能楽

☐ 組踊

☐ 人形浄瑠璃・文楽

☐ 歌舞伎

《現代演劇》

☐ 現代演劇・新劇

☐ 人形劇

☐ 商業演劇

☐ 影絵

☐ 小劇場系演劇

☐ ミュージカル

☐ 児童・青少年演劇

《伝統音楽・和楽器》

☐ 雅楽

☐ 長唄

☐ 琵琶

☐ 囃子

☐ 義太夫

☐ 小唄

☐ 常磐津

☐ 三曲

☐ 清元

☐ 民謡

☐ 新内

☐ 琉球古典音楽

☐ 古曲

☐ その他和楽器を使用した音楽

《洋楽・現代音楽》

☐ オーケストラ・吹奏楽

☐ J-POP・フォーク

☐ 室内楽

☐ ロック・ソウル・R&B

☐ オペラ・オペレッタ

☐ ダンス・ヒップホップミュージック

☐ 合唱

☐ 民族音楽

☐ ソロ（演奏）

☐ 演歌・流行歌

☐ ソロ（歌唱）

☐ その他の洋楽・現代音楽

☐ ジャズ

《邦舞》

☐ 日本舞踊

☐ 琉球舞踊

《洋舞など》

☐ バレエ

☐ フラメンコ

☐ 現代舞踊・コンテンポラリーダンス

☐ ベリーダンス

☐ ジャズダンス

☐ パントマイム

☐ 児童舞踊

☐ パフォーマンス

☐ 舞踏

☐ その他の舞踊

《演芸》

☐ 落語

☐ 奇術

☐ 講談

☐ 曲芸・太神楽

☐ 浪曲

☐ クラウン

☐ 漫才

☐ 物真似

☐ 漫談

☐ 司会

《メディアなど》

☐ 映画

☐ インターネットTV・配信

☐ 放送（テレビ、ラジオ等）・スタジオ

☐ CM

☐ 録音・スタジオ録画

☐ ナレーション

☐ ビデオ、DVD

☐ ショー・イベント・プロモーション

☐ 外国映画、アニメ

☐ モデル

☐ ミュージックビデオ

その他
☐

QA_2	現在あなたが携わっている分野をすべて選んでください。また、そのうちあなたが主たる分野だと考えているものを一つだけ選んでください。分野を横断して活動している方は、携わることが一番多い分野を選んでください。
------	---

※回答必須

2 / 2

主たる分野だと考えているもの (回答は1つ)

《伝統演劇》	
☐ 能楽	☐ 組踊
☐ 人形浄瑠璃・文楽	☐ 歌舞伎

《現代演劇》	
☐ 現代演劇・新劇	☐ 人形劇
☐ 商業演劇	☐ 影絵
☐ 小劇場系演劇	☐ ミュージカル
☐ 児童・青少年演劇	

《伝統音楽・和楽器》	
☐ 雅楽	☐ 長唄
☐ 琵琶	☐ 囃子
☐ 義太夫	☐ 小唄
☐ 常磐津	☐ 三曲
☐ 清元	☐ 民謡
☐ 新内	☐ 琉球古典音楽
☐ 古曲	☐ その他和楽器を使用した音楽

《洋楽・現代音楽》	
☐ オーケストラ・吹奏楽	☐ J-POP・フォーク
☐ 室内楽	☐ ロック・ソウル・R&B
☐ オペラ・オペレッタ	☐ ダンス・ヒップホップミュージック
☐ 合唱	☐ 民族音楽
☐ ソロ（演奏）	☐ 演歌・流行歌
☐ ソロ（歌唱）	☐ その他の洋楽・現代音楽
☐ ジャズ	☐

《邦舞》	
☐ 日本舞踊	☐ 琉球舞踊

《洋舞など》	
☐ バレエ	☐ フラメンコ
☐ 現代舞踊・コンテンポラリーダンス	☐ ベリーダンス
☐ ジャズダンス	☐ バントマイム
☐ 児童舞踊	☐ パフォーマンス
☐ 舞踏	☐ その他の舞踊

《演芸》	
☐ 落語	☐ 奇術
☐ 講談	☐ 曲芸・太神楽
☐ 浪曲	☐ クラウン
☐ 漫才	☐ 物真似
☐ 漫談	☐ 司会

《メディアなど》	
☐ 映画	☐ インターネットTV・配信
☐ 放送（テレビ、ラジオ等）・スタジオ	☐ CM
☐ 録音・スタジオ録画	☐ ナレーション
☐ ビデオ、DVD	☐ ショー・イベント・プロモーション
☐ 外国映画、アニメ	☐ モデル
☐ ミュージックビデオ	

その他	
☐	

あなたの芸歴、活動年数について伺います。

QA_3	いまの活動分野に関わり始めてから何年ですか。習いはじめ、養成期間を含む年数を入力してください。また、出演料、教授料など報酬を得るようになってから何年ですか。
------	--

※1年未満の場合は「1年0カ月」と入力してください。

活動分野に関わり始めてからの年数

	年
----------------------	---

	カ月
----------------------	----

報酬を得るようになってからの年数

	年
----------------------	---

	カ月
----------------------	----

ご自身のお仕事について伺います。

QB_1	次のうち、あなたが所属している集団、流派、組織等は何ですか。あてはまるものすべてを選んでください。また、選択したもののうち、あなたと最も関係の深いものを一つ選んでください。
------	--

1 / 2

所属している集団、流派、組織等 (回答はいくつでも)

☐ 劇団、舞踊団・バレエ団、オペラ団、合唱団、オーケストラ、バンドなどの公演創造集団
☐ 映画会社、興行会社、企画制作会社、音響・照明会社など
☐ 俳優、音楽、芸能などのマネジメント事務所、プロダクション
☐ 職能・分野ごとの協会・連盟・組合など
☐ 芸を継承する流派・一門・社中
☐ ライブハウス、クラブ、キャバレーなどの商業施設
☐ 教室、研修所、学校などの教育機関
☐ 劇場、音楽堂、コンサートホールなどの文化施設

2 / 2

最も関係の深いもの (回答は1つ)

☐ 劇団、舞踊団・バレエ団、オペラ団、合唱団、オーケストラ、バンドなどの公演創造集団
☐ 映画会社、興行会社、企画制作会社、音響・照明会社など
☐ 俳優、音楽、芸能などのマネジメント事務所、プロダクション
☐ 職能・分野ごとの協会・連盟・組合など
☐ 芸を継承する流派・一門・社中
☐ ライブハウス、クラブ、キャバレーなどの商業施設
☐ 教室、研修所、学校などの教育機関
☐ 劇場、音楽堂、コンサートホールなどの文化施設

QB_2	あなたが昨年1年間（2024年1月から12月末まで）に行なった芸能に関わる仕事と、それ以外の仕事について、あてはまるものすべてを選んでください。また、昨年1年間にそれぞれのお仕事にあなたが費やしたおおよその日数をお答えください。
------	--

※1日の活動時間が数十分～数時間程度の仕事でも「1日」としてカウントしてください。

芸能に関わる仕事	
☐ 舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業（本番）・・・	日
☐ 舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントのための稽古（リハーサル、移動日を含む）・・・	日
☐ 映画・放送・メディア、雑誌などの仕事 （テレビ・ラジオ出演・演奏、アテレコ、ビデオ出演、レコーディング、CM撮影、雑誌などのインタビューなど）・・・	日
☐ 「映画・放送・メディア、雑誌などの仕事」のうち、インターネット（Netflixなど）で配信される独自番組の収録　・・・	日
☐ 映画・放送・メディア、雑誌などの仕事のための稽古（リハーサル、移動日を含む）・・・	日
☐ 振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザインなど（自宅などで個人での作業を含む）・・・	日
☐ 企画・プロデュース・制作　・・・	日
☐ 教える・指導する仕事　・・・	日
☐ 芸能に関連するその他の活動（関連する講演、執筆、スタッフや組織などでの活動）・・・	日
☐ 技能を維持するための研鑽、トレーニング、仕事に必要なリサーチ、研究など　・・・	日

芸能活動以外の仕事	
☐ 芸能活動以外の仕事（事業経営、パート・アルバイトなど）・・・	日

昨年1年間の芸能に関わる仕事として「教える・指導する仕事」を選んだ方にのみお伺いします。

QB_3a	あなたがなされている「教える・指導する仕事」について、あてはまるものすべてを選んでください。
-------	--

☐ 学校や教室、養成機関に勤めて定期的・恒常的に教えている
☐ 自分で教室を主宰したり、弟子をとって教えている
☐ 不定期で、学校・教室・教育機関での指導などを依頼される
☐ 不定期で、ワークショップ等で体験指導などを依頼される

教える・指導する仕事について、「学校や教室、養成機関に勤めて定期的・恒常的に教えている」を選んだ方にのみお伺いします。

QB_3b	あなたが勤めているのはどんなところですか。あてはまるものすべてを選んでください。
-------	--

☐ 大学・大学院・短大・専門学校
☐ 小学校・中学校・高校
☐ 幼稚園、保育園
☐ 劇団、舞踊団、プロダクションなどの付属養成機関
☐ 民間のカルチャースクール、音楽教室等
☐ 個人が主催する音楽教室、バレエ教室等
☐ 企業や劇場などの法人からの依頼
☐ 自治体が主催のもの

QB_4	あなた個人の昨年1年間（2024年1月から12月末まで）の税込みの総収入（芸能以外の仕事による収入も含む）はおおよそいくらでしたか。
------	--

☐ 100万円未満	☐ 1200～1300万円未満
☐ 100～200万円未満	☐ 1300～1400万円未満
☐ 200～300万円未満	☐ 1400～1500万円未満
☐ 300～400万円未満	☐ 1500～1600万円未満
☐ 400～500万円未満	☐ 1600～1700万円未満
☐ 500～600万円未満	☐ 1700～1800万円未満
☐ 600～700万円未満	☐ 1800～1900万円未満
☐ 700～800万円未満	☐ 1900～2000万円未満
☐ 800～900万円未満	☐ 2000～2500万円未満
☐ 900～1000万円未満	☐ 2500～3000万円未満
☐ 1000～1100万円未満	☐ 3000万円以上
☐ 1100～1200万円未満	

QB_5	あなた個人の昨年1年間（2024年1月から12月末まで）の年収を、仕事の種類別に分けると、どのような割合になりますか。おおよその割合を入力してください。
------	--

※すべての項目の合計が100になるようにお答えください。該当しない仕事には「0」（ゼロ）を入力してください。小数点以下、四捨五入。

舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業
%

映画・放送・メディアの出演・スタッフ業
%

振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザイン、企画・プロデュース・制作
%

教える・指導する仕事
%

原稿料、著作権料、著作隣接権利
%

芸能に関連するその他の仕事
%

不動産、その他の事業経営
%

年金
%

上記以外の収入（芸能に関連しない仕事を含む）
%

合計： _____

QB_6 あなたが得ている報酬を、形式別に分けると、どのような割合になりますか(芸能以外の収入も含む)。おおよその数字を欄内に入力してください。

※すべての項目の合計が100になるようにお答えください。該当しない仕事には「0」(ゼロ)を入力してください。小数点以下、四捨五入。

雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金

%

業務委託による、年俸などのあらかじめ決められた報酬

%

業務委託による、仕事に応じて支払われる報酬
(月間・年間であらかじめ金額が決められてはいない報酬)

%

事業運営による収入(自らが主催)

%

会社経営による報酬

%

その他(著作権料・著作権接権料、不動産、年金など)

%

合計: _____

仕事をするうえでの環境や条件について伺います。

2023年10月にインボイス制度が導入され、2024年11月にはフリーランス・事業者間取引適正化等法(フリーランス法)が施行されました。これらの制度によるご自身の活動への影響を伺います。

※「インボイス制度」「フリーランス・事業者間取引適正化等法」のリンクをクリックすると、それぞれの説明文が別画面で表示されます。

「雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金」以外の報酬を得ているとお答えの方にお伺いします。

QC_1a インボイス制度の導入以前は、課税事業者でしたか。

※「インボイス制度」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

- ☐ 課税事業者だった
- ☐ 免税事業者だった

インボイス制度導入以前は「免税事業者だった」と答えた方のみにお伺いします。

QC_1b インボイス制度導入を受けて、適格請求書発行事業者登録(課税事業者に転換)をしましたか。

※「インボイス制度」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

- ☐ した
- ☐ していない(免税事業者のまま)

インボイス制度導入後、適格請求書発行事業者登録を「していない(免税事業者のまま)」と答えた方のみにお伺いします。

QC_1c 適格請求書発行事業者の登録をしていない理由は何ですか。当てはまるものすべてを選んでください。

- ☐ 税負担が増えると活動継続が難しい
- ☐ 事務作業が煩雑になるから
- ☐ 仕事相手の対応も含めて様子を見ている
- ☐ 経過措置期間は様子を見るつもり
- ☐ 特に必要性を感じない
- ☐ 制度に反対だから
- ☐ これから登録する予定である

QC_2 インボイス制度の導入によって芸能活動への影響はありましたか。とくに当てはまるものを3つまで選んでください。

※「インボイス制度」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

- ☐ 特に影響は感じない
- ☐ 適格請求書発行事業者かどうかを事前に確認するようになった
- ☐ 価格や報酬の交渉が増えた
- ☐ 消費税の負担によって事実上の収益減となった
- ☐ 事務負担が増えた
- ☐ 消費税分の報酬が減額された
- ☐ 適格請求書発行事業者登録するよう依頼元から圧力がある
- ☐ 仕事の依頼が増えた
- ☐ 継続的な依頼が減った
- ☐ 新規の依頼が減った
- ☐ 依頼先への説明が大変になった
- ☐ 適格請求書発行事業者登録をしていない人への依頼は控えるようになった

2023年10月にインボイス制度が導入され、2024年11月にはフリーランス・事業者間取引適正化等法(フリーランス法)が施行されました。これらの制度によるご自身の活動への影響を伺います。

QC_3 2024年11月に「フリーランス・事業者間取引適正化等法」(通称:フリーランス法)が施行されたことを知っていますか。

※「インボイス制度」「フリーランス・事業者間取引適正化等法」のリンクをクリックすると、それぞれ説明文が別画面で表示されます。

- ☐ 法律の内容も理解している
- ☐ 名前は知っているが内容は知らない
- ☐ 知らない
- ☐ 自分には関係がないと思う

以下の質問では、個人で仕事をしている人、団体や事務所に所属していても雇用関係ではない働き方の人たちを「**個人事業者**」という表記にしています。

QC_4	あなたは、個人事業者として受注する側（報酬等を受け取る側）、個人事業者へ発注する側（報酬等を支払う側）、どちらの立場になりますか。
☐ 報酬等を受け取る側（受注者） ☐ 報酬等を支払う側（依頼者・発注者） ☐ 場合によってどちらにもなる ☐ どちらにも当てはまらない	

個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_5	直近で受けた仕事について、依頼される際に仕事内容や条件はどのような形式で知らされましたか。当てはまるものすべてを選んでください。
☐ メール、SNS ☐ FAX ☐ 電話・口頭 ☐ 書面による依頼文・通知書、日程表など ☐ 契約書	

個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_6	仕事を依頼される際に、文書による事前通知、契約が増えましたか。
☐ 増えた ☐ 減った ☐ 変わらない	

個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_7	直近で受けた仕事について、依頼される際にどのような内容が事前に知らされましたか。当てはまるものすべてを選んでください。
☐ 実施日などのスケジュール ☐ 具体的な仕事内容 ☐ 報酬額 ☐ 報酬の支払予定日 ☐ 実施場所 ☐ 自身が経費負担する部分 ☐ 著作権などの権利関係 ☐ 仕事内容に関する情報公開・発信についての条件 ☐ 仕事が中止となった場合のキャンセル料 ☐ 仕事上で怪我をした場合の補償の有無 ☐ ハラスメント等の相談可否	

個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_8a	フリーランス法の施行後（2024年11月以降）に、変化したことはありますか。依頼される側の立場で、あてはまるものすべてを選んでください。
-------	--

※「フリーランス法」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

☐ 仕事内容が具体的に明示されるようになった	☐ 依頼主からの一方的な変更が減った
☐ 実施日などのスケジュールが明示されるようになった	☐ 育児・介護等への配慮がされるようになった
☐ 報酬が事前に示されるようになった	☐ ハラスメント対策がされるようになった
☐ 支払期日が明示されるようになった	☐ 仕事が中止になった場合のキャンセル料が明示されるようになった
☐ 実施場所が明示されるようになった	☐ 怪我をした場合の補償の有無が明示されるようになった
☐ 自身が経費負担する部分が明示されるようになった	☐ 不利な内容が一方的に示されるようになった
☐ 仕事内容に関する情報公開・発信についての条件が明示されるようになった	☐ 依頼主との交渉は難しくなった
☐ 事前に条件面を文書で示されるようになった	☐ 書面契約などの手続きが繁雑になった
☐ 著作権などの権利関係が明示されるようになった	☐ これまでの取引先からの業務委託が減った
☐ 期日通りの報酬支払いが増えた	☐ まだ具体的な変化はわからない
☐ 詳細の確認や交渉がしやすくなった	☐ 何も変わっていない

個人事業者の立場として「報酬等を支払う側（依頼者・発注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_8b	フリーランス法の施行後（2024年11月以降）に、変化したことはありますか。依頼する側の立場で、あてはまるものすべてを選んでください。
-------	---

※「フリーランス法」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

☐ 事前に仕事内容を具体的に明示するようになった	☐ 一方的な条件変更はしないよう注意するようになった
☐ 実施日などのスケジュールを明示するようになった	☐ 育児・介護等への配慮をするようになった
☐ 報酬を事前に示すようになった	☐ ハラスメント対策をするようになった
☐ 支払期日を明示するようになった	☐ 仕事が中止になった場合のキャンセル料を明示するようになった
☐ 実施場所を明示するようになった	☐ 怪我をした場合の補償の有無を明示するようになった
☐ 依頼先の個人が経費負担する部分を明示するようになった	☐ 依頼先からの条件確認や交渉が増えた
☐ 仕事内容に関する情報公開・発信についての条件を明示するようになった	☐ 書面契約などの事務手続きが繁雑になった
☐ 事前に条件面を文書で示すようになった	☐ まだ具体的な変化は感じていない
☐ 著作権などの権利関係を明示するようになった	☐ 何も変わっていない
☐ 期日通りに報酬支払いするようになった	

仕事や生活に対する意識について伺います。

QD_1	仕事の機会は、2019年(コロナ禍前)と比べて増えましたか、減っていますか。
------	--

1/8

舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

2/8

映画・放送・メディアの仕事

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

3/8

インターネット配信される動画コンテンツの仕事

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

4/8

振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザインなど

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

5/8

企画・プロデュース・制作

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

6/8

教える仕事（ワークショップ・体験指導も含む）

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

7/8

芸能に関連するその他の活動

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

8/8

芸能活動以外の仕事

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

QD_2	2024年の芸能活動からの収入は、2019年(コロナ禍前)と比べて増えましたか、減っていますか。
------	--

☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ 75%程度に減った
☐ 50%程度に減った
☐ 25%程度に減った
☐ 活動はしているが収入はなくなった
☐ 芸能活動はやめた

QD_3	2020年以降の芸能活動について、そうだと思うものをすべてを選んでください。
------	--

☐ オンライン配信が増えた
☐ SNSやブログなどの活用が増えた
☐ 海外からの反響が増えた
☐ 同業者が増えた
☐ 同業者が減った
☐ 新しく業界に入る人が増えた
☐ 新しく業界に入る人が減った
☐ 新たな観客層が広がった、増えた
☐ 観客が減った
☐ 弟子・教え子が増えた
☐ 弟子・教え子が減った
☐ 仕事と収入の変動が激しく、補償の仕組みがないこと、地位が不安定であることを痛感した
☐ とくに当てはまるものはない

QD_4 仕事や環境についてどう捉えていますか。

1/10

自分の仕事は世の中から評価されている

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

2/10

自分の能力を十分発揮できている

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

3/10

仕事に誇りを持っている

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

4/10

仕事量・機会には満足している

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

5/10

自分のジャンルは、これからも発展していくと思う

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

6/10

自分のジャンルでは後継者不足の心配はない

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

7/10

生の舞台・公演はこれからも活況だと思う

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

8/10

自分がやりたくないと思う仕事は断ることができる

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

9/10

生活との両立のために拘束時間などの改革が必要だ

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

10/10

ハラスメントが減った／ハラスメントの不安が減った

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

QD_5a 10年後も今の仕事を続けたいと思いますか。

☐ はい

☐ いいえ

☐ わからない

10年後も今の仕事を続けたいかを「いいえ」「わからない」と回答した方のみに伺います。

QD_5b 10年後は今の仕事を続けていないかもしれないと思う理由は何ですか。特にそうだと思うものを3つまで選んでください。

☐ 年齢的に

☐ 体力的に

☐ 収入が低い、不安定だから

☐ 有期契約・有期雇用だから

☐ 人間関係が厳しい

☐ 契約・所属先が不安定だから

☐ 仕事の依頼が減っているから

☐ 弟子・生徒数が減っているから

☐ 育児・介護など家庭の事情で

QD_5C 今の仕事を続けている理由は何ですか。(自由記述)

QD_6 技術・技能を向上させるための支援として、とくに必要だと思うものを3つまで選んでください。

☐ 個人稽古・レッスン会場の確保

☐ 研修・レッスンの機会の充実

☐ 研修・レッスンの奨励金・受講料補助

☐ 実演や技能を披露する機会（公演など）の充実

☐ 様々な仕事へ従事する機会の充実

☐ 楽器や小道具など専門品の購入費補助

☐ 専門的な情報の提供

☐ 専門家同士のネットワーク構築、人脈づくり

☐ 専門家としての技能・技術等の認定制度

☐ 当てはまるものはない

QD_7 安心して芸能活動に取り組むために必要なことはなんですか。とくに当てはまるものを3つまで選んでください。

☐	報酬等の条件向上
☐	発表・出演機会の充実
☐	公的支援（財政資金・税制）の充実
☐	社会保険料の負担軽減
☐	年金の充実
☐	病気やケガの治療費補助
☐	不定期・断続的な働き方による仕事がない時の所得補償
☐	育児・介護・ケガ・病気による働けない時の所得補償
☐	労災保険特別加入費の負担軽減
☐	ハラスメントなどの相談窓口
☐	創造現場の安全衛生の向上
☐	芸能分野の働き方に対する社会的理解の促進
☐	実演家・芸術家としての職業や身分の証明
☐	当てはまるものはない

QD_8 協会・連盟・組合などの会員組織に期待する役割は何ですか。とくに当てはまるものを3つまで選んでください。

☐	仕事の提供
☐	次世代の育成
☐	仕事環境の改善につながる政策提言
☐	不安定な仕事の収入を補うセーフティネット制度
☐	稽古場・リハーサル会場を安価に提供すること
☐	仕事の条件交渉の後押し
☐	研修機会の提供
☐	同業者のネットワーク構築
☐	専門分野の最新動向などの情報提供・相談
☐	ハラスメントや契約などあらゆる相談の窓口
☐	当てはまるものはない

QD_9 万が一のケガや病気、老後に備えるために、加入、適用されている制度についてお答えください。

《健康保険》	
☐	雇用されているので職場の健康保険（組合健保、協会けんぽ、共済組合）に加入している
☐	家族の健康保険の被扶に入っている（自分では払っていない）
☐	居住地の国民健康保険に加入している
☐	東京芸能人国民健康組合、文芸美術国民健康保険組合等の国民健康保険組合に加入している

《年金》	
☐	雇用されているので厚生年金に加入している
☐	家族の厚生年金の扶養に入っている（自分では払っていない）
☐	国民年金に加入している

《労災保険・雇用保険など》	
☐	雇用されているので労災保険が適用される
☐	雇用されているので雇用保険が適用される
☐	雇用ではないが、所属団体が民間の保険（疾病・所得補償など）に入れてくれている
☐	個人で、民間の所得補償保険に加入している

その他	
☐	公的な社会保険は何も入っていない
☐	個人で、民間の医療保険、生命保険、収入保障保険、個人年金保険などに加入している
☐	わからない

QD_10a 仕事上のケガ、病気、死亡などを補償する**労災保険特別加入制度**に入っていますか。

※「労災保険特別加入制度」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。
※雇用主が加入する労災保険とは異なります。

☐	特別加入制度を知っていて、加入している
☐	特別加入制度を知っているが、加入していない
☐	特別加入制度を知らない

「特別加入制度を知っているが、加入していない」と答えた方に伺います。

QD_10b **労災保険特別加入**に入らない理由は何ですか。当てはまるものすべてを選んでください。

※「労災保険特別加入」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

☐	保険料・手数料の全額自己負担は納得できない
☐	保険料・手数料の全額自己負担は経済的に厳しい
☐	仕事上でケガや病気をするのは無いと思う
☐	どの団体を通じて加入するのが良いのか分からない
☐	仕事の仕方が業務委託ではないため加入対象にならない
☐	必要性を感じない
☐	所属団体に労災保険に入っている

QD_11	実演家やスタッフが安心して働くことができるよう、個人負担を軽減して労災保険に加入しやすくするため、事業者（発注者）を含めた業界全体でつくる「 芸術家のための互助プラットフォーム 」（芸能関係作業従事者対象の労災保険特別加入団体の新規設立）が検討されています。この互助プラットフォームが実現された場合、加入したいと思いますか。
-------	--

※「芸術家のための互助プラットフォーム」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

☐	はい
☐	いいえ
☐	詳しく知りたい

あなたご自身のことについて伺います。

QE_1a	あなたの年齢を入力してください。
-------	------------------

	歳
----------------------	---

QE_1b	あなたの性別を選んでください。
-------	-----------------

☐	男
☐	女
☐	答えたくない

QE_2	あなたの最終学歴を選んでください。
------	-------------------

☐	義務教育修了
☐	高校卒業
☐	専門学校卒業
☐	高専卒業
☐	短大卒業
☐	大学・大学院卒業
☐	その他

QE_3a	現在、生計を同じくするご家族などはいらっしゃいますか。
-------	-----------------------------

☐	いる
☐	いない

QE_3b	お子様はいらっしゃいますか。
-------	----------------

☐	未就学児
☐	小学生・中学生
☐	16～18歳
☐	19歳以上
☐	いない

ご回答ありがとうございました。
第11回「芸能実演家・スタッフの活動と生活実態調査」について、お問い合わせは下記までお願いします。

【お問い合わせ】
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会〔芸団協〕
TEL:03-5353-6800（平日11時～17時）
お問合せフォーム <https://pro.form-mailer.jp/fms/5e01223351981>
ウェブサイト <https://eidankyo.or.jp/>